

原 遺 跡 1 8 次

－福岡県太宰府市大字太宰府・三条1丁目所在原遺跡18次調査報告書－
福岡県文化財調査報告書第219集

2 0 0 8

福岡県教育委員会

原川砂防事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

原 遺 跡 1 8 次

—福岡県太宰府市大字太宰府・三条1丁目所在原遺跡18次調査報告書—
福岡県文化財調査報告書第219集

2 0 0 8

福岡県教育委員会



1号建物跡（南から）



1. 調査区遠景（南から）



2. 2号建物跡（南から）



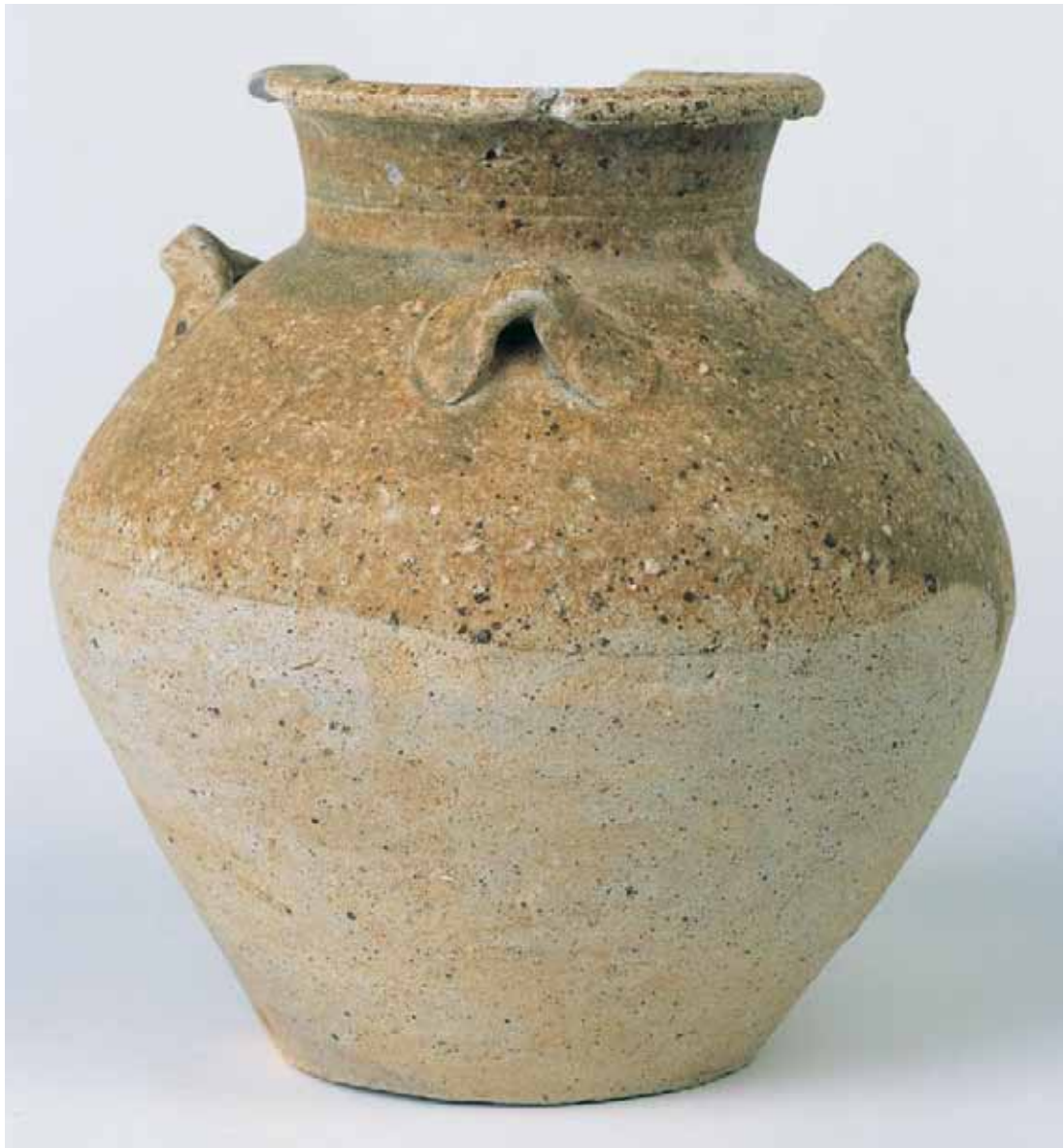
1. 2号建物跡北西隅（北東から）



2. 板碑発掘前（南から）



3. 板碑発掘状況（南東から）



SS251 西端ピット出土黄褐釉陶器壺

序

本書は福岡県土木部那珂土木事務所による原川筋砂防ダム建設に伴い発掘調査を実施した、福岡県太宰府市三条1丁目・大字太宰府に所在する、原遺跡18次の発掘調査報告書です。

原遺跡は中世に栄え、この地域の歴史に名を残す原山無量寺跡と推定される遺跡です。本調査では、原山無量寺の創建時期に遡る11世紀の建物跡を検出し、正平23(1368)年銘梵字板碑を調査するなど、地域の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができました。

平成15年7月豪雨の二次災害を防ぐための砂防ダム建設という事業の緊急性のため、調査期間等の制約があり、満足な発掘調査であったとは言えませんが、本報告書が、「太宰府学」の充実や、学校教育・生涯学習の一資料として活用されれば幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただき関係者の皆様及び関係諸機関の皆様に深く感謝します。

平成20年3月31日

福岡県教育委員会
教育長 森山 良一

例 言

1. 本書は平成 18・19 年度に福岡県教育委員会が原川砂防ダム 4 号堰堤建設事業に先立って発掘調査を実施した福岡県太宰府市大字太宰府、三条 1 丁目に所在する原遺跡第 18 次発掘調査の報告書である。なお、調査次数は太宰府市教育委員会の調査と連番としている。
2. 本書に掲載した遺構写真は調査担当者が撮影し、空中写真は有限会社空中写真企画に委託した。遺物写真は北岡伸一が撮影した。
3. 掲載した遺構図は調査担当者の他に、古賀千都子、古賀滝子、井上ヤス子、堤田貴利枝の協力を得た。遺物は平田春美、棚町陽子、久富美智子、田中典子、坂田順子、橋之口雅子、堀江圭子、若松三枝子、寺岡和子、中川陽子、中川洋子、栗林明美と重藤輝行が実測した。
4. 製図は豊福弥生・原カヨ子・江上佳子・重藤が行い、土山真弓美・安永啓子・山田智子・辻清子がこれを補助した。
5. 使用した方位は座標北である。
6. 本書の執筆・編集は重藤が担当した。
7. 出土遺物及び調査の記録類は九州歴史資料館及び福岡県教育庁文化財保護課で管理している。

目 次

巻頭図版

序

例言

目次

図版目次

挿図目次

表目次

本文中写真目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査・整理報告書作成の経緯	3
第2章 遺跡の位置と環境	6
第3章 調査の内容	9
第1節 遺跡と調査の概要	9
第2節 1区の調査	9
(1) 石垣	9
(2) 土坑	18
(3) 溝	26
(4) 包含層等	29
(5) 墓	36
(6) その他の遺構出土土器・陶磁器	37
第3節 2区の調査	41
(1) 西部建物付近	42
(2) 東部第1面	52
(3) 東部第2面	55
(4) 東部第3面	58
(5) 2区南拡張区	58
(6) 2区その他の遺構出土土器・陶磁器	59
(7) 板碑	60
第4節 鉄器・石器・縄文土器	62
第4章 おわりに	64

図版

報告書抄録

図版目次

巻頭図版 1	1 号建物跡（南から）
巻頭図版 2	1. 調査区遠景（南から） 2. 2 号建物跡（南から）
巻頭図版 3	1. 2 号建物跡北西隅（北東から） 2. 板碑発掘前（南から） 3. 板碑発掘状況（南東から）
巻頭図版 4	SS251 西端ピット出土黄褐釉陶器壺
図版 1	1. 原遺跡 18 次調査区全景（南上空から） 2. 原遺跡 18 次調査区全景（南上空から） 3. 1 区北半全景（南上空から）
図版 2	1. 1 区北半全景（北上空から） 2. 1 区北東部平坦面完掘状況（北上空から） 3. 1 区北東部平坦面完掘状況（上空から）
図版 3	1. 1 区北半全景（上空から） 2. 1 区南半全景（上空から）
図版 4	1. 1 区南東部平坦面完掘状況（上空から） 2. 1 区南西部平坦面完掘状況（上空から） 3. SW14 石垣（東から）
図版 5	1. SW14 全景（南西から） 2. SW14 東半部（南西から） 3. SW14（東から） 4. SW63（西から）
図版 6	1. SW63（南から） 2. SW14 断面（南東から） 3. SW122 断面（南東から）
図版 7	1. SW122（東から） 2. SW208（南西から） 3. SW122 背後の整地層（西から）
図版 8	1. SK3（南から） 2. SK29（北から） 3. SK47（南から） 4. SK60（南から）
図版 9	1. SK77（南から） 2. SK77 北西部上面遺物出土状況（北西から） 3. SK126（北から） 4. SK194（北東から）
図版 10	1. SX66（南東から） 2. SX76 南部（東から） 3. SX108（北西から） 4. SX121（北西から）
図版 11	1. ST97（北から） 2. ST97 北側遺物出土状況（南から） 3. 2 区第 1 面完掘（東から） 4. 2 区第 1 面完掘（北東から）
図版 12	1. 2 区第 1 面完掘状況（上空から） 2. 2 区第 1 面完掘（東から）
図版 13	1. 2 区第 2 面完掘状況（東から） 2. 2 区第 2 面完掘状況（東北から） 3. 1・2 号建物跡検出状況（上空から） 4. 2 区南西壁土層
図版 14	1. 2 号建物跡（北から） 2. 2 号建物跡（西から）
図版 15	1. 2 号建物跡基壇南石列（南西から） 2. 2 号建物跡北西隅上層（北から） 3. 2 号建物跡北西隅（北東から）
図版 16	1. 2 号建物跡北西隅（西から） 2. 2 号建物跡基壇列石北西隅（北東から） 3. 2 号建物跡基壇南前面埋土堆積状況（北西から）
図版 17	1. 1 号建物跡基壇北外土層（東から） 2. 1 号建物跡基壇西外土層（南から） 3. 1 号建物跡（北から） 4. 1 号建物跡（北から）
図版 18	1. 1 号建物跡（北東から） 2. 1 号建物跡（西から）
図版 19	1. SS251 西端ピット土層（東から） 2. SS251 西端ピット壺出土状況（東から） 3. SP406 土器出土状況（西から） 4. SU418 土器出土状況（北から）
図版 20	1. SW323（南西から） 2. SX269 土層北半（南西から） 3. SX269 土層南半（南西から）
図版 21	1. 2 区板碑（南から） 2. 2 区板碑（南東から） 3. 2 区板碑掘下げ（南東から） 4. SX424（西から）
図版 22	出土土器・陶磁器（1）
図版 23	出土土器・陶磁器（2）
図版 24	1. 出土土器・陶磁器（3） 2. 鉄器 3. 縄文土器 4. 石器

挿図目次

第 1 図	原遺跡の位置と周辺の遺跡等（1／50,000）	5
-------	-------------------------	---

第2図	原遺跡調査区位置図 (1/2,500)	7
第3図	調査区周辺地形図 (1/1,000)	8
第4図	1区全体平面図 (1/200)	8-9
第5図	SW14・SW63 実測図 (1/80)	8-9
第6図	SW14・SW63 出土土器実測図 (1/3)	10
第7図	SW14 出土瓦・石鍋実測図 (1/3)	11
第8図	SW122・SW208 実測図 (1/80)	14
第9図	SW122・SW208 出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	15
第10図	SW208 出土陶器・石鍋実測図 (1/3)	17
第11図	SK3・SK29・SK47・SK60 実測図 (1/40)	18
第12図	SK69・SK77 実測図 (SK69は1/40、SK77は1/60)	19
第13図	SK47・SK69・SK77・SK126 出土土器・陶磁器実測図 (29は1/4、他は1/3)	20
第14図	SK126・SK186・SK194・SK199 実測図 (SK126・SK194は1/60、他は1/40)	22
第15図	SK194・SK199 出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	23
第16図	SK194 出土土器火鉢実測図 (1/3)	25
第17図	SD27・SD53 実測図 (SD27は1/60、SD53は1/40)	26
第18図	SD27・SD95 出土土器実測図 (1/3)	26
第19図	SD107・SD168・SD169・SD170・SD224 実測図 (SD107は1/60、他は1/40)	27
第20図	SX9・SX66・SD95・SD96 実測図 (1/80)	28
第21図	SX9・SX64・SX65 出土土器・陶磁器・瓦実測図 (1/3)	30
第22図	SX76・SX108・SX121 実測図 (SX76は1/60、他は1/80)	32
第23図	SX66・SX76・SX108 出土土器・陶磁器・石鍋・瓦実測図 (1/3)	33
第24図	SX119・SX121 出土土器・磁器・石鍋実測図 (1/3)	35
第25図	ST97 実測図 (1/30)	36
第26図	ST97 出土土器・磁器実測図 (1/3)	37
第27図	1区その他の遺構出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	38
第28図	2区第1面平面図 (1/200)	40
第29図	2区西部第2面・第3面平面図 (1/200)	41
第30図	2区西部西壁・南北トレンチ土層実測図 (1/80)	42
第31図	2号建物跡・SS421 石列実測図 (建2は1/80、SS421は1/40)	42-43
第32図	1号建物跡及び基壇石列実測図 (建1は1/80、石列は1/40)	42-43
第33図	1号建物基壇周辺土層実測図 (1/40)	44
第34図	SU418・SP406・SS251 北西ピット実測図 (1/20)	46
第35図	SS251 西端ピット・SP406 出土土器・陶器実測図 (1/3)	47
第36図	SU418 出土土器・石鍋実測図 (1/3)	47
第37図	1号・2号建物跡基壇周辺包含層出土土器・石鍋実測図 (1/3)	49
第38図	1号・2号建物跡礎石・礎石根石周辺出土土器実測図 (1/3)	49
第39図	SK414 実測図 (1/40)	51
第40図	SK414 出土土器実測図 (1/3)	52
第41図	SW323 実測図 (1/80)	52
第42図	SW323 出土土器・磁器実測図 (1/3)	53
第43図	SK293・SK301・SK325・SK379 実測図 (SK379は1/30、他は1/40)	53
第44図	SK301 出土土器実測図 (1/3)	54
第45図	SX269 土層実測図 (1/60)	55
第46図	SX269 出土土器・磁器実測図 (1/3)	57
第47図	SX269 出土石鍋実測図 (1/3)	58
第48図	2区東部第2面・第3面平面図 (1/200)	59
第49図	SK424 実測図 (1/60)	59
第50図	2区その他の遺構出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	60

第 51 図	「正平廿三年」銘梵字板碑実測図 (設置状況 1 / 30、板碑 1 / 20、拓本 1 / 8)	61
第 52 図	鉄器実測図 (1 / 2)	63
第 53 図	縄文土器・石器実測図 (7 は 1 / 2、8・9 は 1 / 3)	63

表 目 次

第 1 表	SW14・SW63 出土土器・陶磁器・瓦・石鍋観察表 (1)	12
第 2 表	SW14・SW63 出土土器・陶磁器・瓦・石鍋観察表 (2)	13
第 3 表	SW122・SW208 出土土器・陶磁器・石鍋観察表 (1)	16
第 4 表	SW122・SW208 出土土器・陶磁器・石鍋観察表 (2)	17
第 5 表	SK47・SK69・SK77・SK126 出土土器・陶磁器観察表	21
第 6 表	SK194・SK199 出土土器・陶磁器観察表 (1)	24
第 7 表	SK194・SK199 出土土器・陶磁器観察表 (2)	25
第 8 表	SD27・SD95 出土土器観察表	26
第 9 表	SX 9・SX64・SX65 出土土器・陶磁器・瓦観察表	31
第 10 表	SX66・SX76・SX108 出土土器・陶磁器・石鍋・瓦観察表	34
第 11 表	SX119・SX121 出土土器・磁器・石鍋観察表	36
第 12 表	ST97 出土土器・磁器観察表	37
第 13 表	1 区その他の遺構出土土器・陶磁器観察表	39
第 14 表	SS251 西端ピット・SP406 出土土器・陶器観察表	48
第 15 表	SU418 出土土器・石鍋観察表	48
第 16 表	1 号・2 号建物跡基壇周辺包含層出土土器・石鍋観察表	50
第 17 表	1 号・2 号建物跡礎石・礎石根石周辺出土土器観察表	51
第 18 表	SK414 出土土器観察表	52
第 19 表	SW323 出土土器・磁器観察表	54
第 20 表	SK301 出土土器観察表	54
第 21 表	SX269 出土土器・磁器・石鍋観察表 (1)	56
第 22 表	SX269 出土土器・磁器・石鍋観察表 (2)	58
第 23 表	2 区その他の遺構出土土器・陶磁器観察表	62
第 24 表	1 区遺構一覧表 (1)	66
第 25 表	1 区遺構一覧表 (2)	67
第 26 表	1 区遺構一覧表 (3)	68
第 27 表	1 区遺構一覧表 (4)	69
第 28 表	2 区遺構一覧表 (1)	70
第 29 表	2 区遺構一覧表 (2)	71
第 30 表	2 区遺構一覧表 (3)	72

本文中写真目次

発掘調査風景	4
板碑採拓状況 (1)	65
板碑採拓状況 (2)	69

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

原川は二級河川御笠川上流、太宰府市東部を流れる小河川である。御笠川は太宰府市宝満山に源流を發し、太宰府市連歌屋で原川と合流して、福岡平野の東部を北流し、福岡市博多区で博多湾に注ぐ全長 24km 程の河川である。

平成 15 年 7 月 19 日未明、太宰府市～飯塚市にかけての福岡県北部地域で梅雨末期の集中豪雨が発生し、太宰府市内では時間当たり 100mm を超える記録的な降雨量を観測した。その結果、太宰府市と宇美町・大野城市にまたがる四王寺山山麓の随所で土石流が発生し、住宅地に土砂が及ぶ被害が発生した。本書で報告する原川筋の土石流はその中でも最大のものであり、住宅を押し流し 1 名の方が亡くなるなど痛ましい災害を引き起こした。また、短時間の集中豪雨による御笠川の増水のため、大野城市・福岡市博多区等は住宅が浸水し、あふれた水は福岡市中心部にもおよび、博多駅地下街にも流入するなど都市部での被害も発生した。

この平成 15 年の豪雨災害を受けて、福岡県では御笠川流域の河川改修・砂防事業を、激甚災害特別事業として実施することとなり、原川筋においても砂防事業が計画された。既存の 1 号堰堤を浚渫・嵩上げするとともに、新規に 4 号堰堤等を建設し、四王寺山山麓の谷筋に所在し、二次災害が懸念される不安定土石塊の下流への流出を防ぐことを計画し、福岡県土木部那珂土木事務所で実施することとなった。本砂防事業に伴う潰れ地を列举すると、太宰府市大字太宰府字原 1491－7、1491－18、1492－2、1495－1、1497、1498、1482－2、1488－4、1496、太宰府市三条 1 丁目 1481－1、1499－1、1538－1、1540－1、1537－1、1537－2、1539－1、1539－2、1481－2、1482－3、1483－1、1495－2、1495－3、1499－2、1499－3、1537－3、1538－2、1539－3、1539－4、1540－2、1540－3、1540－4 となる。

ところで四王寺山の頂部は、日本書紀に登場する大野城跡に相当し、周辺の景観も含めほぼ標高 100m 以上の地域が特別史跡に指定されている。大野城跡史跡指定地は南側で史跡観世音寺境内および子院跡と接し、南西側で大野城跡と同時期に築造されたと記録される特別史跡水城跡と接している。太宰府市内においては特別史跡大宰府跡、史跡大宰府学校院跡とあわせて、古代からの景観をとどめた情緒豊かな史跡地を形成している。平成 15 年度の豪雨災害は、これら大宰府関係史跡の遺構及び史跡地内の環境にも大きな被害を及ぼし、特に大野城跡では土塁・石垣が土石流・法面崩壊等により毀損するなど被害が甚大であった。

原川筋 4 号砂防堰堤は四王寺山の東南側山麓に位置し、鎌倉時代を中心として栄えた原山無量寺跡（原八坊跡、太宰府市登録名は原遺跡）の範囲内に推定されるとともに、予定地の西半には特別史跡大野城跡の史跡地縁辺部が含まれていた。

そこで、4 号砂防堰堤の計画策定に伴い、那珂土木事務所、特別史跡大野城跡の管理団体である太宰府市の教育委員会文化財課、大宰府関係史跡を初めとする福岡県内の重要大規模遺跡の保存・活用とともに、平成 15 年 7 月豪雨に伴う特別史跡大野城跡の災害復旧事業を関連市町教育委員会と連携して実施する福岡県教育庁文化財課大規模遺跡対策・災害復旧班とで、史跡地及び周知の埋蔵文化財包蔵地内の取り扱いについて協議を重ねた。

協議の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地については記録保存のための調査を実施するとともに、史跡地内は確認調査を実施して、大野城跡を構成する本質的な遺構が検出された場合は、可能な限り

工法を変更して保存すべく検討するという方針を立てた。そこで、平成 17 年 11 月 24 付けで史跡の現状変更許可申請書が那珂土木事務所から文化庁長官あてに提出され、平成 18 年 5 月 19 日付けで文化財保護法第 94 条による周知の埋蔵文化財包蔵地の発掘の通知が福岡県教育委員会教育長あてに提出された。

当時、太宰府市教育委員会では、大野城跡及び水城跡等の災害復旧事業等で事業量が增大しており、上記の計画に対する文化財側の対応が困難な状況にあった。そこで、県土木事務所の実施する事業であることから、福岡県文化財保護課で確認調査、やむを得ず工事により破壊される範囲の記録保存の発掘調査を実施することとした。

第 2 節 調査の経過

調査は川の東岸、周知の包蔵地部分を 1 区、川の西岸、史跡地部分を 2 区として地区分けして行った。平成 18 年 8 月 3 日に器材、重機を搬入し、8 月 4 日には作業員の雇用を開始して、周知の包蔵地部分、1 区から調査に着手した。ただ、調査地点への道路が狭隘なため、小型の重機しか搬入できず、表土除去は時間を要した。また、この年は残暑が厳しく、調査当初は作業員数も少なかったため、SW14 石垣部分の竹を除却するのに手間取った。10 月には作業員数を増やし、11 月 24 日には 1 区北半分、北東部平坦面、北西部平坦面の調査を完了した。その後、1 区南部の表土除去を開始し、平成 19 年 12 月末には 1 区南部、南東部平坦面、南西部平坦面の掘下げをほぼ、完了した。

平成 19 年 1 月 15 日には、2 区の用地交渉がまとまり、2 区の調査に着手できるようになった。遺構面が予想以上に深く、当初は、かねてより地表に露出していた「正平廿三年（1368）」銘板碑以外に遺構は存在しないかとも思われた。しかし、表土から 1m 余り掘下げて、中世の土器及び建物跡の礎石根石等が現れた。そこで、礎石根石や中世土器の出土するレベルを追いかけながら、調査区を広げ、遺構を確認することとした。

遺構確認を進めていくと、2 区の西半分は原山無量寺を構成する建物、1 号・2 号建物跡が基壇を伴って残存していることがわかった。特別史跡大野城跡を構成するものではないが、史跡地内の重要な遺構であるため、平成 18 年度の 2 区の調査は建物跡の分布しない東半分の記録保存を完了させ、2 区西半分の建物跡及び板碑について、那珂土木事務所と保存の協議を経た上で、その取り扱いを判断することとした。したがって、取り扱いが決定されるまでの間、建物跡・板碑については検出状態のまま保存することとして、平成 19 年 3 月 23 日に平成 18 年度の調査を終了した。

平成 19 年度 4～5 月には太宰府市教育委員会もまじえ、那珂土木事務所側に建物跡、板碑の現地保存を要望し、協議を重ねることとなった。那珂土木事務所では、これらの遺構を保存するために砂防堰堤を 1) 上流側にずらす、2) 下流側にずらす、3) 堰堤を途中で屈曲させるという、3 案での設計変更を検討した。

ところが、上流側にずらす案、堰堤を途中で屈曲させる案では、必要な堆砂量が確保できないという難点があった。また、下流側へとずらす方法をとっても、建物跡は大部分が砂防堰堤の砂等に埋もれ活用の見込みがない上に、新たな史跡地の現状変更の生じる恐れがあった。そのため、いずれの案も成立せず、これらの遺構を保存する方法はなかった。なお、板碑については砂防用地の残地等、調査区近辺の適当な場所に移設することで、那珂土木事務所との協議が整った。

そこで、平成 19 年 6 月 19 日に 2 区建物跡及び板碑の記録保存のための調査を再開し、平成 19 年 8 月 23 日には調査を完了させた。

調査範囲は1区約1,300㎡、2区約1,000㎡、洗浄前の出土遺物は整理箱で48箱である。

砂防ダムという極めて防災上の緊急性の高い事業とは言え、史跡地内の遺構を保存できなかったことについては、文化財側・事業実施側の双方の担当者とも大きな責任を感じている。土木事務所側の計画立案前に史跡の内容に関する十分な情報があれば、砂防ダムの位置等の計画と文化財の保存の間で、多少とは言え、調整ができたかも知れない。近年の地球環境の大きな変化の中では、今後も、平成15年7月の豪雨のような、自然災害の発生は予想される。文化財側においては確認調査を含め史跡地の遺構等の情報収集を進めることで、日頃の備えとしておく必要性が痛感される。

第3節 調査・整理報告書作成の経緯

平成18・19年度の調査及び整理報告書作成に係る関係者は下記のとおりである。

	平成18年度	平成19年度
総括		
教育長	森山 良一	森山 良一
教育次長	清水 圭輔	檜崎 洋二郎
総務部長	大島 和寛	大島 和寛
文化財保護課長	磯村 幸男 (本副理事)	磯村 幸男 (本副理事)
副課長	佐々木 隆彦	佐々木 隆彦
参事	新原 正典	新原 正典 伊崎 俊秋
課長補佐	安川 正郷 (本参事)	中藺 宏 (本参事)
課長技術補佐	池辺 元明 (本参事) 小池 史哲 (本参事)	池辺 元明 (本参事) 小池 史哲 (本参事)
庶務		
管理係長	井手 優二	井手 優二
管理係	野中 顯 淵上 大輔 柏村 正央 小宮 辰之	淵上 大輔 柏村 正央 小宮 辰之 野田 雅
調査・報告書作成		
調査第二係長	飛野 博文 (参事補佐)	飛野 博文 (参事補佐)
調査第二係	濱田 信也 (参事補佐・整理担当)	濱田 信也 (参事補佐・整理担当)
大規模遺跡対策災害復旧班	重藤 輝行 (調査担当)	重藤 輝行 (調査・報告書作成担当)

調査に際しては、太宰府市教育委員会文化財課の皆様には、調査の方法、遺構の評価はもちろん、遺構の保存の協議にも加わっていただくなど、様々なお世話をいただいた。特に、太宰府市文化財課山村信榮氏には、現地において、板碑の拓本を採取していただくなどの御協力をいただいた。

文化庁記念物課史跡部門の皆様には、現状変更の提出、史跡の保存について、御心配いただいた。

調査期間中には、櫛山範一氏（飯塚市教育委員会）、平ノ内幸治氏・松尾尚哉氏（宇美町教育委員会）、徳本洋一氏（大野城市教育委員会）、江上智恵氏・八丁由香氏（久山町教育委員会）、坂靖氏（奈良県立橿原考古学研究所）、韓ナラ氏（韓国、文化財研究所）の来訪を賜り、貴重な御教示をいただいた。

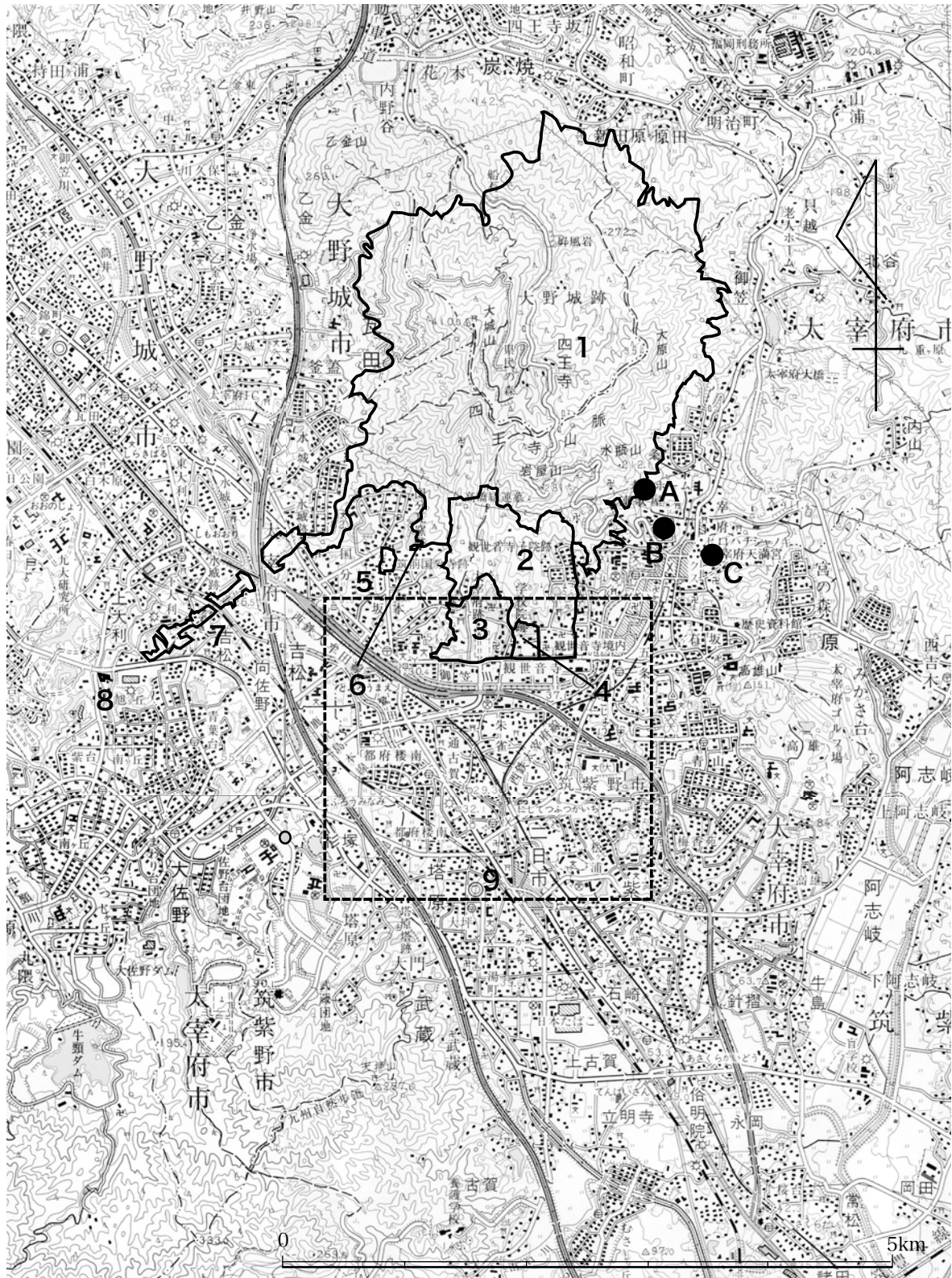
また、SS251 西端ピットより出土した黄褐釉陶器壺については、九州国立博物館伊藤嘉章企画課長、交流課遠藤啓介氏に御教示をいただいた。

調査に参加された作業員の皆様は、斜面地という危険な現場環境にもかかわらず、安全に注意しながら熱心に作業に従事され、担当者の力量不足を補っていただいた。

記して感謝いたします。



発掘調査風景



- A. 原遺跡 18 次調査区 B. 浦ノ城跡 C. 太宰府天満宮
 1. 特別史跡大野城跡 2. 史跡観世音寺境内および子院跡 3. 特別史跡大宰府跡
 4. 史跡大宰府学校跡 5. 史跡筑前国分寺跡 6. 史跡国分瓦窯跡 7. 特別史跡水城跡（大堤）
 8. 特別史跡水城跡（上大利小水城） 9. 大宰府条坊復元範囲

第 1 図 原遺跡の位置と周辺の遺跡等（1／50,000）

第2章 遺跡の位置と環境

ここで報告する原遺跡は太宰府市大字太宰府字原、三条1丁目、連歌屋2丁目等に分布し、中世の原山無量寺跡にほぼ相当する。西鉄太宰府駅北方の丘陵にあたり、四王寺山山麓の標高50～100m程の斜面地にあたる。御笠川を挟んで、東には太宰府天満宮が展開する。遺跡の北側、四王寺山から派生する山陵のひとつには、雨乞い祈祷の対象となった水瓶山がある。

四王寺山は、標高300m程の独立した山塊で、花崗岩を基盤としている。今回の、調査区においても基盤土に多量の風化残痕礫・岩が含まれており、山の成り立ちを知ることができる。四王寺山には周知のように、天智4年(665)に築城された、日本を代表する古代山城、大野城跡が位置している。

原山無量寺は、天安2年(858)、入唐の際に太宰府に立ち寄った円珍の門人、華台坊らが開創した寺院と伝えられる。寺院に8つの僧坊(華台坊、六度寺、安祥寺、十境坊、真寂坊、宝寿坊、寂門坊、明星坊)があったことから、原八坊とも呼ばれている。水瓶山を対象とした雨乞い祈祷は華台坊を中心として行われたらしく、祈祷そのものも天台宗如法經供養の色彩を強く残し、本来、経塚造営行事であったものが、雨乞いの祈祷に転化したものと推測されている〔太宰府市史編集委員会編2004〕。原遺跡の北方、水瓶山や原遺跡内では経塚が出土しており、これらの歴史を物語る貴重な考古資料となっている。

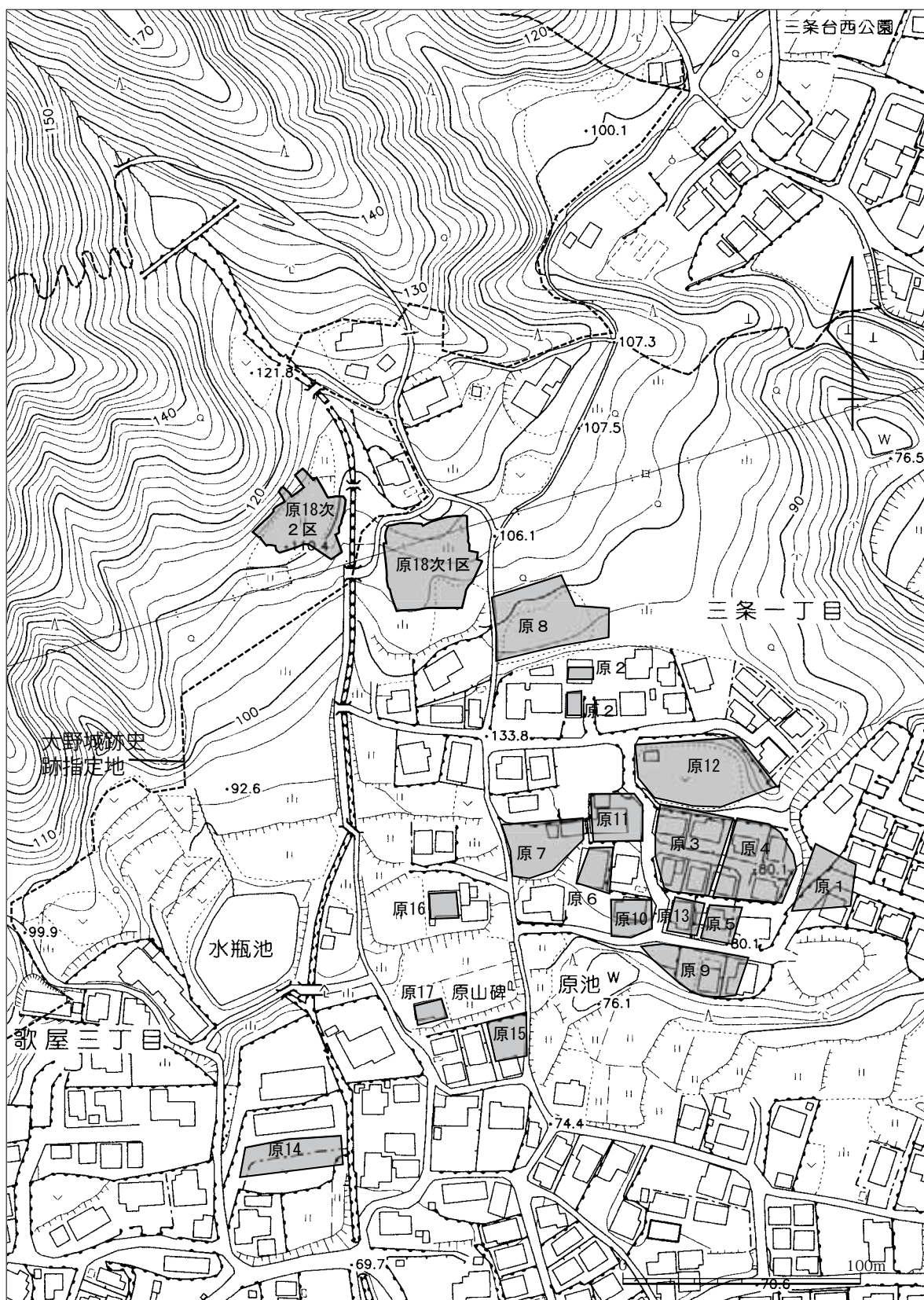
南北朝の時代には、元弘3年(正慶2、1333)、博多の鎮西探題陥落後に後醍醐天皇の第一皇子尊良親王が、建武3年(1336)、足利方の九州下向に際しては足利尊氏が、建武4年(1337)には九州統括のための鎮西管領として活動した一色道猷が原山に滞在したとされる。さらに、康安元年(正平16、1361)には懷良親王が太宰府に入った後、応安5年(文中元年、1371)に九州探題、今川了俊により、太宰府が制圧されるまでの間は、南朝方の支配下におかれた。後に報告するような、原遺跡18次調査地の板碑が、「正平廿三年」と南朝年号を記すのもこのような動向を反映したものであろう。また、原遺跡の南方には浦ノ城跡があり、南北朝の頃の筑前守護、少貳氏の持城で、戦乱の舞台となった。

原遺跡に対しては、昭和55年度の宅地造成に伴う発掘調査から始まり、本報告書の18次調査の後、平成18年度には19次調査が太宰府市教育委員会によって実施されている。18次調査区は原遺跡の中でも、原川の形成する谷地形の最奥部に位置している。これまでの19次の調査の中でも最高所を占める調査地点である。

18次調査区の川の西岸、2区の北側の尾根線には水瓶山が位置する。本調査地点は原遺跡の中でも、最も水瓶山に近い地点にあると言える。現在、水瓶山への登山道は、川の東岸の道路を登り、18次調査区の上流、かねてよりある原川砂防1号堰堤の背後で川を横切る。しかし、川の西岸の尾根線にも古道があり、古くから、水瓶山への参道としても利用されていた可能性が高い。

原山無量寺については、江戸時代に作成された伽藍配置の復元絵図が現在に伝えられている。太宰府市教育委員会山村信榮氏の想定では、本調査地点はその絵図にみえる太師堂、鐘樓の北方、上方にあたり、絵図には建物が描かれていない地点であった。しかしながら、後述するように原山無量寺の初期の遺構等を検出することができた。

参考文献 太宰府市史編集委員会編2004『太宰府市史』通史編Ⅱ 太宰府市



第2図 原遺跡調査区位置図 (1 / 2,500)



第3図 調査区周辺地形図 (1 / 1,000)



第4図 1区全体平面図 (1／200)



第5図 SW14・SW63 実測図 (1／80)

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (炭混)
2. 10YR4/3 褐色シルト
3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト (炭多)
4. 7.5YR5/6 明褐色シルト (地山、人頭大の礫混)

第3章 調査の内容

第1節 遺跡と調査の概要

1区は石垣等で区画され、大きく北東部、北西部、南東部、南西部の4個所の平坦面に分かれる。北東部平坦面と南東部平坦面の間には石垣 SW14 があり、北西部平坦面、南東部平坦面の間には若干の平坦面を挟んで、上段に SW14 と連続する石垣 SW63、下段に石垣 SW208 がある。また、南東部平坦面、南西部平坦面の間は石垣 SW122 で区画される。

この他、土坑、溝、ピット等が検出された。それぞれの平坦面は、中世寺院に伴う建物を建築した造成面と考えられるが、明確な建物跡は抽出できなかった。調査前は畑等として利用されており、遺構面まで浅いため、建物跡礎石等が失われ、建物の抽出を困難にしたものと考えられる。

なお、遺構の一覧を第24～30表として掲載している。

第2節 1区の調査

ここでは主な遺構について、遺構の種類別に報告することにしたい。

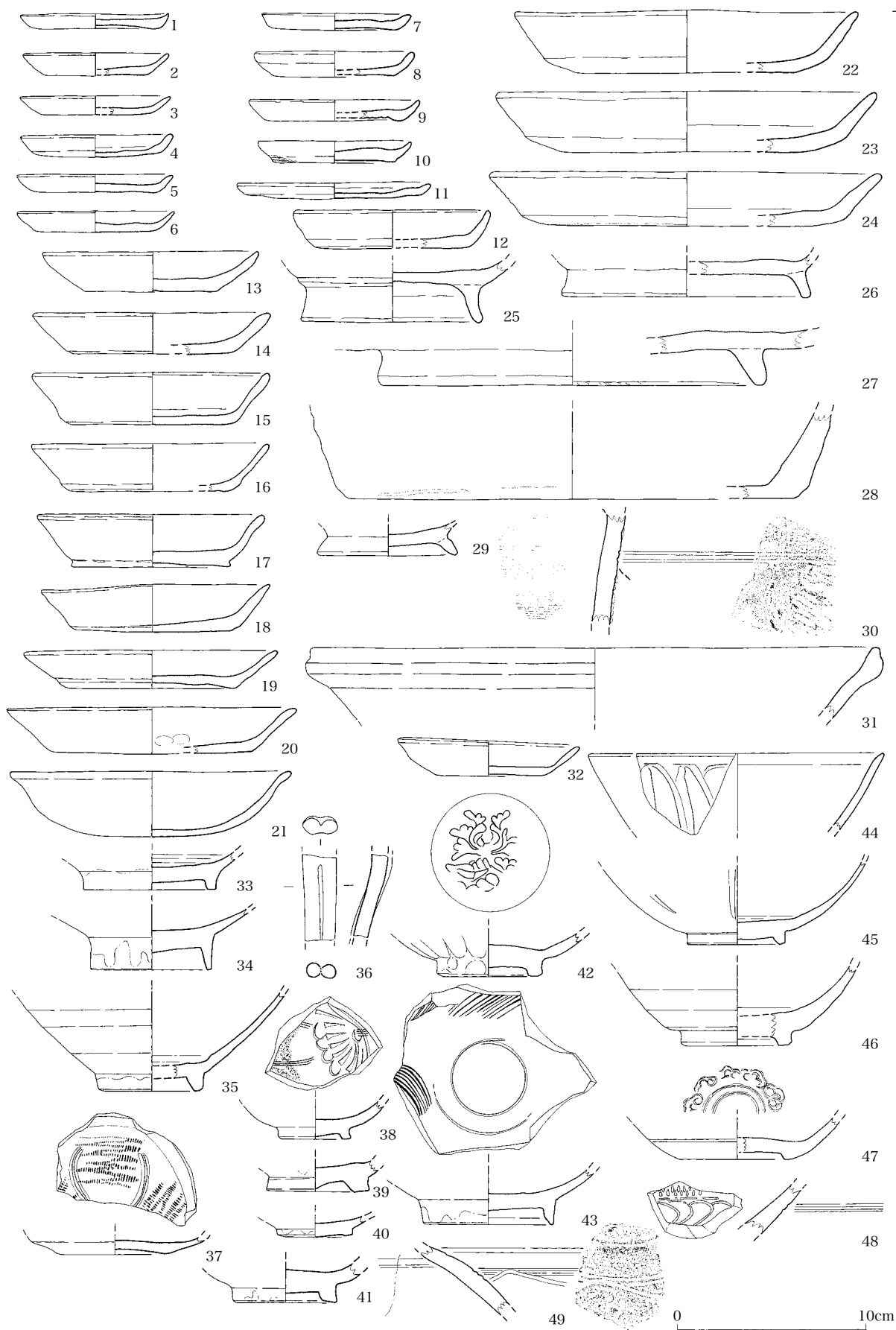
(1) 石垣

SW14・SW63 (図版4～6、第5図)

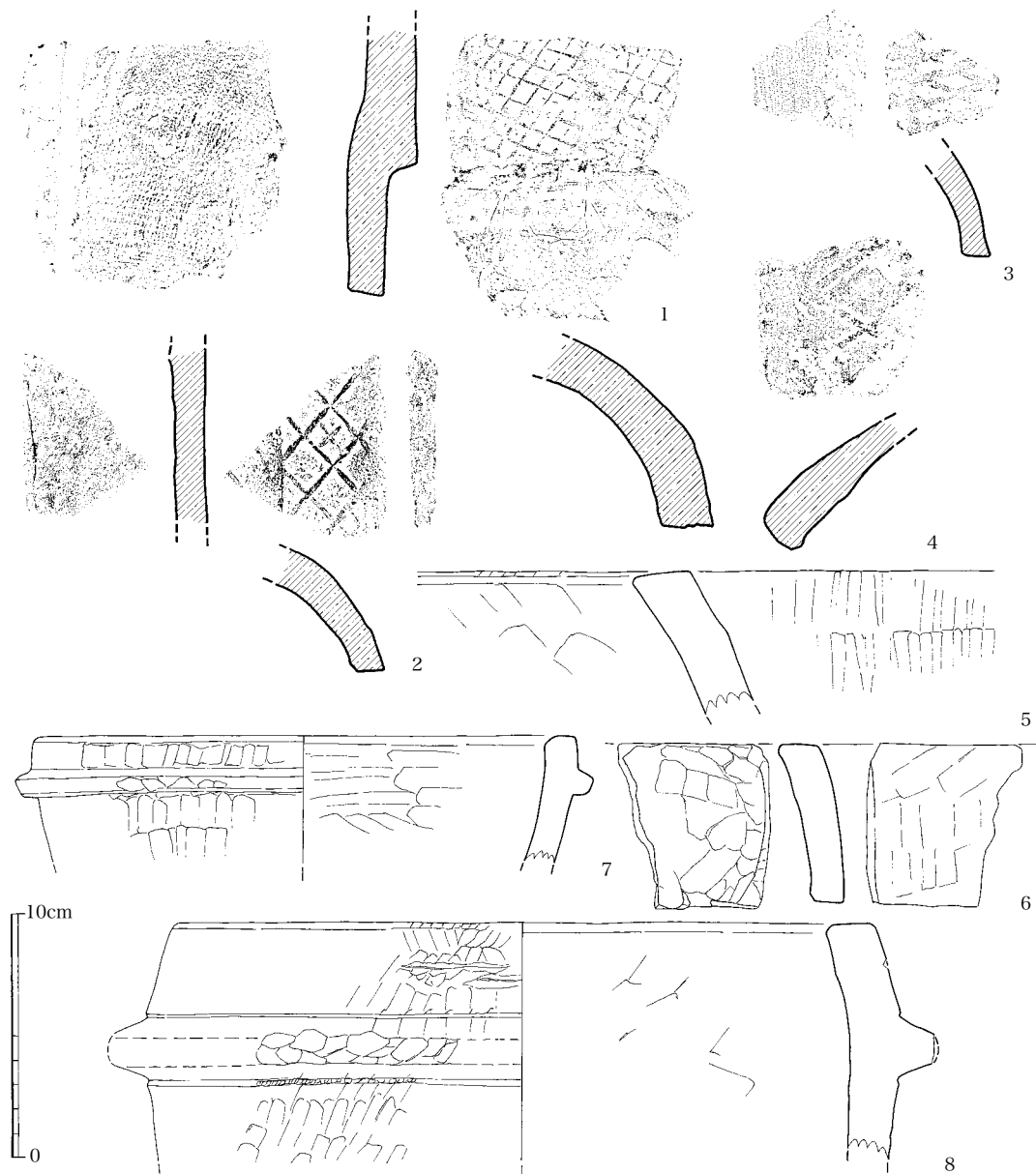
1区北東部平坦面と1区南東部平坦面の間を区画する石垣を SW14、1区北西部平坦面の南東部に位置する垂直な石垣を SW63 とした。中央部～東部にかけては、調査前は竹林となっており、竹の根を除去しながら検出することとなった。東になるにつれて石の分布が散漫となっており、石垣というよりは石垣背面の裏込めの一部が残っている状況である。竹の根が石を抱え込んでいる場合もあったが、人力による掘下げでは、できる限り原位置に石をとどめるようにして、検出及び図化を行った。そのため、垂直の石垣であったとしても、後世の地形の改変によって、移動したものと考えられる。垂直の石垣であったとすれば、下面からの高さは2mを超えることになる。

調査区東端から西に12mのところまではほぼ東西方向を向くが、SW14の西部は屈曲し、斜面を上がるようにして SW63 に接続する。西部は斜面にあたかも古墳の葺石状に石が残存している。SW63 との構造上の関係は不明であるが、SW63 の下部の前面に葺石状の SW14 西端が接していることは確認できた。この部分では SW63 構築後に、SW14 を施工したという関係である。

SW63 は東西方向に伸び、現状では5m程遺存し、良好な部分で高さは0.8m程である。1辺20cm程の角張った石を積んで構築する。西側にさらに伸びていた可能性があるが、後世の地形改変等によって遺存しない。ただ、北西部平坦面の南斜面には1m近い基盤土中の岩も露出しており、これらの石を取り込みながら石垣としていたのであろう。後述するように南に接する SX108 が SW63 の裏込めを兼ねていたと考えられ、SW63 の断面図は SX108 とともに第22図に示した。SW14 出土土器・陶磁器・石鍋・瓦 (第6・7図、第1・2表) 第6図1～11は土師器小皿、13～24は土師器杯である。底部外面に糸切り痕を残すものが多い。23・24は口径が大きく、皿に近い器形をなす。第6図25は土師器碗で、第6図26・27は高台を付けるが、径が大きいため鉢のような器形になると考えられる。第6図29は瓦器碗と考えたが、比較的高い高台をもつ。第6図30は土師質鉢の胴部と考えられ、胴部外面に直線文及び粘土の剥離した痕跡が残る。第6図31は須恵質の捏鉢で口縁を肥厚させる。



第6図 SW 14・SW63 出土土器実測図 (1 / 3)



第7図 SW 14 出土瓦・石鍋実測図 (1 / 3)

第6図32は白磁皿で、口縁部を釉剥ぎする。第6図33～35・40は白碗碗、36は白磁の水注の把手と考えられる。第6図37は青磁皿、第6図38・39・41～46は青磁碗破片である。第6図47・48は高麗象眼青磁で、49は褐釉陶器肩部。

第7図1～4は丸瓦である。いずれも外面に斜格子タタキを施すが、格子の大きさにはばらつきがある。2はタタキ格子目に直交する×字状隆起が特徴的なタタキ板を使用し、内面の布目圧痕を丁寧にナデ消している。

第7図5～8は石鍋である。5はやや傾きは不安であるが、口縁部が内傾するものと考えられる。6は石鍋の破片を整形した転用品である。7・8は口縁下に太い突帯を作り出す。

SW122 (図版6・7、第8図)

1区南東部平坦面、南西部平坦面の間を区画する石垣である。ほぼ南北方向を向き、南北11m

第1表 SW14・SW63 出土土器・陶磁器・瓦・石鍋観察表（1）

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量（mm）	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
6-1		SW14前面	土師器皿	口径76、器高9	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	白黄褐色～白褐色	底部外面板圧痕残る。			30
6-2		SW14西部石垣前面	土師器皿	口径78、器高12	精良だが、雲母を少し含む	良好	黄白色	底部外面糸切り痕残る。	1/3		62
6-3		SW14石垣前面	土師器皿	口径78、器高10	1-2mm大細砂、雲母少し含む	良好	灰黄褐色	内外摩滅顕著。			83
6-4	22	SW14中央部	土師器皿	口径80、器高12	2-5mm大細砂、赤褐色粒、雲母少し混	良好	灰黄褐色	内外摩滅顕著。	1/2		28
6-5		SW14中央部	土師器皿	口径82、器高10	1-3mm大細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡黄褐色	内外摩滅顕著。			31
6-6		SW14西部石垣前面	土師器皿	口径82、器高11	1-2mm大細砂粒わずかに含む	良好	明黄褐色	底部外面糸切り痕残る。	1/2		61
6-7	22	SW14中央部	土師器皿	口径78、器高9	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡橙褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕残る。	3/4		29
6-8		SW14中央部	土師器皿	口径80、器高13	1-4mm大細砂、雲母少し含む	良好	灰褐色～黄灰色	底部外面糸切り痕残る。			18
6-9		SW14東部石垣前面	土師器皿	口径90、器高11	精良	良好	淡橙褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕残る。	1/6		102
6-10	22	SW14中央部	土師器皿	口径80、器高11	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	橙褐色	底部外面糸切り痕残るか？。	ほぼ完形	口縁わずかに欠損するが、ほぼ完存。	17
6-11		SW14東部石垣前面	土師器皿	口径100、器高8	1mm大細砂、赤褐色粒やや多く含む	良好	黄褐色	底部外面糸切り痕残る。	1/4		46
6-12		SW14中央前面	土師器杯	口径102、器高20	細砂粒、雲母わずかに含む	良好	黄褐色～褐色	内外摩滅顕著。			41
6-13		SW14中央部前面	土師器杯	口径114、器高21	1-3mm大細砂粒、雲母少し含む	良好	白褐色	底部外面糸切り痕残る。			40
6-14		SW14石垣前面	土師器杯	口径122、器高22	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	白黄褐色～白褐色	底部外面板圧痕残る。			84
6-15	22	SW14中央部	土師器杯	口径124、器高27	2-5mm大砂粒、赤褐色粒、雲母やや多く含む	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕残る。	3/4		15
6-16		SW14西部前面	土師器杯	口径124、器高35	2-3mm大砂粒、雲母少し含む	良好	白黄褐色	口縁部内外横ナデ仕上げ。			72
6-17		SW14中央部	土師器杯	口径116、器高28、底径84	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	橙褐色	底部外面糸切り痕残る。			20
6-18		SW14中央部	土師器杯	口径124、器高26、底径46	1-3mm大細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡黄褐色	内外摩滅顕著。			16
6-19		SW14東部前面	土師器杯	口径132、器高20、底径88	1-3mm大細砂粒少し含む	良好	白黄色～白黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕残る。			76
6-20		SW14中央部	土師器杯	口径150、器高24、底径106	2-3mm大砂粒、赤褐色粒、雲母少し含む	良好	橙褐色～黄褐色	内外の摩滅が顕著。			19
6-21		SW14中央部	土師器杯	口径144、器高36	2-3mm大砂粒少し含む	良好	白褐色～白黄褐色	底部外面ヘラケズリ後、ナデ仕上げ。			21
6-22		SW14中央前面	土師器杯	口径180、器高32	細砂粒、雲母少し含む	良好	白黄色～橙褐色	摩滅顕著であるが、底部外面はヘラケズリか。			39
6-23		SW14東部石垣前面	土師器杯	口径200、器高32	1mm大細砂少し含む	良好	淡黄白褐色	底部外面ヘラケズリが残る。	1/3		81
6-24		SW14東部前面	土師器杯	口径204、器高28	1-2mm大細砂粒少し含む	良好	黄褐色～黄白色	底部外面糸切り痕残る。	1/8		80
6-25		SW14石垣下層	土師器碗	高台径92、残高33、高台高20	1-3mm大細砂粒、雲母少し含む	良好	暗褐色	内外ナデ仕上げ。			48
6-26		SW14中央部	土師器高台付鉢	高台径130、高台高14、残高23	1-2mm大細砂粒、赤褐色粒、雲母少し含む	良好	灰褐色～橙褐色	高台内、底部外面板圧痕を残す。			32
6-27		SW14中央トレンチ	土師器高台付鉢	高台径204、高台高19、残高30	1-2mm大細砂、雲母少し含む	良好	黄橙色	ナデ仕上げであるが、底部外面は摩滅顕著。			14
6-28		SW14前面	土師器鉢	底径236、残高47	2-3mm大細砂、雲母含む	良好	淡黄褐色	内外ナデ仕上げ。底部大きな平底をなす。			86
6-29		SW14中央部前面	瓦器碗	高台径72、残高16、高台高10	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	白黄褐色	内外摩滅顕著。			23
6-30		SW14中央斜面下	土師器火鉢？	残高60	1-2mm大細砂粒、赤褐色粒、雲母少し含む	良好	褐色	内面ハケメ残、外面把手等粘土の剥離した痕跡が残る、沈線がその上部に巡る。	小片		35
6-31		SW14東部石垣上面	須恵器捏鉢	口径298、残高38	1-2mm大細砂粒やや多く含む	良好	灰褐色	内外ナデ仕上げで、口縁部は肥厚する。			77
6-32	22	SW14中央前面	白磁皿	口径55、底径58、器高21	精良	良好	白色	内外施釉するが、口縁端部のみ露胎。底部外面に付着物あり。	1/2		55
6-33		SW14石垣下層	白磁碗	高台径70、高台高10、残高23	精良	良好	生地白灰褐色、釉白灰色	高台外面～高台内露胎、内見込み輪状に釉剥ぎ、他は施釉。	1/4		50
6-34		SW14石垣下層	白磁碗	高台径64、残高36、高台高19	精良	良好	生地灰褐色、釉灰褐色	高台外面から、高台内露胎。高い高台が特徴的。	1/8		49
6-35		SW63西部石垣前面	白磁碗	高台径54、高台高9、残高53	精良	良好	白灰色	高台外面～高台内露胎、内見込み輪状に釉剥ぎ、他は施釉。	1/3		100
6-36		SW14前面	白磁水柱把手	残高44	精良	良好	生地白色、釉透明緑色	表裏施釉。2条の粘土紐を軸着させて把手とする。	小片		26
6-37		SW14中央前面	青磁皿	底径54、残高10	精良	良好	生地白灰色、釉透明緑色	上げ底気味で、底部外面は露胎。他は施釉。見込みに施文する。同安窯系。	1/3		33
6-38		SW14西部石垣前面	青磁碗	高台径38、残高20、高台高7	精良	良好	生地白色、釉灰緑色	外面体部～高台のやや内側まで施釉、高台内中央部は露胎。見込みに花文施文。龍泉窯系。	1/3		60

を調査し、現状で高さ 0.6m 程遺存している。南端は調査区外へとつづくが、北端は南東部平坦面の北斜面に接続させて収束させる。遺存状況の良好な、北から 5 m 程の範囲は、幅 40cm 程の石を横長に配置して積み上げている様子がうかがえる。一方、中央～南部は石垣の表面が失われて、裏込めのみが遺存する状態であった。低い石垣のためか、裏込めの掘り方は幅 1.5m 程と狭い。SW122 出土土器（第 9 図、第 3 表） 1 は白磁碗である。外面に片刃彫りによる線刻、内面に櫛描文を施文する。2 は土師器鉢。

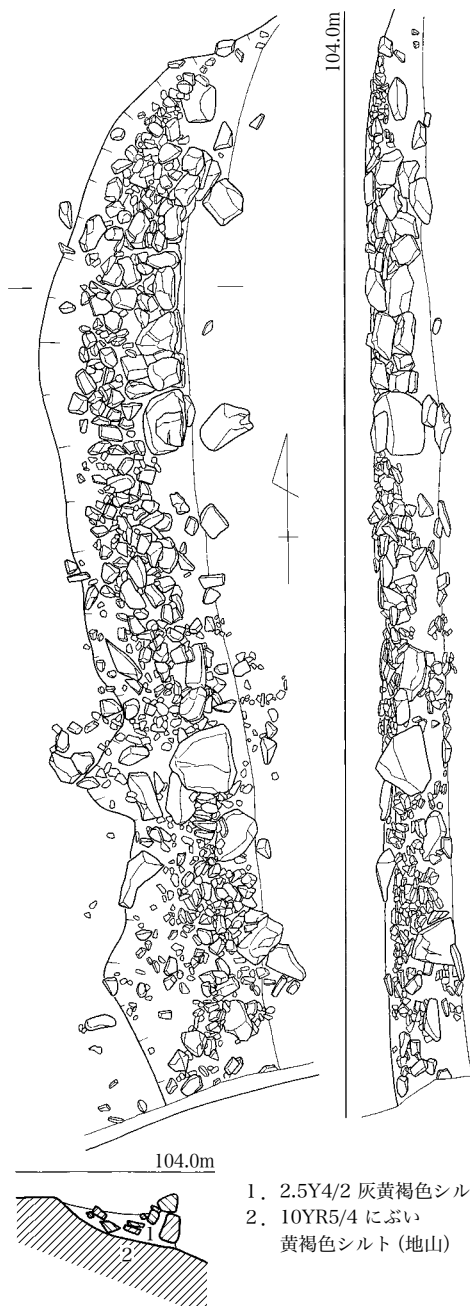
SW208（図版 7、第 8 図）

1 区南西部平坦面の北縁を画する石垣で、SW63 石垣の下段に位置する。北西から南東に自然地形にあわせて屈曲しながら伸び、直線的な SW14、SW63、SW122 とは異なる。現状では A－B 断面図を示した付近の遺存状況が良好であるが、それでも垂直ではなく、ほとんどが裏込めのみしか遺存していないと言える。石垣の前面ラインにも 1 m を超える巨石が露出しており、整った石垣を構築していたとしても中間に巨石の露頭を取り込んでいたものと考えられる。

なお、石垣裏の整地層の出土遺構も「S208 裏込め」等の注記で取り上げた。この整地層は広いところで石垣の背後幅 5 m 程に達し、深さ 0.7m になる。整地層は石垣の裏込めと一体に施工され、

第 2 表 SW 14・SW63 出土土器・陶磁器・瓦・石鍋観察表（2）

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
6－39		SW14 西部 前面	青磁碗	高台径 58、残高 17、高台高 8	精良	良好	生地灰黄褐色、釉緑色透明	体部外面は図示した範囲がほぼ露胎。内面は施釉する。	3／4		68
6－40		SW63 東部 前面	白磁碗	高台径 40、残高 12、高台高 5	精良	良好	生地灰色、釉灰白色	底部は高台外面下部～高台内露胎。内見込みは施釉。	ほぼ全周		99
6－41		SW14 西部 前面	青磁碗	高台径 54、高台 高 9、残高 21	精良	良好	生地灰黄褐色、釉灰緑色	体部外面～高台外面露胎、高台畳付～高台内面露胎。内面施釉。	底全周		70
6－42		SW14 中央 部前面	青磁碗	高台径 54、残高 23、高台高 9	精良	良好	生地灰色、釉灰緑色	外蓮弁文、見込み花文施文の龍泉窯系。外面体部～高台外一部施釉。高台畳付～高台内露胎。	ほぼ全周		54
6－43		SW14 西部 前面	青磁碗	高台径 68、残高 30、高台高 13	精良	良好	生地灰緑色、釉透明緑色	外面高台下部～高台内露胎、内面施釉。内面櫛歯文を施文する同安窯系青磁。	ほぼ全周。		71
6－44		SW14 東ト レンチ	青磁碗	口径 154、残高 41	精良だが、細砂粒わずかに含む	良好	生地灰色、釉透明緑色	外面蓮弁文施文。内外施釉。	小片		12
6－45		SW14 石垣 下層	青磁碗	高台径 52、残高 44、高台高 7	精良	良好	生地灰褐色、釉緑灰色	高台畳付～高台内露胎。外面片刃彫施文の龍泉窯系青磁。	全周		51
6－46		SW14 東部 石垣上面	青磁碗	高台径 60、残高 43、高台高 7	精良	良好	生地白褐色、釉緑黄色	高台畳付～高台内露胎。内面施釉するが、見込みに目痕 1 箇所残。	1／4	釉細い貫入あり。	78
6－47		SW14 西部 前面	象眼青磁碗	高台径 60、残高 23	精良	良好	生地灰色、釉灰黄色	見込みに同心円文、雲文を白色土を象眼して施文。底部基筒底状で、畳付露胎。	2／3		75
6－48		SW14 中央 前面	象眼青磁鉢??	残高 27	精良	良好	生地灰色、釉灰緑色	内面象眼による施文、外面沈線巡る。内外施釉。	小片		37
6－49		SW14 石垣 下層	褐釉陶器 壺肩部?	残高 37	精良	良好	生地黄褐色、釉緑黄色	外面沈線直線文、波状文を施文。内面釉及ぶ箇所もあれば露胎の箇所もある。	小片		65
7－1		SW14 石垣 前面	丸瓦	長さ 106、厚さ 20	黒色砂粒目立つ。2 mm 大細砂少し含む。	良好	淡灰黄色	玉縁部破片。やや小さめの斜格子タタキ表に施す。裏布圧痕を残す。	小片		88
7－2		SW14 石垣 中部上面	丸瓦	厚さ 13	精良だが、1～2 mm 大の細砂を少し含む	良好	暗灰色	表面格子タタキを施し、裏面布圧痕をナデ消す。タタキ格子目に直交する×字状隆起が特徴。	小片		53
7－3		SW14 石垣 西部上面	丸瓦	厚さ 11	1～2 mm 大の細砂を含む	良好	灰褐色	表面に縁の太い斜格子タタキを施す。裏面布圧痕を残す。	小片		59
7－4		SW14 石垣 西部前面	丸瓦	厚さ 13	2～5 mm 大砂粒をやや多く含む	やや甘い	白黄褐色～白褐色	大きめの斜格子タタキを表面に施す。裏面布圧痕を残す。	小片		73
7－5		SW14 石垣 中央部	滑石製石 鍋口縁片	残高 58				口縁はやや内傾するか?。内外のケズリは丁寧。	小片		34
7－6		SW14 石垣 中央下	滑石製石 鍋口縁片	口径 220、残高 52				内外ケズリ。下端を丁寧にミガキ、再利用する。	小片		43
7－7		SW14 石垣 中央前面	滑石製石 鍋口縁片	口径 220、残高 52				突帯口縁下に巡らす。外面ケズリ雑で、内面丁寧な横方向ケズリ。			42
7－8		SW14 石垣 前面	滑石製石 鍋口縁片	口径 282、残高 96				突帯を口縁下に巡らす。内面は滑らかであるが、外面のケズリは粗雑。			87



SW122

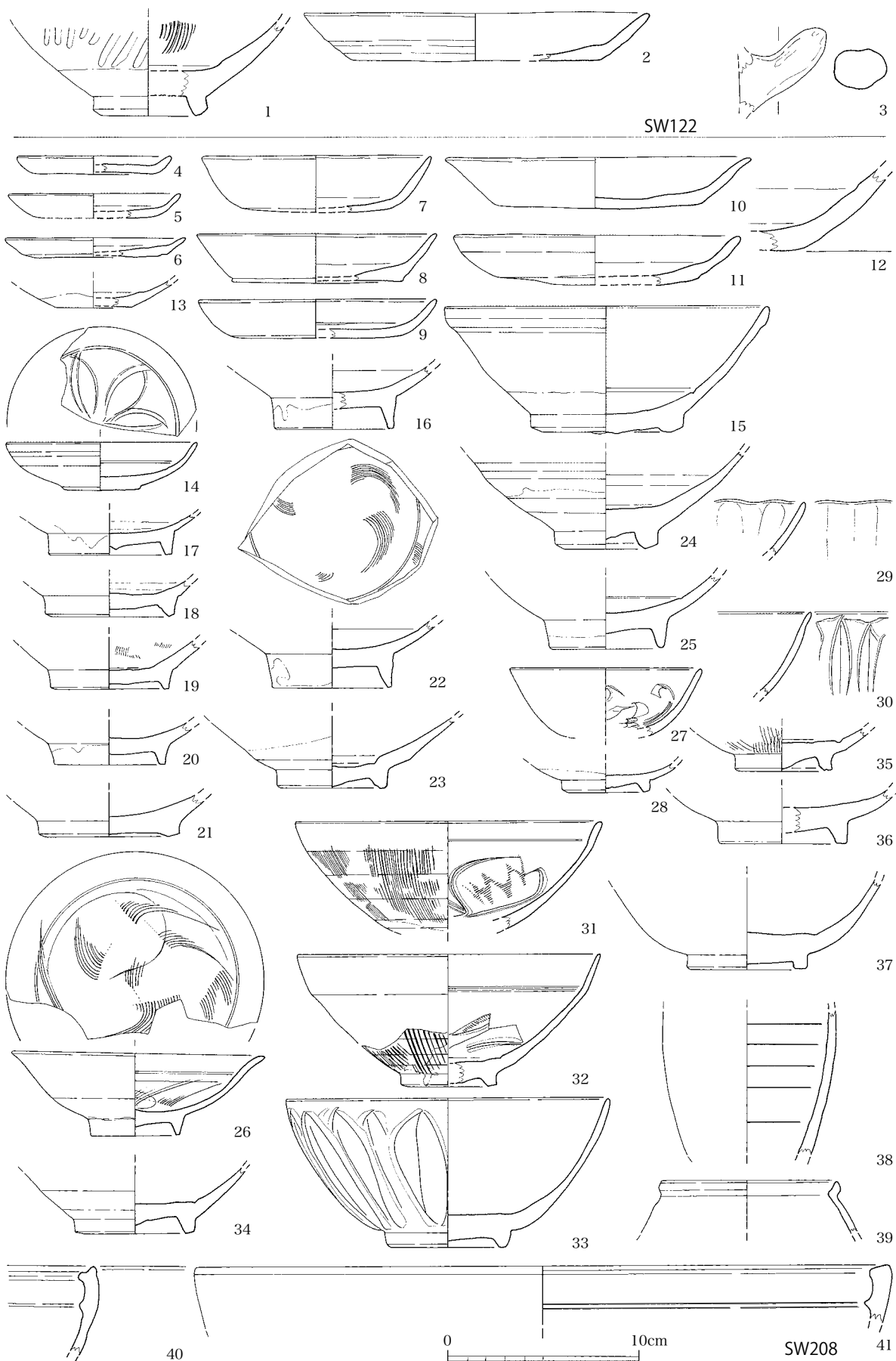


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (5cm 大礫多)
2. 10YR4/4 褐色シルト (5cm 大礫多、大形の土器陶磁器片多)
3. 7.5YR5/6 明褐色粘質砂 (人頭大の礫多)
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (地山ブロック)
5. 10YR6/3 にぶい黄橙色粘質シルト (礫多)



SW208

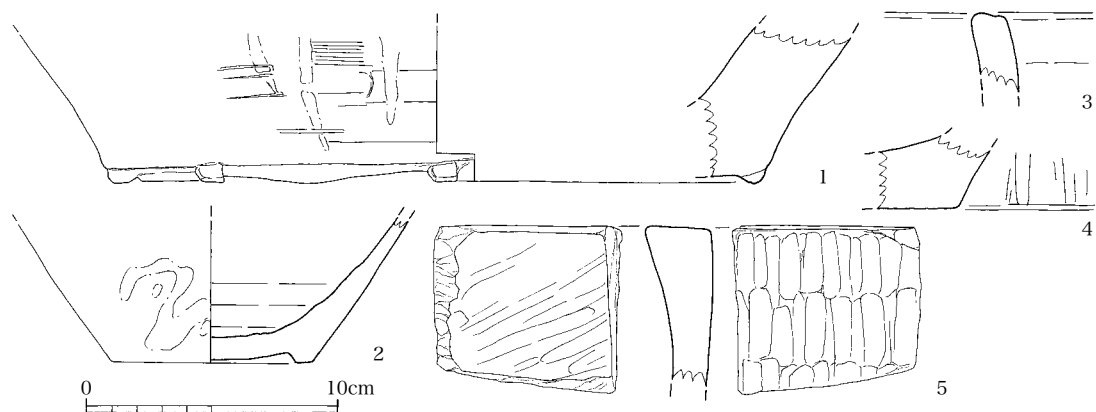
第8図 SW 122・SW208 実測図 (1 / 80)



第9図 SW122・SW208出土土器・陶磁器実測図(1/3)

第3表 SW122・SW208 出土土器・陶磁器・石鍋観察表（1）

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量（mm）	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
9-1		SW122 上面	白磁碗底部片	高台径60、器高59、高台高10	細砂粒を若干含む	良好	生地淡黄褐色、釉黄褐色	内面施釉、外面は高台よりやや上から高台内にかけて露胎。	1/4	外面片刃彫り、内面櫛描の施文あり。	252
9-2		SW122 上面	土師器杯	口径158、器高25、底径130	細砂粒を少し含む	良好	外灰黄褐色、内黄褐色	底部外面糸切り痕残す。	底部1/6		250
9-3		SW208 東部	土師器瓶等把手？	残高43	細砂粒、雲母少し含む	良好	淡橙褐色ー赤褐色	周囲ナデ仕上げ。	小片		321
9-4		SW208 西部	土師器皿	口径78、残高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡橙褐色	内外摩減顕著。	1/2		326
9-5		SW208 西部	土師器皿	口径88、残高13	細砂少し、雲母やや多く含む	良好	白橙褐色	内外摩減顕著。	1/4		325
9-6		SW208 包含層	土師器皿	口径92、残高10	細砂粒を少し含む	良好	黄褐色	内外ナデ仕上げ。	1/6		367
9-7		SW208 西部	土師器杯	口径118、器高29	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	白黄褐色	内外ナデ仕上げ。	1/4		323
9-8		SW208 東部下	土師器杯	口径124、器高25	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	黄褐色	底部外面板圧痕を残す	1/12		363
9-9		SW208 東部	土師器杯	口径122、器高20	細砂粒、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	外黄褐色ー灰黒色、内黄褐色	内外摩減顕著。			351
9-10	22	SW208 西部	土師器杯	口径154、器高27、底径54	細砂粒、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り痕残す。			322
9-11		SW208 西部	土師器杯	口径148、器高25	赤褐色粒目立つ。細砂、雲母を含む。	良好	橙褐色	底部外面糸切り痕を残す。	2/3		324
9-12		SW208 西部	須恵器鉢	残高44	長石を若干含む。	良好	暗灰色。	胴部内外ナデ、底部外面未調整。			350
9-13		SW208 西部	白磁皿底部	底径20、残高14	精良	良好	生地黄白色、釉黄白色	外面底部から口縁部底部境界の稜やや上まで露胎。内面施釉。	1/4		343
9-14		SW208 東部下	白磁皿	口径98、高さ25、底径40	細砂粒を少し含む	良好	生地黄褐色、釉黄褐色	底部外面露胎で糸切痕残。口縁部外面ー内面施釉。内見込み沈線で区画し、花卉状文様施す。	1/4		365
9-15		SW208 西部	白磁碗	口径148、底径80、器高76、高台高9	精良	良好	生地灰褐色、釉灰黄緑色	外面は底部から口縁部底部境界の稜やや上まで露胎。内面施釉。	口縁1/4、底部1/4 残		339
9-16		SW208 西部	白磁碗	底径62、残高33、高台高17	精良だが、細砂をわずかに含む	良好	黄白色	高台外面下部ー高台内は露胎。内は底部まで施釉。			330
9-17		SW208 東部	白磁碗	高台径64、残高21	精良	良好	生地灰白色、釉乳白色	高台外面下部ー高台内は露胎。内見込み輪状に釉掻き取り。			353
9-18		SW208 西部	白磁碗	高台径68、残高19	精良	良好	生地白灰色、釉白灰色	外面は高台よりやや上から高台ないにかけて露胎。内見込み輪状に釉掻き取り。	1/3		355
9-19		SW208 西部	白磁碗	高台径62、残高23、高台高10	精良だが細砂をわずかに含む	良好	生地白黄褐色、釉白黄色	外面残存範囲露胎。内面は見込みまで施釉すると考えられるが、剥離？する。見込み櫛歯文。			329
9-20		SW208 西部	白磁碗	高台径58、残高23、高台高11	精良	良好	生地白黄褐色、釉灰黄緑色	高台外面から高台内露胎。内は見込みまで施釉。	2/3		340
9-21		SW208 西部	白磁碗	高台径72、高台高8、残高22	精良	良好	生地白灰色、釉白灰色	外面残存範囲露胎。内面見込みまで施釉。			334
9-22		SW208 東部	白磁碗	高台径62、残高35、高台高18	精良	良好	生地灰白色、釉灰白色	高台壘付ー高台内露胎。高台外面は斑状に露胎部ある。内見込み沈線巡らし、櫛歯文を施文。			354
9-23		SW208 西部	白磁碗	高台径58、残高37、高台高9	精良	良好	生地白黄褐色、釉淡黄緑色	外面高台よりやや上から高台内に露胎。内見込み段をなして凹む。	1/4 残		332
9-24		SW208 西部	白磁碗	高台径54、高台高9、残高52	精良	良好	生地白黄褐色、釉黄褐色	高台内から胴下部まで外面露胎。内面見込みまで施釉。			331
9-25		SW208 西部	白磁碗	高台径60、高台高15、残高38	精良	良好	生地白黄褐色、釉灰黄緑色	高台外面下半ー高台内は露胎、内は見込みまで施釉。見込みに沈線巡らす。	1/3		335
9-26	22	SW208 東部	白磁皿	口径132、器高43、高台径46、高台高10	精良	良好	生地灰黄色、釉緑黄灰色	口縁よりやや下沈線を巡らす。沈線内櫛歯文。高台外面ー高台内露胎。内は見込みまで施釉。	1/2 残、高台全周。		352
9-27		SW208 西部	青磁碗	口径98、残高36	精良	良好	生地白黄褐色、釉淡灰緑色	小形の碗で、内面櫛歯文による施文。残存部内外施釉。	1/4		344
9-28		SW208 西部	青磁碗	高台径44、高台高7	細砂粒を若干含む	良好	生地灰黄色、釉灰黄緑色	小形の碗の底部片。高台よりやや上から高台内にかけて露胎。	1/2		341
9-29		SW208 西部	青磁碗	残高31	精良	良好	生地白黄褐色、釉淡灰緑色	内外施釉で凹凸により口縁輪花状を呈する。	小片		345
9-30		SW208 西部	青磁碗	残高44	精良	良好	生地白黄褐色、釉暗灰緑色	外面銘蓮弁文施文。内外施釉。	小片		346
9-31		SW208 西部	青磁碗	口径158、残高58	精良	良好	生地灰黄色、釉灰黄緑色	外面櫛歯による直線文、内面櫛歯刺突、櫛歯曲線文施文。内外施釉だが、残存部下端は露胎。	1/4		337
9-32		SW208 西部	青磁碗	口径156、高台径50、器高79、高台高7	精良だが、白色砂粒わずかに含む	良好	生地灰黄色、釉灰黄緑色	内面施釉、外面高台内ー高さ20mm高台よりやや上まで露胎。外面櫛歯による直線文、内面櫛歯刺突、櫛歯曲線文施文。	高台1/2	口縁部と底部の接合しない破片を図上で復元	338
9-33	22	SW208 西部	青磁碗	口径166、器高77、高台径62、高台高11	精良	良好	生地灰色、釉深緑色	高台外側まで施釉、高台壘付ー高台内露胎。外面銘蓮弁文施文。	高台全周、口縁1/3 残。		336
9-34		SW208 西部	青磁碗	高台径62、高台高8、残高34	精良	良好	生地淡灰黄色、釉灰黄緑色	外面高台よりやや上ー高台内露胎、内面見込み輪状に釉掻き取り。			333



第 10 図 SW208 出土陶器・石鍋実測図（1／3）

北西部平坦面と南西部平坦面の間の細い平坦面として造成されていたと考えられる。図示した遺物はこの整地層に伴うものが多いが、下層には土師器、陶磁器の大形破片が多く含まれていた。

SW208 出土土器・陶磁器・石鍋（第 9 図 4～40・第 10 図、第 3・4 表） 第 9 図 4～6 は土師器皿、7～11 は土師器杯である。12 は須恵器鉢底部片。14 は白磁皿、15～25 は白磁碗である。26 は櫛描文を施文する白磁皿。27・28 は小形の青磁碗底部片。29 は強い凹凸により輪花状をなす青磁碗口縁部片、30 は鎬蓮弁文を施文する青磁碗口縁部片である。31～37 は青磁碗で、31・32・35 は同安窯系、33 は龍泉窯系と考えられる。38 は精製の青磁小形壺胴部片か。39 は青磁に比較的近い釉調の褐釉陶器口縁部片。40・41 は無釉の大形甕口縁部片である。

第 10 図 1 は大形の陶器鉢で器壁が極めて厚い。2 は褐釉陶器壺の底部破片と考えられる。3 は滑石製石鍋口縁部片、4 は同底部片であり、5 は石鍋の底部付近の破片を加工した転用品である。

第 4 表 SW 122・SW208 出土土器・陶磁器・石鍋観察表（2）

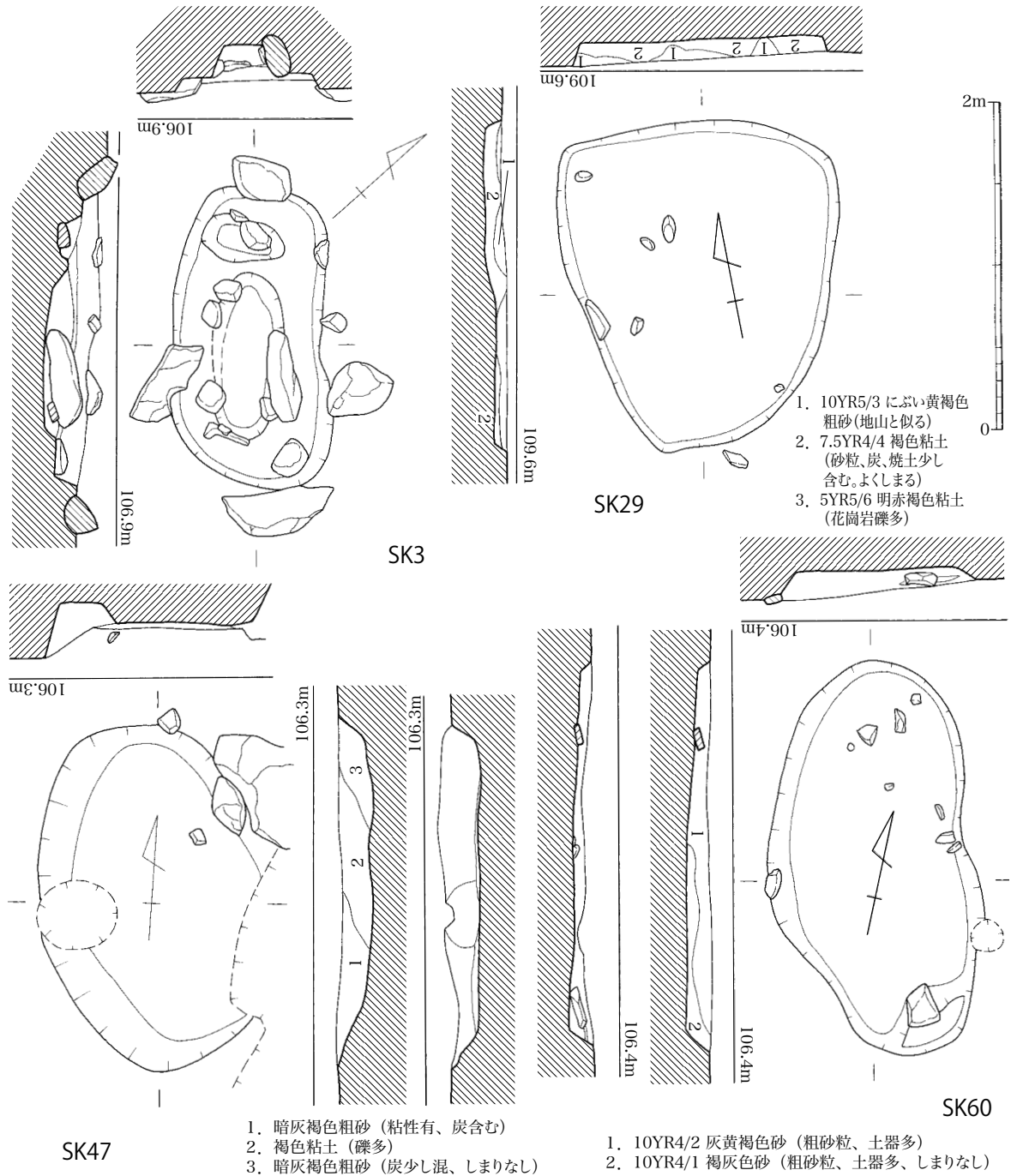
挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
9-35		SW208	青磁碗	高台径50、残高22、高台高9	精良	良好	生地灰黄白色、釉灰黄緑色	体部外面櫛描直線文施文。高台外面一高台内露胎。	2／3	釉薄い。	356
9-36		SW208	青磁碗	高台径68、残高30、高台高13	精良だが、微砂粒をわずかに含む	良好	生地黄灰色、釉灰黄緑色	外面豊付のみ露胎、高台内施釉。内面施釉で見込み目砂跡残る。	1／2		364
9-37		SW208西部	青磁碗	高台径62、残高47、高台高8	精良	良好	生地緑灰色、釉灰黄緑色	広大内中央のみ露胎。高台内一豊付一外面施釉、内面施釉。釉全体に貫入あり。	1／8		366
9-38		SW208東部	青磁壺?	胴部径90	精良	良好	生地黄灰色、釉灰黄緑色	内面薄く釉?、外面釉調良く精製品か。	1／4		357
9-39		SW208東部	褐釉壺? 口縁部	口径90、残高28	精良	良好	生地灰黄褐色、釉灰黄褐色	内外施釉、口縁部を短く屈曲させて外反させる。青磁に比較的近い釉調。	1／4		358
9-40		SW208東部	無釉陶器 甕		細砂かなり多く含む	良好	茶灰色	内外ナデ仕上げ。	1／8		359
9-41		SW208東部	無釉陶器	残高46	細砂かなり多く含む	硬質	黄灰色	内外ナデ仕上げ。	小片		360
10-1	22	SW208西部	陶器火鉢		細砂かなり多く含む	硬質	暗褐色	外面ケズリ後ナデ。器壁極めて厚い	小片		347
10-2		SW208西部	黄褐釉陶器壺底部	底径80、残高58	細砂粒を少し含む	良好	生地淡橙褐色、釉黄褐色	胴部外面施釉するが、斑状に釉のない部分がある。底部は高台状に削り出し露胎。内面露胎。	1／4		328
10-3		SW208西部	滑石製石鍋口縁片	残高31				外面丁寧なケズリ仕上げ。	小片		349
10-4		SW208東部	滑石製石鍋底部片	残高28				外面ケズリ仕上げ。	小片		362
10-5		SW208東部	滑石製石鍋加工品	長さ74、幅66、厚さ27				四周整形し、滑石製石鍋底部付近破片を再加工したと考えられる。	小片		361

(2) 土坑

SK 3 (図版 8、第 11 図)

1 区北東部平坦面の中央部付近に位置する。長楕円形を基調としているが、石の露頭のためにやや歪になる。北西-南東方向に軸を向け、長軸 1.8m、短軸 0.9m を測るが、中央部が長さ 1.0m、幅 0.45m の範囲で深くなる。図示できる遺物はないが、中世土師器小片等が出土しており、中世のものと考えられる。

埋土は灰褐色粗砂であった。



第 11 図 SK 3・SK29・SK47・SK60 実測図 (1 / 40)

SK29 (図版 8、第 11 図)

1 区北東部平坦面の北側、1 区の最高所に位置する。黄褐色粗砂、炭を含んだ褐色粘土が含まれ、周辺の地山と土質が異なるために掘下げた。ほぼ南北方向に軸を向け、長軸 2.0m、短軸 1.75m を測り、浅く、床面はほぼ平坦である。出土遺物はない。

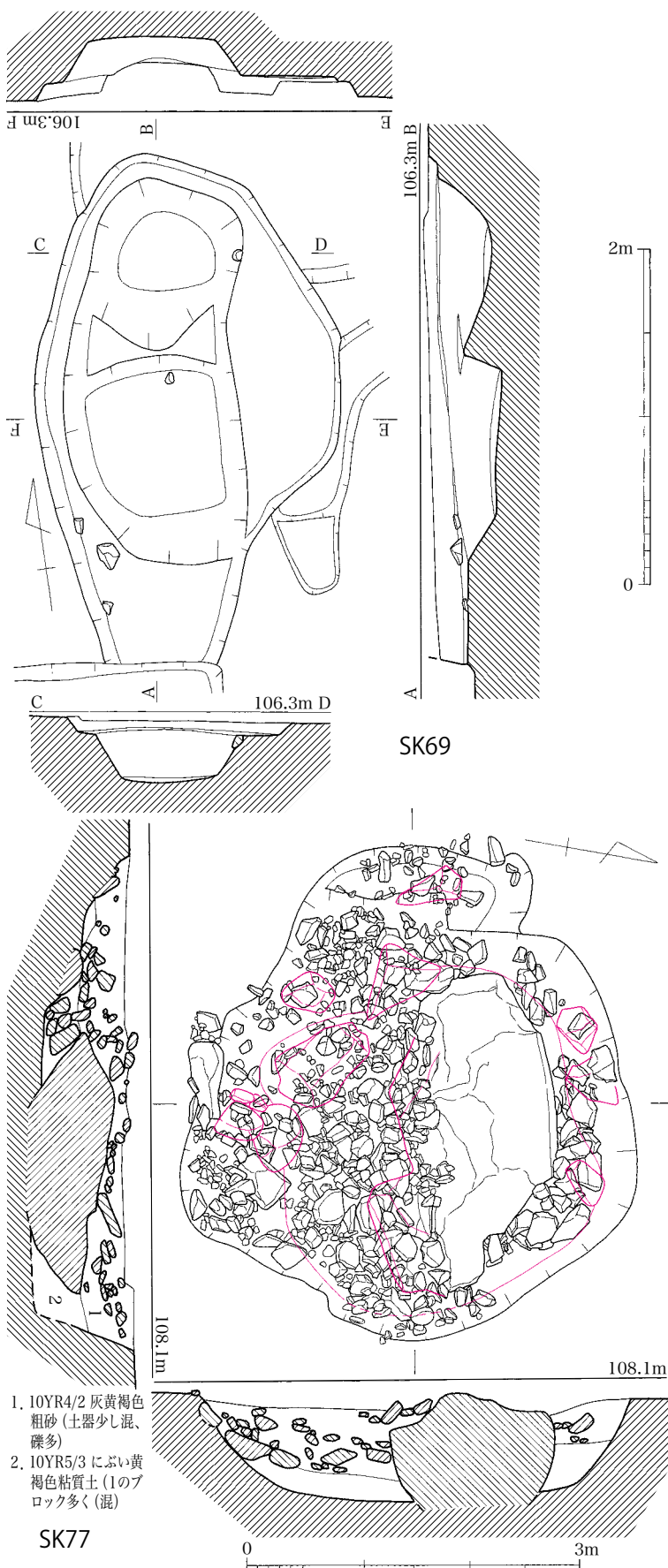
SK47 (図版 8、第 11 図)

1 区北東部平坦面の東部に位置する。長軸を南北方向に向けた、略楕円形を呈する土坑である。西壁を攪乱のピット、東壁を攪乱に壊されるが、平面形は極めて明瞭に検出することができた。長軸をほぼ南北に向け、長軸 2.15m を測り、短軸方向に 1.5m 程残存する。深さ 15cm 程と浅く、出土遺物は少ないが、土師器皿、土師器杯等の小片がある。

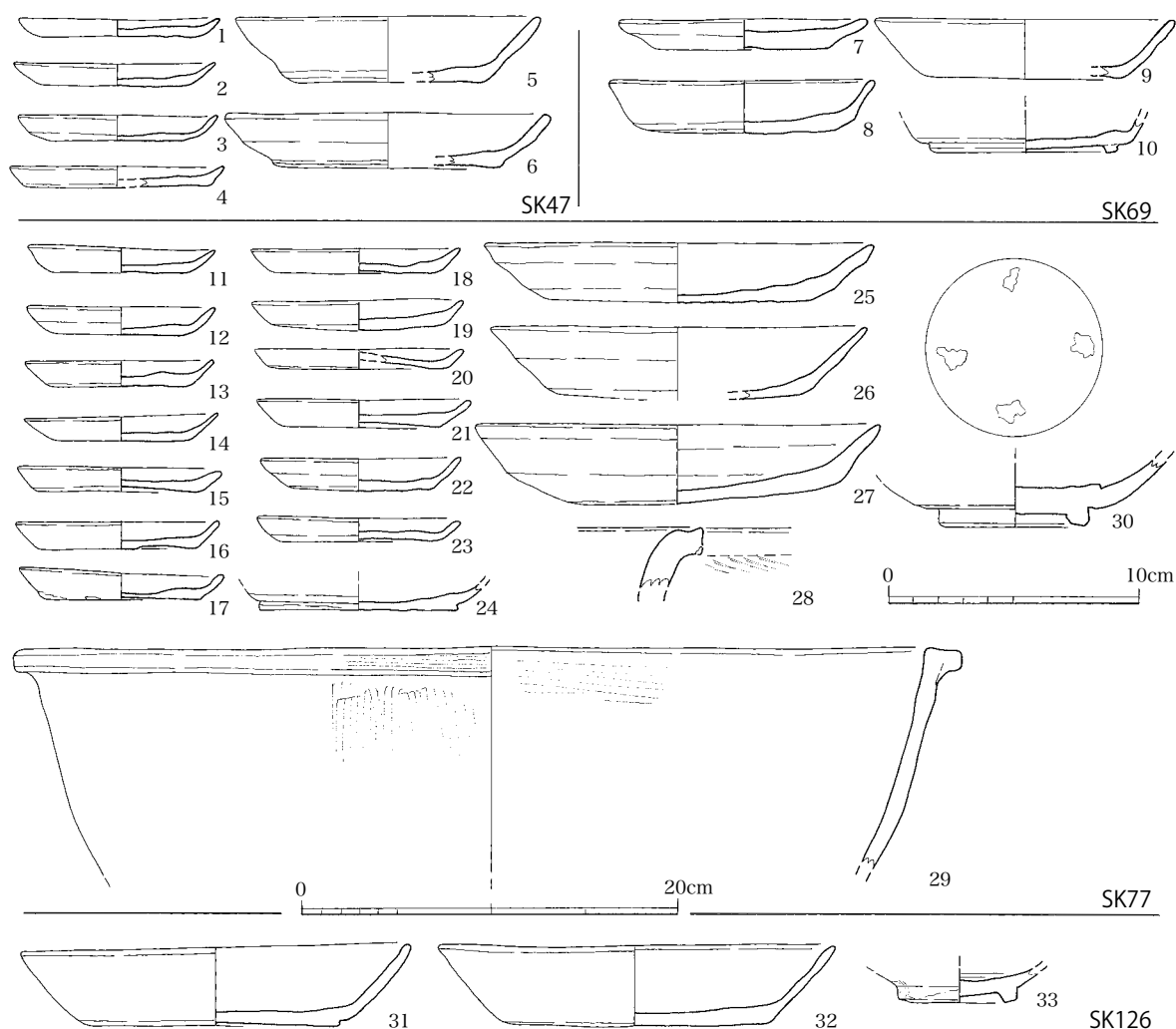
SK47 出土土器 (第 13 図 1 ~ 6、第 5 表) 1 ~ 4 は土師器皿、5・6 は土師器杯で、6 は糸切り痕を底部外面に残す。

SK60 (図版 8、第 11 図)

1 区北東部平坦面の東部に位置し、上述した、SK47 と隣接する。長軸をほぼ南北に向けた、楕円形を呈し、長軸 2.45m、短軸 1.2m を測る。深さは 15cm 程と浅く、図示できる出土遺物はないが、中世土師器が出土した。埋土、形態、規模等も SK47 と類似しており、関連する土坑と考えられ、時期も大きな差は無いものと考えられる。



第 12 図 SK69・SK77 実測図 (SK69 は 1 / 40、SK77 は 1 / 60)



第 13 図 SK47・SK69・SK77・SK126 出土土器・陶磁器実測図 (29 は 1/4、他は 1/3)

SK69 (第 12 図)

1 区北東部平坦面の中央やや南寄りに位置する。平面形では長さ 3.0m、幅 1.8m を測る長楕円形を呈するが、本来は北側の長さ 1.0m、幅 0.9m の方形の土坑と、南側の長さ 1.3m、幅 1.0m の方形の土坑が接していたものと理解すべきであろう。いずれも遺構面からの深さは 0.4m 程である。SK69 出土土器 (第 13 図 7～10、第 5 表) 7 は土師器皿、8・9 は土師器杯。10 は 8 世紀代の高台付須恵器杯で、混入品か。

SK77 (図版 9、第 12 図)

1 区北西部平坦面のほぼ中央に位置する。南北 4.0m、東西 3.7m の円形に近い平面形であるが、東と南の輪郭が乱れている。中央やや北寄りに長さ 2.8m、幅 1.5m、高さ 1.0m 以上の巨岩があり、この巨岩を埋めて平坦面を造成するために掘削された土坑と考えられる。南側にも 20cm 大の礫、岩が多量に含まれていた。石が余りにも大きいため、底面まで完掘はできなかった。また、北西部の遺構検出面には土師器皿が一括で投棄されていた。

SK77 出土土器・磁器 (第 13 図 11～30、第 5 表) 11～24 は土師器皿で、このうち 19 以外は北西部上面に一括で投棄されていたものである。11・12・15・16・17・18・20・21・23 は底部外面に糸切り痕を残す。

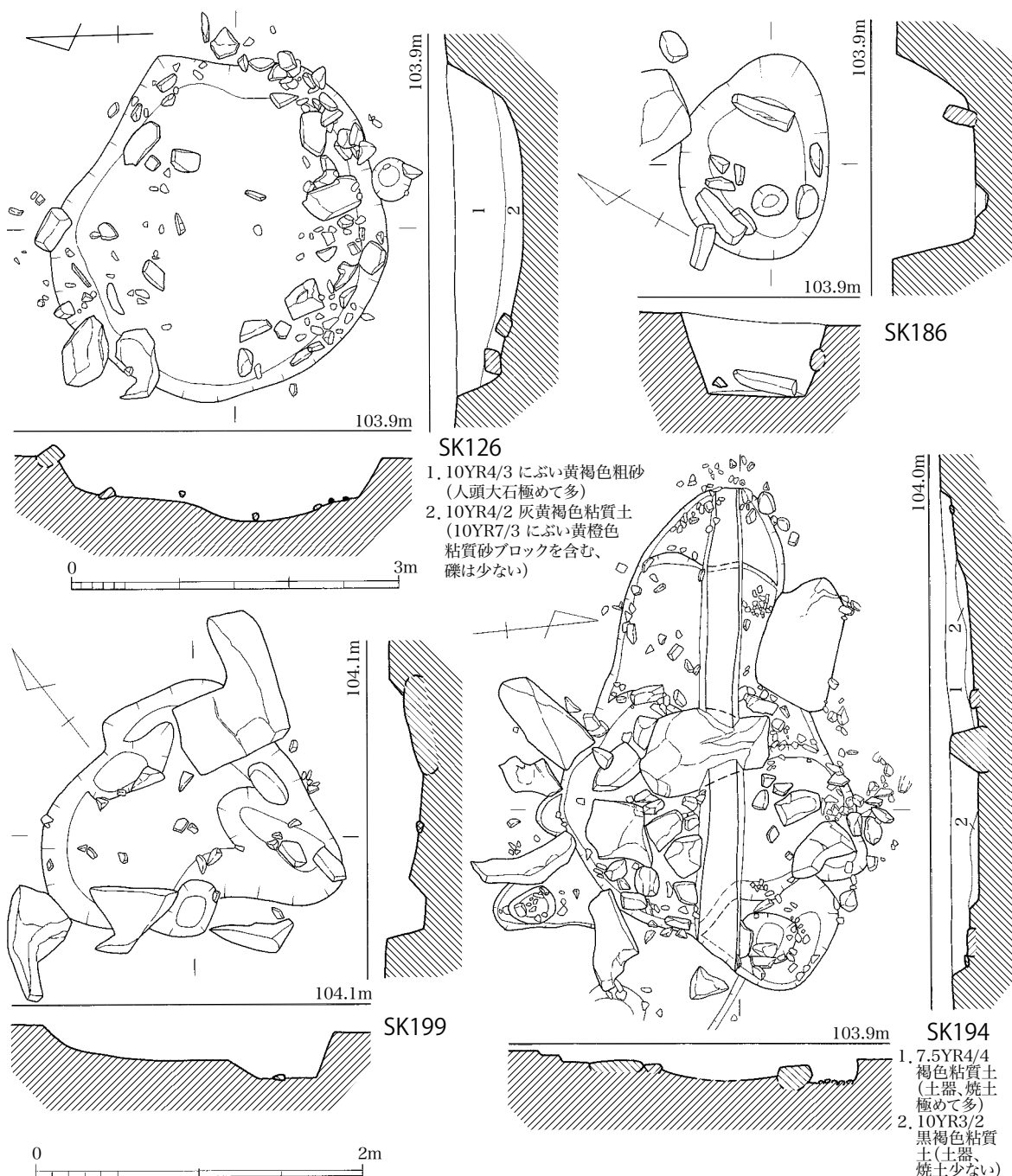
24～27は土師器杯で、24は底部外面に糸切り痕が観察できる。

28は土師器鍋の口縁部か。端部上面を強いナデにより凹ませ、外端は垂直な面をなす。29は口径50cm近い粗製の土師器鍋で、口縁端部を断面方形に突出させる。

30は青磁碗底部で、見込みに4個所の目砂跡が残っている。

第5表 SK47・SK69・SK77・SK126 出土土器・陶磁観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
13-1		SK47	土師器皿	口径78、器高7	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	白黄橙色	底部外面板圧痕を残す。	1 / 4		98
13-2	22	SK47	土師器皿	口径78、器高10	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	灰黄白色	底部外面板圧痕を残す。	口縁3 / 4		94
13-3		SK47	土師器皿	口径78、器高10	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	白黄橙色	内外摩滅顯著。	1 / 4		93
13-4		SK47	土師器皿	口径84、器高8	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡褐色	内外摩滅顯著。	1 / 3		97
13-5		SK47	土師器杯	口径116、底径72、器高26	精良だが、赤褐色粒わずかに含む	良好	淡黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	1 / 8		96
13-6		SK47	土師器杯	口径126、器高22、底径90	細砂粒少し含む	良好	白黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。	1 / 7		95
13-7		SK69	土師器皿	口径94、器高12	細砂粒少し含む	良好	淡黄橙色	内外摩滅顯著。	1 / 8		158
13-8		SK69	土師器杯	口径100、器高21	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	褐色、一部内面灰黑色	内外摩滅顯著。			157
13-9		SK69	土師器杯	口径118、器高23	細砂粒少し含む	良好	白黄橙色	内外摩滅顯著。			159
13-10		SK69	須恵器高台付杯	高台径76、残高14、高台高4	精良で、砂粒ほとんど含まず	良好堅緻	外黒灰色、内青灰色	低い高台を貼付する。外底面灰を被ったような器表。	1 / 4		160
13-11	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径72、器高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。内面指頭圧痕を残す。	ほぼ完形		178
13-12		SK77北西上層一括	土師器皿	口径72、器高11	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	白黄橙色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	2 / 3		188
13-13		SK77北西上層一括	土師器皿	口径72、器高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	白黄橙色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。			189
13-14	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径74、器高11	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡褐色	底部外面板圧痕を残す。	完形		177
13-15	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径78、器高11	細砂粒少し含む	良好	淡灰黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。			186
13-16	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径78、器高11	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡灰黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	ほぼ完形		183
13-17	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径81、器高13	細砂粒、雲母少し含む	良好	淡灰黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	口縁7 / 8、底全周。		184
13-18	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径80、器高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	全周		181
13-19	22	SK77下層	土師器皿	口径82、器高12	細砂粒、雲母少し含む	良好	灰褐色	底部外面板圧痕を残す。	口縁2 / 3、底全周。		173
13-20	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径80、器高9	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	1 / 2		187
13-21	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径86、器高11	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	口縁3 / 4、底全周。		182
13-22	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径78、器高14	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	口縁3 / 4、底全周。		176
13-23	22	SK77北西上層一括	土師器皿	口径78、器高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	淡灰黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。			185
13-24		SK77南部上層	土師器杯	底径80、残高11	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	橙褐色ー白黄橙色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。			175
13-25		SK77	土師器杯	口径152、器高23、	精良で、砂粒ほとんど含まず	良好	白黄橙色	底部外面板圧痕を残す。			168
13-26		SK77	土師器杯	口径146、器高29	細砂粒多く含む	良好	白黄色	内外摩滅顯著。			172
13-27		SK77	土師器杯	口径156、器高31	細砂粒少し含む	良好	淡黄褐色	底部外面板圧痕を残す。			169
13-28		SK77南西部上層	土師器鉢口縁部	残高24	細砂粒多く含む	良好	黒色	口縁部外面ハケメ?を残す。			179
13-29		SK77下層	土師器鉢	口径496、残高118	細砂粒多く含む	良好	外黒褐色ー褐色、内暗褐色ー褐色	口縁端部を突出させる。外面・内面、粗いハケメを残す。			174
13-30		SK77北東部上層	青磁碗	高台径60、残高26、高台高7	精良	良好	生地暗灰色、釉暗灰緑色	見込みに4個所目砂跡を残す。高台壘付ー高台内露胎。			180
13-31	22	SK126	土師器杯	口径152、器高33、底径100	2ー3mm大砂粒、雲母、赤褐色粒やや多く含む	やや甘い	白黄褐色	内外摩滅顯著。			253
13-32		SK126	土師器杯	口径154、器高32、底径84	1ー2mm大砂粒、雲母、赤褐色粒やや多く含む	良好	白黄褐色	底部外面板圧痕を残す。			254
13-33		SK126	白磁碗	高台径46、残高13、高台高6	細砂粒少し含む	良好	生地灰黄色、釉灰黄色	高台壘付ー高台内露胎。見込みを輪状に軸掻き取る。			255



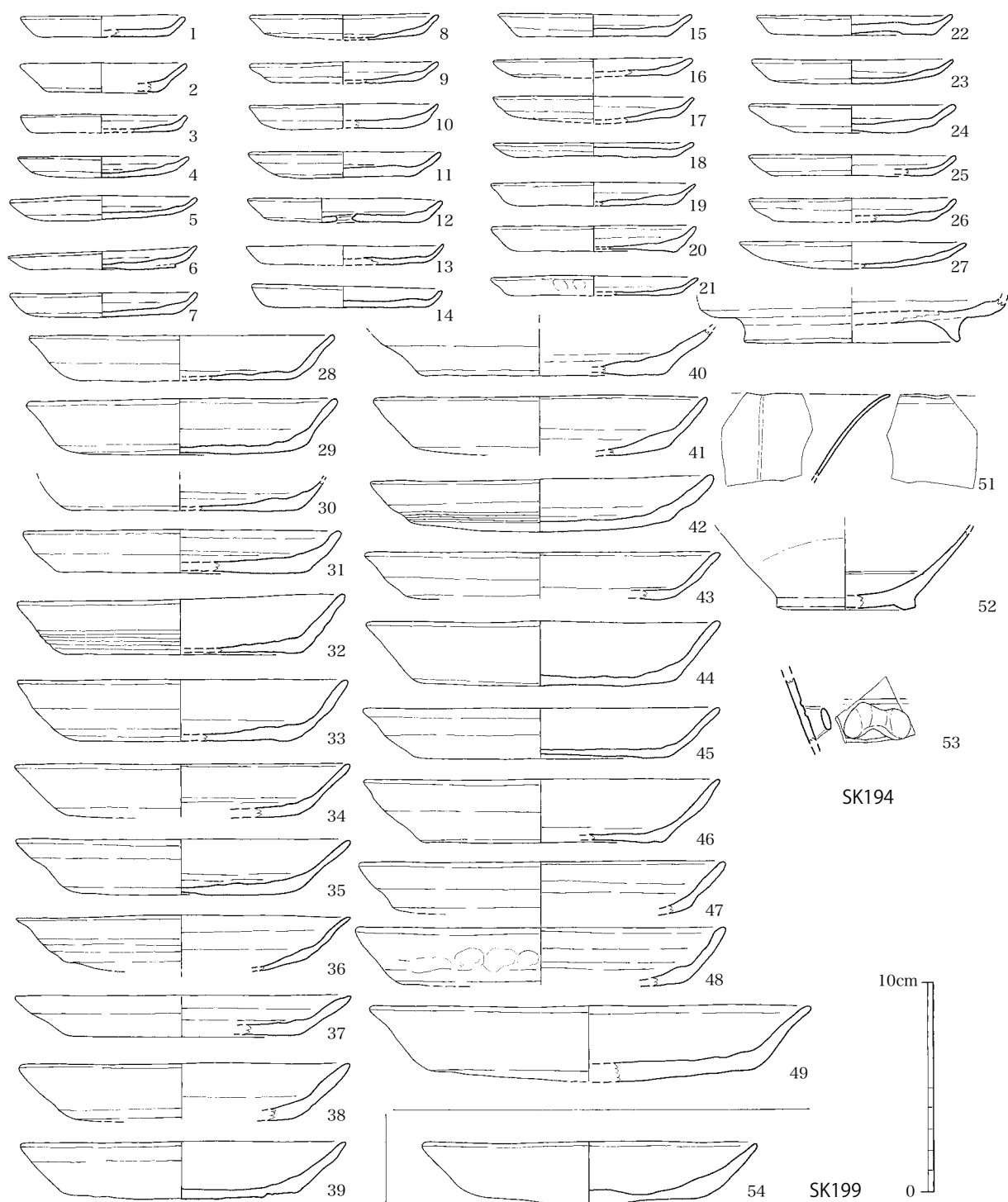
第 14 図 SK126・SK186・SK194・SK199 実測図 (SK126・SK194 は 1 / 60、他は 1 / 40)

SK126 (図版 9、第 14 図)

1 区南西部平坦面の中央やや東よりに位置する。南北 3.0m、東西 3.1m、深さ 0.6m を測るほぼ円形土坑で、土坑内埋土には 20cm 大の石が多量に含まれていた。埋土は 2 層に分かれるが、上層は厚く、人為的に埋め戻されており、整地に伴い不要な石を片づけるための土坑と考えられる。SK126 出土土器・磁器 (第 13 図 31 ~ 33、第 5 表) 第 31・32 は土師器杯であり、33 は白磁碗底部片である。

SK186 (第 14 図)

1 区南西部平坦面の中央やや西寄りに位置する。主軸を北東-南西に向けた小形の土坑である。



第15図 SK194・SK199 出土土器・陶磁器実測図 (1/3)

長さ1.3m、幅0.9mを測り、深さは0.5m程である。埋土は10YR 5/2 灰黄褐色粗砂で、図示できる遺物はないが、中世の土師器が含まれていた。

SK194 (図版9、第14図)

1区南西部平坦面の北西寄りに位置する。東西に長い不整形な落ち込み状の遺構であるが、埋土には多量の焼土と土器が含まれていた。1m近い岩の露頭もあって、平面形は不整形であるが、東西4.65m、南北2.65mの範囲に及び、深さは0.2m余りである。

第6表 SK194・SK199 出土土器・陶磁器観察表（1）

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量（mm）	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
15-1		SK194	土師器皿	口径78、器高10	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐色	内外摩減顕著。	1／6		311
15-2		SK194	土師器皿	口径78、器高14	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐色	内外摩減顕著。	1／12		316
15-3		SK194	土師器皿	口径78、器高8	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	内外摩減顕著。			272
15-4		SK194	土師器皿	口径82、器高10	1～5mm大の細砂少し含む	良好	灰褐色	内外摩減顕著。	1／4		285
15-5		SK194	土師器皿	口径88、器高11	1～4mm大の細砂少し含む	良好	灰橙褐色	底部外面板圧痕を残す。	2／5		284
15-6		SK194	土師器皿	口径86、器高11	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	橙黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／3		280
15-7		SK194	土師器皿	口径88、器高11	1～3mm大の細砂少し含む	良好	灰黄褐色	内外摩減顕著。	2／5		276
15-8		SK194	土師器皿	口径88、器高12	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	黄褐色	内外摩減顕著。			279
15-9		SK194	土師器皿	口径88、器高12	1mm大の細砂少し含む	良好	灰橙褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／4		283
15-10		SK194	土師器皿	口径88、器高13	1～3mm大の細砂少し含む	良好	灰褐色	内外摩減顕著。	1／5		275
15-11		SK194	土師器皿	口径90、器高11	1～2mm大細砂、赤褐色粒少し含む	良好	黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。			274
15-12		SK194	土師器皿	口径90、器高11	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	黄褐色	底部穿孔？の可能性がある。内外摩減顕著。			288
15-13		SK194	土師器皿	口径92、器高9	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。	1／5		310
15-14		SK194	土師器皿	口径92、器高11	細砂粒少し含む	良好	淡褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。			308
15-15		SK194	土師器皿	口径92、器高11	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。			270
15-16		SK194	土師器皿	口径92、器高8	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。	1／6		312
15-17		SK194	土師器皿	口径94、器高10	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。	1／2弱		273
15-18		SK194	土師器皿	口径94、器高7	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	橙褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	1／4		309
15-19		SK194	土師器皿	口径96、器高11	1mm大の細砂少し含む	良好	灰褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	1／2		271
15-20		SK194	土師器皿	口径98、器高12	1mm大の細砂少し含む	良好	灰橙褐色	底部外面板圧痕を残す。			281
15-21		SK194	土師器皿	口径98、器高9	1～3mm大の細砂少し含む	良好	黄灰褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／4		278
15-22		SK194	土師器皿	口径94、器高10	細砂粒少し含む	やや甘い	白黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。			307
15-23		SK194	土師器皿	口径98、器高11	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。	1／2		268
15-24		SK194	土師器皿	口径98、器高13	1mm大の細砂少し含む	良好	黄橙褐色	底部外面板圧痕を残す。			287
15-25		SK194	土師器皿	口径98、器高10	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	内外ナデ仕上げ。	1／4		286
15-26		SK194	土師器皿	口径98、器高11	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	底部外面糸切り痕を残す。	1／4		277
15-27		SK194	土師器皿	口径106、器高13	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	内外摩減顕著。	1／8		282
15-28		SK194	土師器杯	口径144、器高22	1～2mm大の細砂粒やや多く含む	良好	灰褐色	内外摩減顕著。	1／4		293
15-29		SK194	土師器杯	口径146、器高27	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／9		290
15-30		SK194	土師器杯	残高15	1mm大の細砂少し含む	良好	灰褐色	内外摩減顕著。	2／5		298
15-31	22	SK194	土師器杯	口径150、器高20	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	底部外面板圧痕を残す。			300
15-32		SK194	土師器杯	口径152、器高27	細砂粒少し含む	良好	淡褐色	底部外面板圧痕を残す。口縁下部外面強いナデにより沈線状の凹凸が巡る。内面黒変。	2／3		267
15-33		SK194	土師器杯	口径154、器高29	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。			292
15-34		SK194	土師器杯	口径158、器高26	1～3mm大の細砂少し含む	良好	灰褐色	内外摩減顕著。	1／5		302
15-35		SK194	土師器杯	口径158、器高27	1mm大の細砂、雲母少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／8		299
15-36		SK194	土師器杯	口径158、器高26	1mm大の細砂少し含む	良好	灰褐色	底部外面糸切り痕を残す。	1／5		294
15-37		SK194	土師器杯	口径158、器高20	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐色、内面一部灰変	底部外面糸切り痕を残す。			314
15-38		SK194	土師器杯	口径156、器高27	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐色	内外摩減顕著。			315
15-39	22	SK194	土師器杯	口径154、器高27	細砂粒少し含む	良好	橙褐色	底部外面ヘラ切り後板圧痕を残す。		石膏により完形復元	264
15-40		SK194	土師器杯	底径112、残高22	精良だが、赤褐色粒少し含む	良好	灰黄褐色	内外摩減顕著。	1／4		313

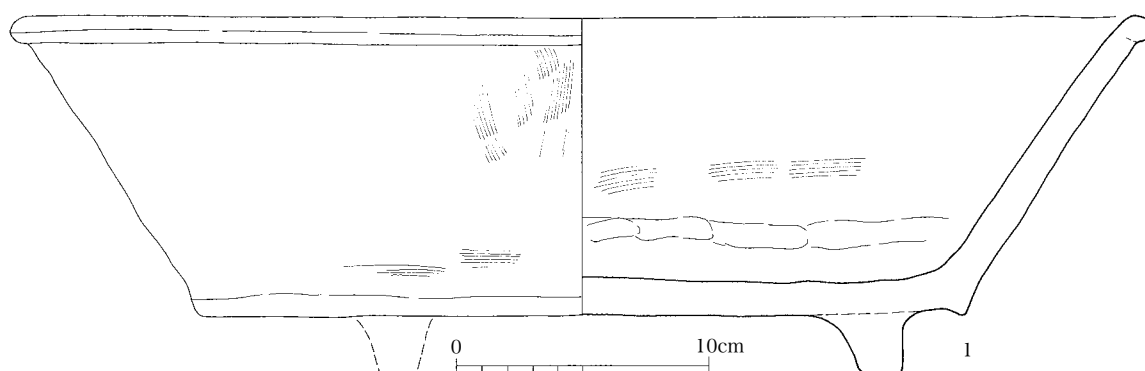
SK194 出土土器・陶磁器（第 15 図 1～53・第 16 図、第 6・7 表） 1～27 は土師器皿で、11・13・14・16～19・22・26 は底部外面に糸切り痕を残す。28～49 は土師器杯である。33・36・37 は底部外面に糸切り痕を残し、32・42 は胴下部外面の強いナデによる沈線状の凹みが特徴的である。50 は土師器碗で、大きい高台径が特徴的である。51 は白磁口縁部で口縁部内面に縦方向の沈線が施文される。52 は白磁碗底部片、53 は白磁四耳壺耳部破片。

第 16 図 1 は土師質の火鉢で、脚が貼付される。

SK199（第 14 図）

1 区南東部平坦面のやや西よりに位置する。岩の露頭もあって不整形であるが、現状では隅丸の三角形を呈する。図示した方向に即して述べれば、底辺 1.8m、高さ 1.35m 程で、最深部で深さ 0.3m 程を測る。埋土は 10YR 6／2 灰黄褐色粗砂を主体とし、斑状に 10YR 4／2 灰黄褐色粘土を含む。

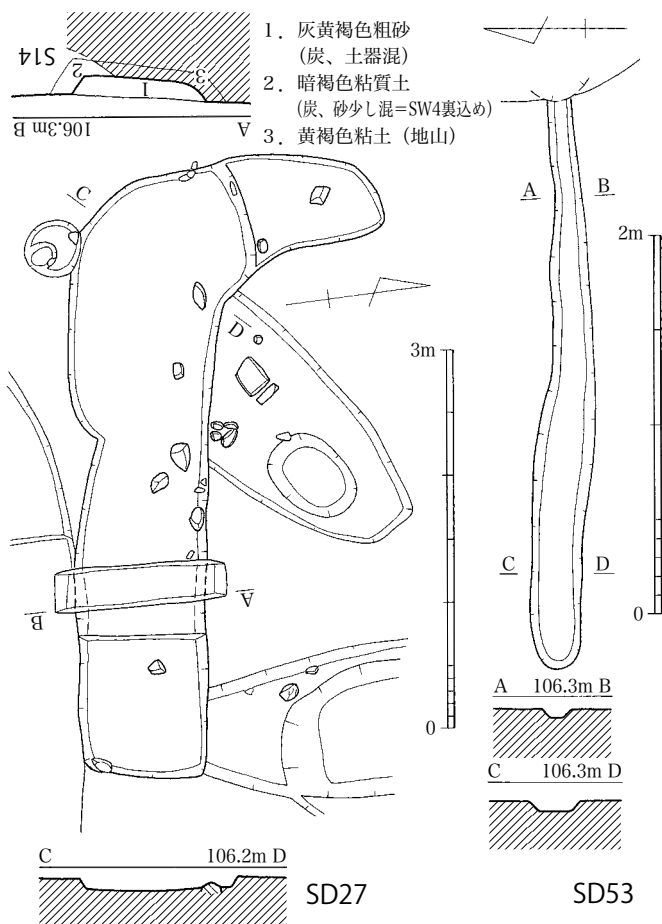
SK199 出土土器（第 16 図 54、第 7 表） 土師器杯で、底部外面には板圧痕が残る。



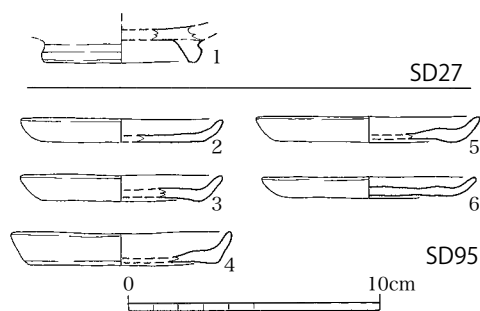
第 16 図 SK194 出土土器火鉢実測図（1／3）

第 7 表 SK194・SK199 出土土器・陶磁器観察表（2）

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
15-41		SK194	土師器杯	口径158、器高27	1mm大の細砂多く含む	良好	灰褐色	内外摩擦顕著。	1／6		296
15-42	22	SK194	土師器杯	口径164、器高26	細砂粒、雲母、赤褐色粒を少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕。口縁下部外面強いナデにより沈線状凹凸が巡る。	3／4		269
15-43		SK194	土師器杯	口径168、器高22	1mm大の細砂少し含む	良好	灰褐色	内外摩擦顕著。	1／6		297
15-44	22	SK194	土師器杯	口径168、器高31	細砂粒、雲母、赤褐色粒を少し含む	良好	灰黄色	底部外面板圧痕を残す。	1／3		265
15-45		SK194	土師器杯	口径168、器高34	1～3mm細砂、雲母やや多く含む	良好	灰褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／7		301
15-46		SK194	土師器杯	口径168、器高30	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	内外摩擦顕著。	1／4		289
15-47		SK194	土師器杯	口径174、器高24	1mm大の細砂少し含む	良好	灰黄色	内外摩擦顕著。口縁部外面指頭圧痕を残す。	1／5		295
15-48		SK194	土師器杯	口径174、器高24	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	内外摩擦顕著。口縁部外面指頭圧痕を残す。	1／4		291
15-49	22	SK194	土師器杯	口径174、器高28	細砂粒少し含む	良好	灰黄色	底部外面板圧痕を残す。	2／3		266
15-50		SK194	土師器碗	口径208、器高36	精良、砂粒ほとんど含まない	良好	灰褐色	内外摩擦顕著。	1／2		303
15-51		SK194	白磁碗	残高39	精良	良好	生地灰白色、釉緑灰白色	口縁輪花状で、内面に縦方向の低い隆線あり。	小片		304
15-52		SK194	白磁碗底	底径66、器高39	精良	良好	生地灰褐色、釉緑灰白色	外面胴下部～高台内露胎、内面施釉。見込みに沈線を巡らす。	1／2		306
15-53		SK194	白磁四耳壺		精良	良好	生地灰褐色、釉灰褐色	内外施釉、橋状の粘土を貼付して耳とする。	小片	青磁か白磁か区別に悩む	305
15-54		SK199	土師器杯	口径158、器高29	1～2mm大細砂、雲母、赤褐色粒少し	良好	白黄褐色	底部外面板圧痕を残す。			319
16-1	22	SK194	土師器脚付火鉢	口径440、器高139	3～5mm粗砂、雲母・赤褐色粒多い	良好	1／2	内外ハケメナデ消し仕上げか。底部外面脚貼付し、脚内面をナデ。	1／2		317



第 17 図 SD27・SD53 実測図
(SD27 は 1 / 60、SD53 は 1 / 40)



第 18 図 SD27・SD95 出土土器実測図 (1 / 3)

(3) 溝

SD27 (第 17 図)

1 区北東部平坦面の中央やや南寄りに位置する。東西に長く延び、西端で北に屈折する幅 0.6m 程の溝である。深さ 0.1m 余りと浅く、床面はほぼ平坦である。

SD27 出土土器 (第 18 図 1、第 8 表) 高台付の土師器碗である。

SD53 (第 17 図)

1 区北東部平坦面の東寄りに位置する。ほぼ東西に走る細い溝で、東端は SK47 に切られる。幅 0.3m、深さ 0.1m に満たない溝で、図示できる出土遺物もないが、東西方向を意識しており、区画を目的とした可能性も考えておきたい。埋土は 7.5YR 4 / 3 褐色粘質土。

SD95 (第 20 図)

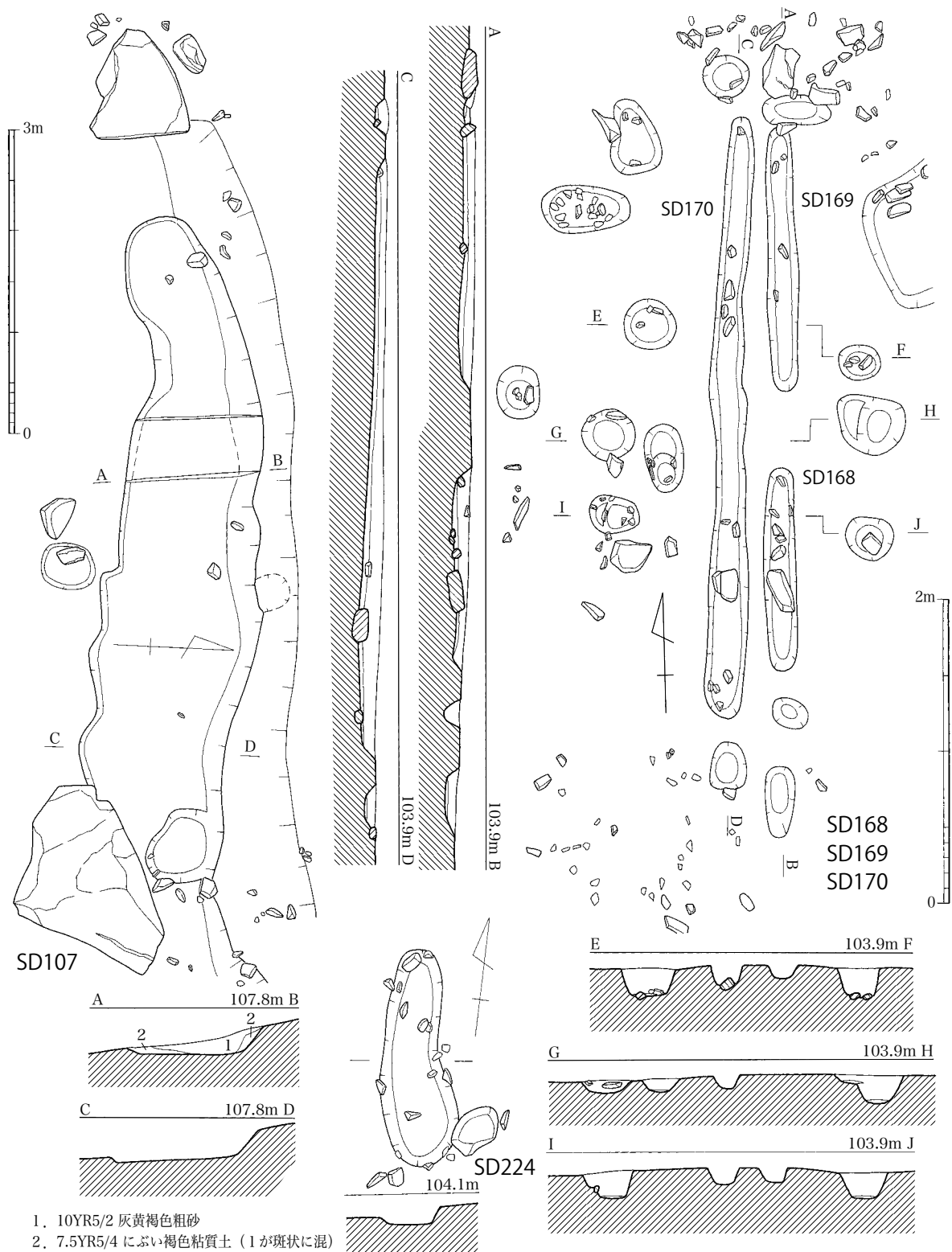
SX66 とともに、図示した。ほぼ南北方向を向き、長さ 4.6m、幅 1.5m を測る。西側が最も深く、遺構面から 0.4m 程の深さである。上層は 2.5Y 5 / 1 黄灰色砂、下層は炭を多く含んだ 10YR 4 / 1 褐灰色粗砂が堆積していた。

斜面に堆積した包含層 SX66 の東に位置しており、斜面と平坦面の境界を意識して掘削されたものであろう。

SD95 出土土器 (第 18 図 2～6、第 8 表) いずれも土師器小皿である。口径 78～88mm を測り、3 は底部外面に糸切り痕を残す。

第 8 表 SD27・SD95 出土土器観察表

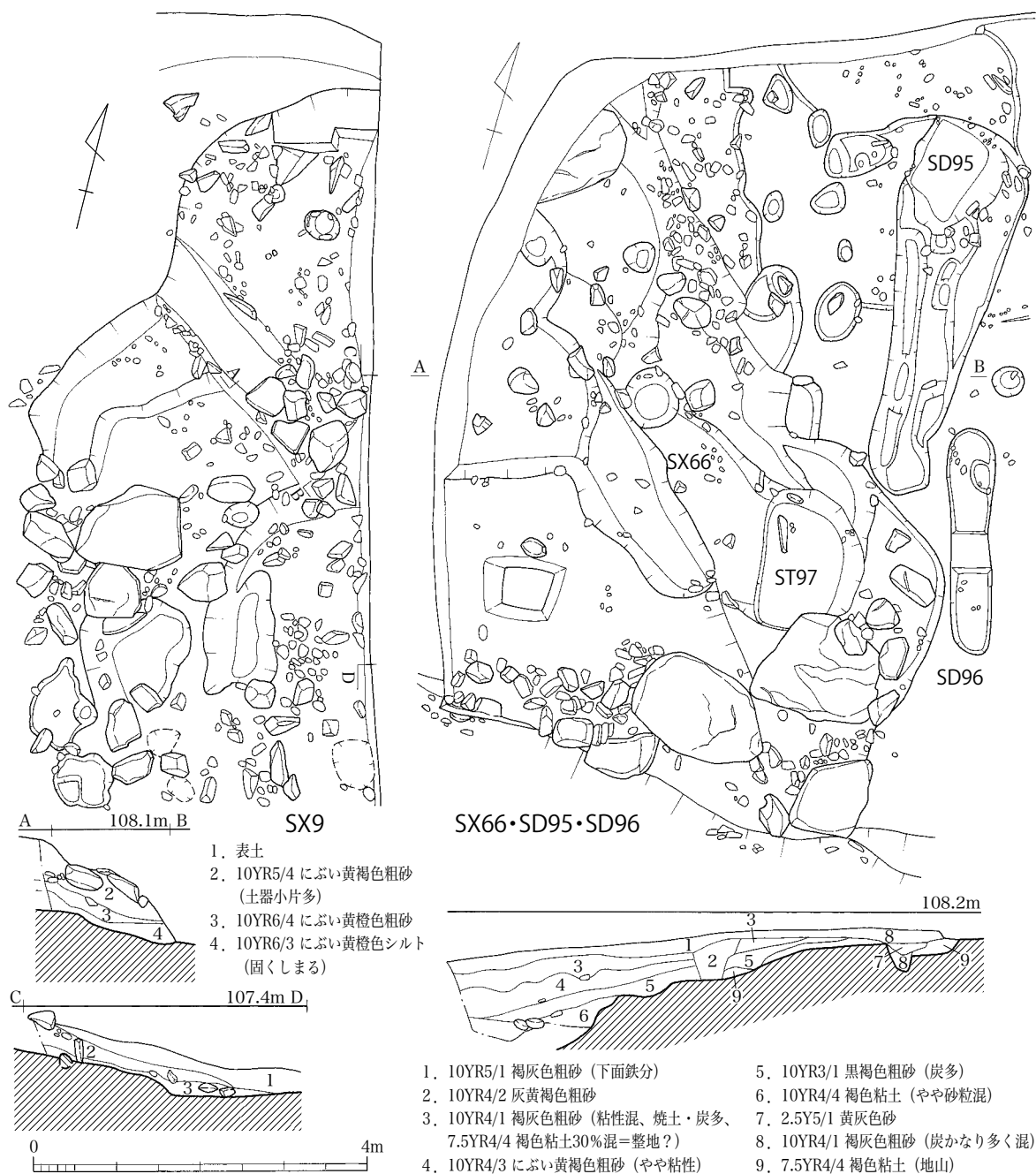
挿図番号	図版番号	出土遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録番号
18-1		SD27	土師器碗	高台径 62、残高 14、高台高 9	精良	良好	白黄色	内外摩滅顕著。			89
18-2		SD95	土師器皿	口径 78、器高 9	細砂粒、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	淡褐灰色	内外摩滅顕著。	1 / 4		195
18-3		SD95	土師器皿	口径 80、器高 10	細砂粒、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	灰黄橙色	底部外面糸切り痕を残す。	1 / 3		198
18-4		SD95 南半	土師器皿	口径 84、器高 13	細砂粒、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	橙灰色	内外摩滅顕著。	1 / 2		194
18-5		SD95	土師器皿	口径 88、器高 10	細砂粒、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	橙褐色	底部外面板圧痕を残す。	1 / 2		197
18-6		SD95	土師器皿	口径 84、器高 8	細砂粒、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	白黄橙色	内外摩滅顕著。	1 / 4		196



第 19 図 SD107・SD168・SD169・SD170・SD224 実測図 (SD107 は 1 / 60、他は 1 / 40)

SD96 (第 20 図)

SX66 とともに図示した。SD95 の南に位置し、ほぼ南北を向くが、北側でわずかに西に軸を振っている。長さ 2.7m、最大幅 0.6m を測る。深さは 0.1m 内外と極めて浅いが、輪郭は比較的明瞭であった。位置から、SD95 と関連をもつ遺構と考えられ、同様に斜面地と平坦面の境界を意識したものであろう。埋土は 10YR 5 / 2 灰黄褐色粗砂。



第 20 図 SX 9・SX66・SD95・SD96 実測図 (1 / 80)

SD107 (第 19 図)

1 区北西部平坦面は南側で高さ 0.3m 程の段差が形成されていた。本溝はその段差の下を区画する凹み状の遺構である。ほぼ東西を向き、長さ 6.5m、幅 1.3m 程で、東端は巨石の露頭のために収束部が不明瞭となっている。図示できる遺物はない。

SD168・SD169・SD170 (第 19 図)

1 区南西部平坦面の南西部で検出された。基本的には正南北方向に 2 条の溝が平行して伸びているものと理解されるが、西側を SD170 とし、東側の溝の北半を SD169、南半を SD168 とした。南に位置するピットも連続する溝の一部と考えられ、それを含めると南北 5.5m 程になる。いずれ

の溝も幅 0.2m 程で、溝の東西間隔 0.15 ～ 0.2m 程、深さは 0.1m 程である。正南北を向くこと、この溝の西側では遺構密度が若干希薄になる傾向が指摘できることから、区画の機能を果たしたものと考えられる。10YR 4／1 褐灰色砂～10YR 5／1 褐灰色砂を埋土とする。図示できるような遺物はない。

SD224 (第 19 図)

1 区南西部平坦面の西部で検出された短い溝である。最大幅 0.5m、長さ 1.4m 程を測り、深さは 0.1m に満たない。埋土は 10YR 4／1 褐灰色粗砂であり、小片のため図示していないが、瓦器皿等が出土している。

(4) 包含層等

SX 9 (第 20 図)

1 区北東部平坦面の北東斜面地に堆積した包含層で、SX76 の北に位置する。石・礫を多量に含んだ包含層である。下層には土器細片を比較的多く含んでいる。恐らく斜面地に自然堆積した包含層ではないかと考えられる。

SX 9 出土土器・磁器 (第 21 図 1 ～ 8、第 9 表) 1 ～ 3 は土師器皿、4 は土師器杯である。5 は口径が大きく、間隔の広い揃目を施文した土師器揃鉢である。内外の調整は雑なハケ、ナデ仕上げである。6 は白磁碗口縁部、7・8 は青磁碗口縁部。

SX64・SX65

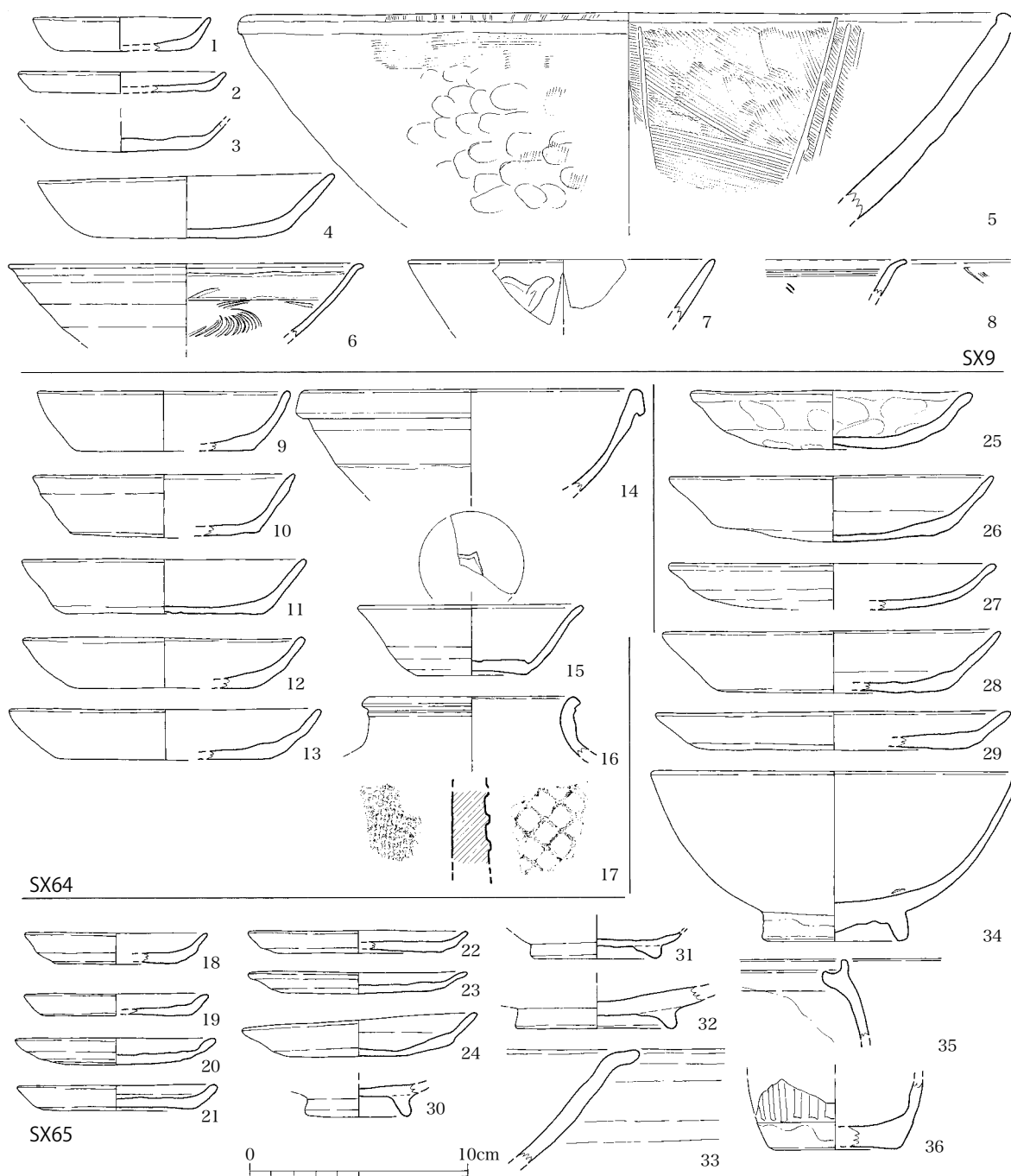
1 区北西部平坦面、後述する SX108 の北側から、SX66 の東側にかけて遺構面に堆積していた包含層であり、SK77 の上面に位置する。西部を SX64、東部を SX65 に分けて取り上げた。比較的均質な 10YR 5／3 ～ 10YR 4／3 にぶい黄褐色粗砂であり、整地層と考えられる。その出土遺物は包含層下面で検出された各遺構に本来伴うものが含まれるのであろう。

SX64 出土土器・磁器・瓦 (第 21 図 9 ～ 17、第 9 表) 9 ～ 13 は土師器杯で、9・11・12 は底部外面に糸切り痕を残す。14 ～ 16 は白磁で、14 は碗、15 は体部が直線的に伸びる杯、16 は壺等の口縁部となるか。17 は格子タタキの瓦小片である。

SX65 出土土器・陶磁器 (第 21 図 18 ～ 36、第 9 表) 18 ～ 24 は土師皿、25 ～ 29 は土師器杯である。ただ、29 は口径に比べ器高が小さいため、皿との分類に悩む器径である。30 ～ 32 は土師器碗の高台付近破片であり、いずれも、高台は低い。33 は土師器鉢の口縁部か。34 は青磁碗で、内見込みに目砂痕跡が残る。35 は器形不明の陶器であるが、外面は露胎で内面に施釉される。36 は褐釉陶器の底部付近の破片。

SX66 (図版 10、第 20 図)

1 区北西部平坦面の西端に位置する。東から西に向って深くなり、遺構面から 1.2m 程の深さまで掘下げたが、西側に位置する里道の安全上の問題を考慮して、最下面までは完掘していない。上部では 1・3 ～ 5 層が斜面の傾斜に沿って堆積しており、自然堆積によるものと考えられる。上述のように東に位置する溝 SD95・SD96 は包含層の堆積する斜面地と平坦面の区画を意識したものであろう。土器等の小片を比較的、多く含む。



第21図 SX 9・SX64・SX65 出土土器・陶磁器・瓦実測図（1／3）

なお、下面で検出した中世墓 ST97 は、本包含層の掘下げ作業中には掘り方の存在に気がつかなかったが、包含層がある程度、堆積した後に掘り込まれたものと推測される。

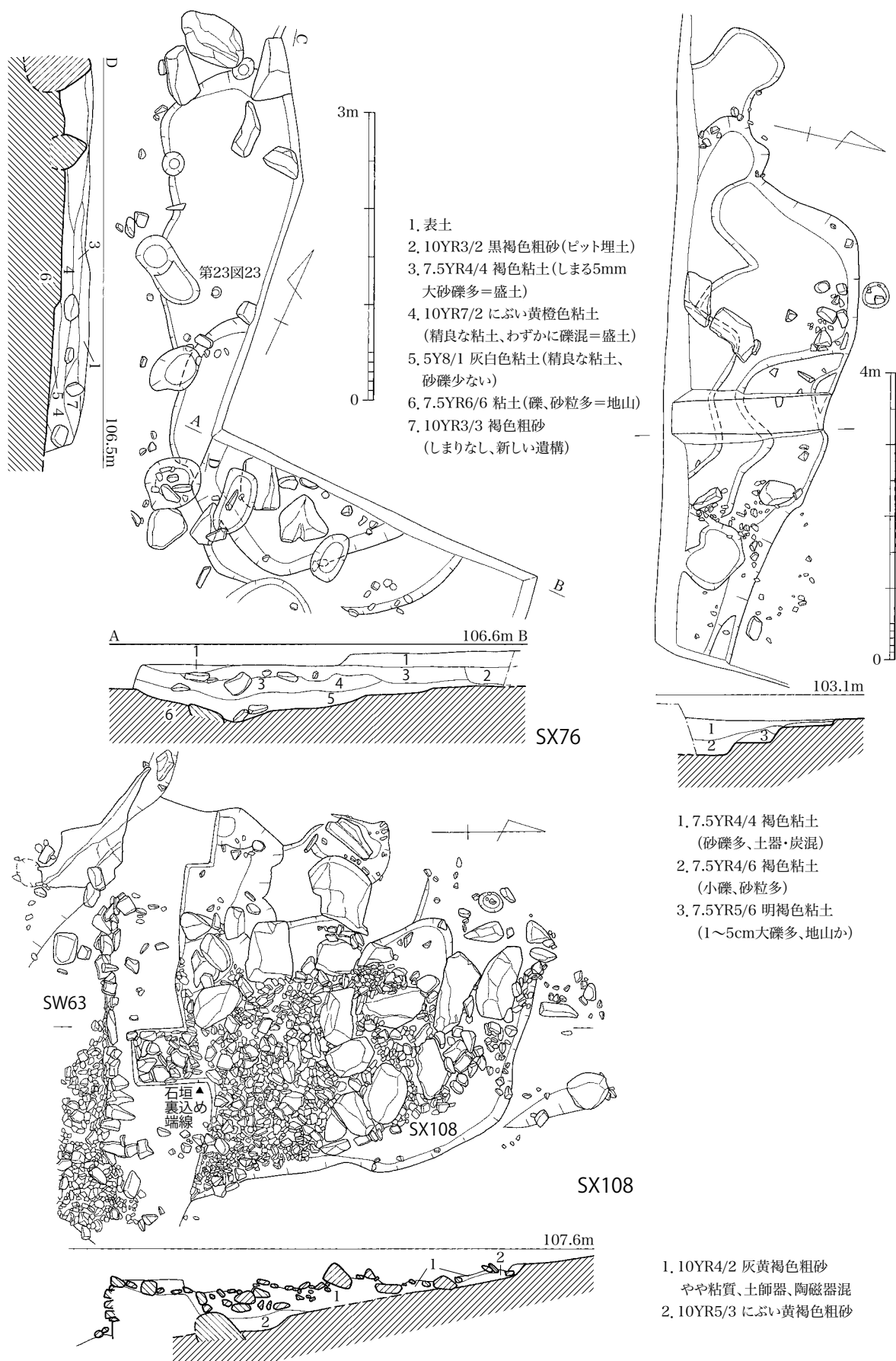
SX66 出土土器・磁器（第23図 1～20） 1～8 は土師器皿であり、8 は外面に底部外面に糸切り痕を残す。9～11 は土師器杯で、9 は丸みを帯びた器形をなし、11 は直線的に口縁部が外傾する。12 は高い高台が特徴的な土師器碗底部である。

13 は瓦質に近い焼成の杯。15 は小形の瓦器碗で、14 も同様の器形をなすかと推測される。17 は須恵質無文の小形壺胴上半部。

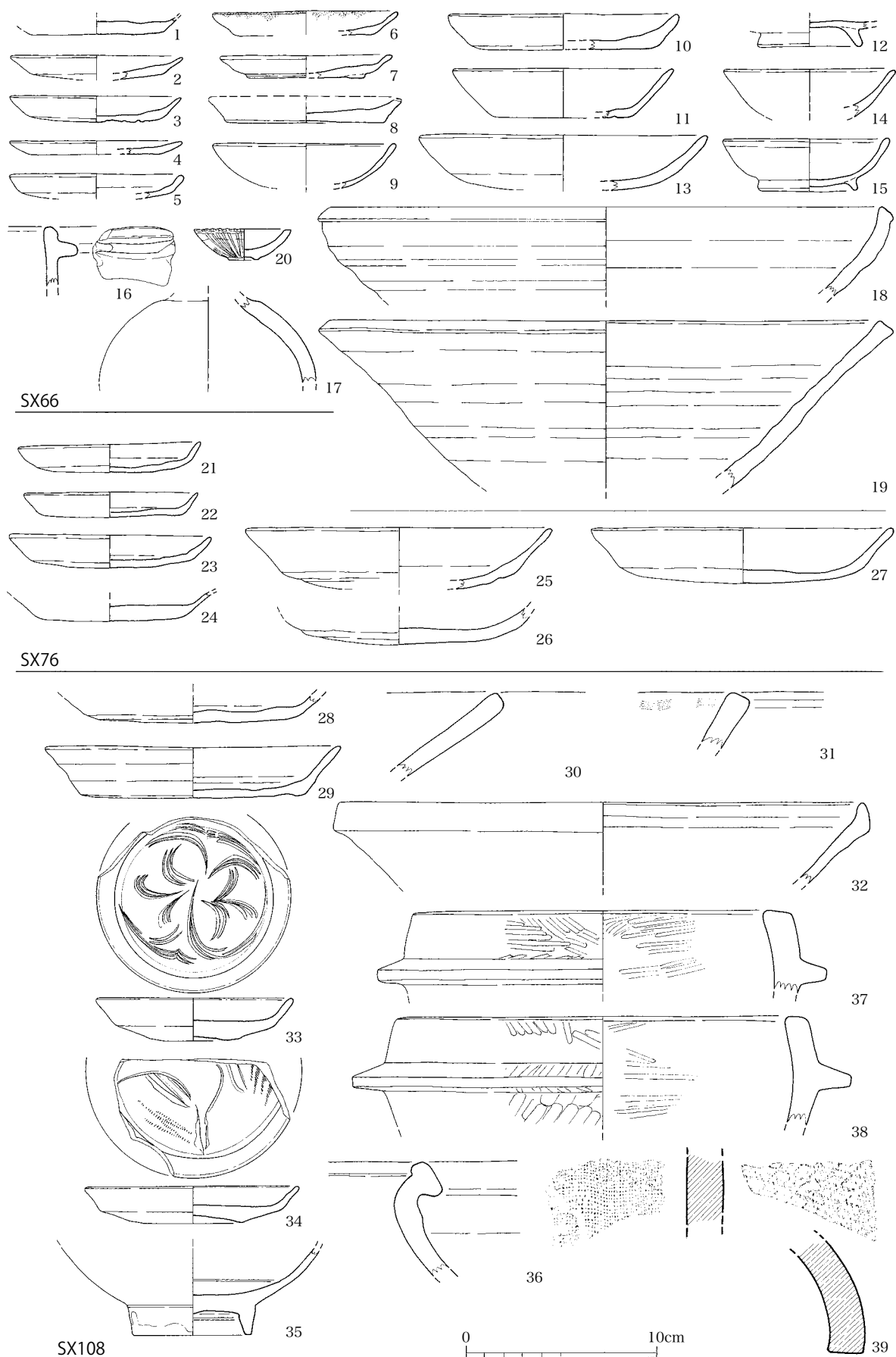
18・19 は須恵質の捏鉢であり、18 は口縁部が丸みを帯びて直立するのに対して、19 は直線的に外傾する。20 は白磁の小皿。

第9表 SX 9・SX64・SX65 出土土器・陶磁器・瓦観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
21-1		SX 9 北部	土師器皿	口径80、器高15	細砂粒少し含む	良好	黄褐色	内外摩減。			6
21-2		SX 9	土師器皿	口径94、器高10	精良だが、雲母少し含む	良好	白橙色	底部外面板圧痕を残す。			7
21-3		SX 9	土師器皿	口径94、器高14	細砂粒、雲母少し含む	良好	灰褐色	底部外面回転ヘラ切り後板圧痕を残す。			2
21-4		SX 9 最下層	土師器杯	口径134、器高29	1-2mm大細砂粒、赤褐色粒含む	良好	橙褐色	底部外面回転ヘラ切り後板圧痕を残す。	底部完存、口縁部4/5残		4
21-5		SX 9 北部	土師器播鉢	口径348、残高95	細砂粒含む	良好	灰黄褐色	内面ハケ後間隔が広く、粗い播り目を施す。外面ハケ後ナデ。口縁端部ヘラ工具で擦過。			5
21-6		SX 9	白磁椀	口径164、残高35	精良	良好	生地白灰色、釉灰緑色	内面櫛描文を施文。	1/6		3
21-7		SX 9	青磁椀	口径138、残高29	精良	良好	生地灰色、釉灰緑色	外面片刃彫による施文。	1/8		9
21-8		SX 9	青磁椀	残高17	精良	良好	生地灰色、釉緑色	内外施文わずかに残る。	小片		10
21-9		SX64	土師器杯	口径112、器高27、底径82	精良だが、雲母少し含む	良好	白黄橙色	底部外面糸切り痕を残す。	1/4		105
21-10		SX64	土師器杯	口径118、器高38	精良だが、雲母、赤褐色粒含む	良好	灰黄褐色	内外ナデ仕上げ。	1/5		103
21-11		SX64	土師器杯	口径126、器高28	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	白黄褐色-白黄灰色	底部外面糸切り後板圧痕を残す。	1/4		92
21-12		SX64	土師器杯	口径126、器高23	精良だが、雲母少し含む	良好、内面一部黒変	白黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。内外の摩減顕著。	1/4		110
21-13		SX64	土師器杯	口径140、器高24	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	白黄橙色	底部外面板圧痕を残す。	1/8		104
21-14		SX64	白磁椀	口径148、残高47	精良	良好	生地黄灰色、釉灰色	胴下部外面露胎。口縁の玉縁は大きく厚い。	1/8		106
21-15		SX64	白磁杯	口径100、底径48、器高32	精良	良好	生地白黄灰色、釉灰色	やや深め器形、見込みに施文する。口縁端内面軸掻き取り、底部外周わずかに露胎。	底部1/3残		107
21-16		SX64	白磁壺口縁部	口径92、残高28	精良	良好	生地灰色、釉灰緑色	内外施軸。口縁端下部外面にかすかに突帯状の隆起が巡る。	1/4		108
21-17		SX64	平瓦小片	厚さ16	細砂粒少し含む	良好	表灰色、内黒灰色	外面格子タタキ、内面布目圧痕。	小片		109
21-18		SX65南部下層	土師器皿	口径82、器高14	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	外白黄橙色、内暗灰色	底部外面板圧痕を残す。	1/6		122
21-19		SX65北部下層	土師器皿	口径82、器高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	白黄橙色	内外摩減顕著	1/4		114
21-20		SX65北部下層	土師器皿	口径90、器高12	細砂粒、雲母少し含む	良好	淡黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	1/12		113
21-21	22	SX65北部下層	土師器皿	口径90、器高11	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り後板圧痕を残す。	1/3		112
21-22		SX65南部下層	土師器皿	口径98、器高10	細砂粒、雲母少し含む	良好	褐色	底部外面ヘラ切り痕を残す	1/10		120
21-23		SX65北部最下層	土師器皿	口径98、器高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	褐色	底部外面糸切り痕を残す。			111
21-24	22	SX65北部最下層	土師器皿	口径106、器高20	細砂粒、雲母少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。			133
21-25		SX65北部最下層	土師器杯	口径128、器高26	細砂粒少し含む	良好	白黄橙色	内外指頭圧痕を顕著に残す。	1/7		134
21-26	23	SX65南部下層	土師器杯	口径148、器高30	2-5mmの砂粒を少し含む	良好	白黄色-白灰色	内外摩減顕著。			117
21-27		SX65南部下層	土師器杯	口径146、器高21	精良だが、赤褐色粒含む	良好	白黄褐色	内外摩減顕著			121
21-28		SX65南部下層	土師器杯	口径153、器高29	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	黄橙色-橙色	内外摩減顕著であるが、底部外面はヘラ切りか。	1/5		118
21-29		SX65南部下層	土師器杯	口径162、器高17	精良	良好、内中心部黒変	褐色-黄褐色	内外の摩減顕著。			119
21-30		SX65南部下層	土師器椀底部	高台径44、残高15、高台高9	精良だが、赤褐色粒含む	良好	白黄色	内外の摩減顕著。	1/2		125
21-31		SX65最下層	土師器椀底部	高台径54、残高12、高台高6	細砂粒少し含む	良好	白黄灰色	高台内ナデ、その他内外摩減顕著。			150
21-32		SX65最下層	土師器椀底部	高台径70、残高19、高台高9	精良だが、雲母、赤褐色粒含む	良好	白黄褐色	内外の摩減顕著。			132
21-33		SX65南部下層	土師器鉢口縁部	残高53	精良だが、雲母、赤褐色粒含む	良好	褐色	口縁部は屈曲して外反。胴下部ケズリ？、口縁内外ナデ仕上げ。	小片		124
21-34	23	SX65北部下層	青磁椀	口径164、器高76、高台径66、高台高12	精良	良好	緑黄色	高台畳付露胎、内見込みに目跡あり。	底部完存		116
21-35		SX65南部下層	黒釉陶器口縁部	残高38	精良	良好	生地暗灰色、釉黒褐色	口縁部内側に蓋受け状の突出がある。外面露胎、内施軸。	小片		126
21-36		SX65	褐釉陶器底部	底径62、残高32	精良	良好	生地白黄灰色、釉褐色	外面は彫りの深い縦方向の線刻を施す。胴部外面施軸、内面薄く施軸、底部外面露胎。	1/2		115



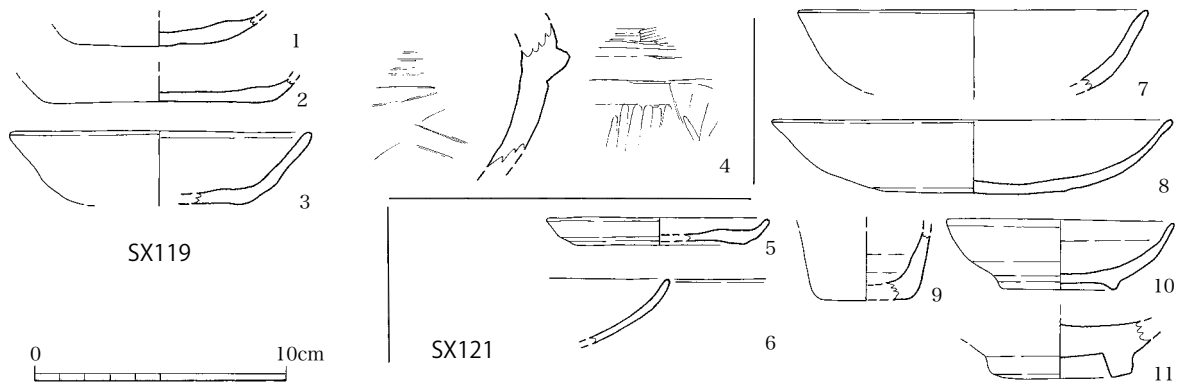
第 22 図 SX76・SX108・SX121 実測図 (SX76 は 1 / 60、他は 1 / 80)



第 23 図 SX66・SX76・SX108 出土土器・陶磁器・石鍋・瓦実測図 (1 / 3)

第 10 表 SX66・SX76・SX108 出土土器・陶磁器・石鍋・瓦観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
23-1		SX66南半 上層	土師器皿	残高 9	細砂粒、雲母少し含む	良好	明褐色	内外摩滅顕著。	底全周		136
23-2		SX66最下 層	土師器皿	口径88、器高12	精良だが、赤褐色粒含む	良好	白黄橙色	内外摩滅顕著。	1 / 6		152
23-3	23	SX66南半 上層	土師器皿	口径86、器高13	細砂粒少し含む	良好	淡黄褐色	外底面へラ切り痕を残す。			135
23-4		SX66最下 層	土師器皿	口径88、器高 7	細砂粒少し含む	良好	灰黄色	内外摩滅顕著。			148
23-5	23	SX66最下 層	土師器皿	口径86、器高13	精良だが、赤褐色粒含む	良好	白灰黄色	内外摩滅顕著。			151
23-6		SX66南半 上層	土師器皿	口径96、器高12	精良だが、赤褐色粒含む	良好	白灰橙色	底部外面ナデ。口縁端部内外に煤付着。	1 / 6		137
23-7		SX66最下 層	土師器皿	口径88、器高13	細砂粒少し含む	良好	灰黄色	内外摩滅顕著。			149
23-8		SX66ベル ト	土師器皿	口径96、器高13	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	橙褐色	外面糸切り痕を残す。			140
23-9		SX66ベル ト	土師器杯	口径94、器高22	細砂粒少し含む	良好	白黄褐色	内外摩滅顕著。			144
23-10		SX66北半 上層	土師器杯	口径118、器高19	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	外灰黄橙色、 内灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。			156
23-11		SX66東部	土師器杯	口径116、器高25	細砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。			146
23-12		SX66最下 層	土師器鉢	高台径54、残高14	細砂粒少し含む	良好	白黄灰色	高い高台を貼付。内外の摩滅顕著。			155
23-13		SX66南半 上層	瓦器杯	口径146、器高28	細砂かなり含む	良好	白灰色ー黒色	内外の摩滅顕著。	1 / 4		139
23-14		SX66ベル ト	瓦器碗	口径88、残高25	精良	良好	灰色	口径の小さい瓦器碗か。			141
23-15		SX66南半 上層	瓦器碗	口径82、器高27、高台径52、高台高 7	細砂粒少し含む	良好	外黒灰色、内 黄灰色	口径の小さい瓦器碗。	口縁5 / 6、高台全周		138
23-16		SX66最下 層	土師器鍋	残高30	細砂、雲母、赤褐色粒かなり含む	良好	橙褐色	口縁直下に高い突帯を貼付する。	小片	器形不安で、高台部の可能性あり。	154
23-17		SX66ベル ト	須恵器? 壺	胴径114、残高44	細砂粒少し含む	良好堅緻	外暗灰色、内 灰色	内外ナデ仕上げ。頸部すばまる。			143
23-18		SX66ベル ト	須恵器鉢	口径288、残高48	砂粒ほとんど含まず精良	良好	灰色ー灰黒色	内外ナデ	1 / 8		142
23-19		SX66ベル ト	須恵器鉢	口径286、残高86	精良だが、雲母少し含む	良好	灰色、口縁外 面灰黒色	内外ナデ	1 / 10		145
23-20		SX66東部	白磁小皿	口径50、器高15、底径16	精良	良好	釉白色	外面縦方向線刻密に施文。口縁外一 内施釉、胴部ー底部外面露胎。	1 / 6		147
23-21		SX76	土師器皿	口径92、器高16	2ー5mm砂粒、雲母、 赤褐色粒を少し含む	良好	褐色	外底面板圧痕を残す。			162
23-22		SX76	土師器皿	口径90、器高13	2ー5mmの砂粒、雲 母、赤褐色粒を少し含 む	良好	暗黄褐色	外底面板圧痕を残す。	2 / 3		163
23-23		SX76 No.2	土師器皿	口径104、器高16	細砂粒少し含む	良好	淡灰黄褐色	内外摩滅顕著。			171
23-24		SX76	土師器皿	残高15	細砂粒、赤褐色粒少し 含む	良好	褐色	底部外面板圧痕を残す。			165
23-25		SX76	土師器杯	口径158、器高32	精良だが、雲母少し含 む	良好	淡黄橙色	内外の摩滅顕著。	1 / 4		164
23-26		SX76	土師器杯	残高19	細砂粒、雲母、赤褐色 粒少し含む	良好	褐色	内外の摩滅顕著。			166
23-27		SX76	土師器杯	口径154、器高29	細砂粒少し含む	良好	白黄橙色	内外の摩滅顕著。	1 / 2 弱残		167
23-28		SX108下層	土師器鉢	残高14	精良だが、雲母少し含 む	良好	外灰色、内灰 黄色	内外ナデ仕上げ。	1 / 2		212
23-29		SX108	土師器杯	口径152、器高27	細砂粒、雲母少し含む	良好	白黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。	底部 1 / 3		208
23-30		SX108	土師器鉢	残高45	細砂粒、雲母、赤褐色 粒少し含む	良好	白橙褐色	内外摩滅顕著。	小片		210
23-31		SX108	土師器鉢	残高29	細砂粒少し含む	良好	白黄褐色	外面ナデ、内面ハケ後ナデ。	小片		209
23-32		SX108下層	土師器鉢	口径264、残高44	細砂粒、雲母少し含む	良好	外白黄褐色、 内暗褐色	口縁端部を上方に拡張する。内外ナ デ仕上げ。	1 / 8		213
23-33	23	SX108南部	青磁皿	口径111、器高22、底径44	精良	良好	釉深緑色	見込みに櫛描による花文を施文。底 部外面は露胎。	底部全周、口縁 1 / 2 残		218
23-34		SX108下層	青磁皿	口径108、器高19、底径50	精良	良好	釉緑黄色	見込みに櫛描、櫛歯刺突による文様 を施文。底部外面は露胎。	底部 1 / 2、口 縁 1 / 3 残		215
23-35		SX108下層	青磁碗	高台径62、高台 高15、残高46	精良	良好	釉黄緑色	高台外面下部ー高台内面露胎で、他 は施釉。見込みに沈線を巡らす。	1 / 2		214
23-36		SX108下層	陶器甕口 縁部	残高60	細砂粒少し含む	良好	外紫褐色、内 灰褐色	口縁を上下に肥厚。内外施釉、灰を 被ったような器表の箇所も多い。	小片		211
23-37		SX108南部 下層	滑石製石 鍋	口径196、残高42				口縁下に高い突帯を巡らす。内外丁 寧なケズリ仕上げ。	1 / 8		219
23-38		SX108下層	滑石製石 鍋	口径214、残高57				口縁下に高い突帯を巡らす。内外丁 寧なケズリ仕上げ。	1 / 6		216
23-39		SX108下層	丸瓦	厚さ19	細砂粒少し含む	良好	外緑灰色、内 灰黄色	外面斜格子タタキ、内面布目。内側 に切り込みを入れ、半裁。	小片		217



第24図 SX119・SX121 出土土器・磁器・石鍋実測図 (1/3)

SX76 (図版 10、第 22 図)

1 区北東部平坦面の東部で検出された。調査区外に広がるため全形を知ることができないが、南北 5.5m の落ち込み状の遺物包含層であり、南側がやや深くなる。床は南側が深くなり、基盤土の礫・岩等が露出するが、下部には土層図の 4・5 層、精良な黄橙色粘土、灰白色粘土が堆積していた。人為的に埋め戻されたと考えられ、恐らく建物等の掘り込み事業の一部にあたるのではないかと推測される。深さは最深部で 0.6m 程である。

SX76 出土土器 (第 23 図 21 ～ 27、第 10 表) 21 ～ 24 は土師器小皿、25 ～ 27 は土師器杯で、21・22・24・27 は底部外面に板圧痕が確認されるが、糸切り痕を残すものは含まれない。

SX108 (図版 10、第 22 図)

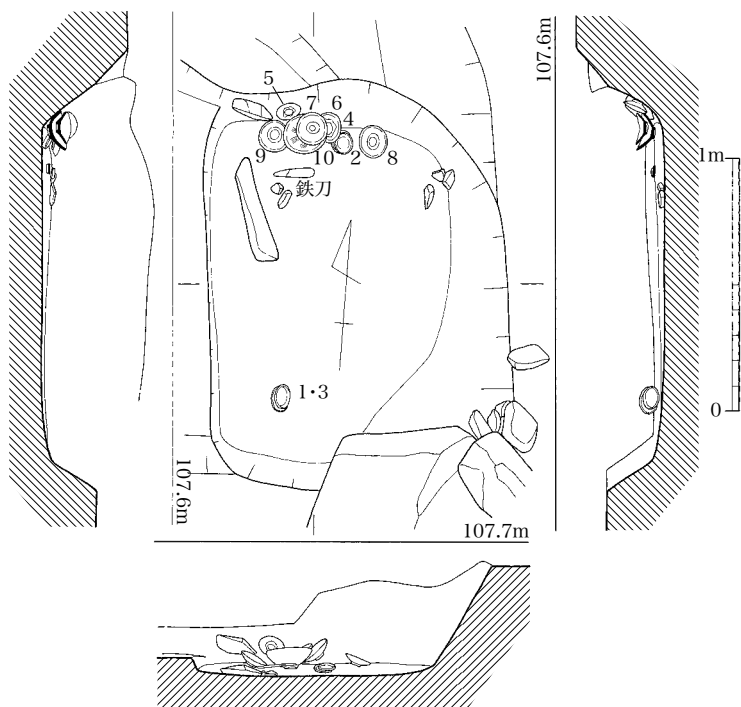
1 区北西部平坦面の東寄りに位置する。南北 6.0m、東西 5.0m の範囲にわたる。略南北に主軸を置き、南に大きく広がった平面形を呈し、石を投棄した遺構と判断される。1 m 弱の大形の石が投棄されていたため、下面まで十分に発掘調査できなかったが、深さ 0.8m 程である。南端は、北西部平坦面の南に位置する石垣 SW63 と一体となっており、SW63 の構築と同時にされた整地に伴うものと考えられ、SW63 の裏込めを兼ねていたのであろう。したがって、その出土遺物は、石垣 SW63 の築造時期を示すものとして扱うことができる。

SX108 出土土器・陶磁器・石鍋・瓦 (第 23 図 28 ～ 39、第 10 表) 28・29 は土師器杯で、29 の底部外面には糸切り痕が残る。30 ～ 32 は土師質鉢であり、32 は口縁部を上方に拡張する。33・34 は見込みに施文した青磁皿、35 は高台の高い青磁碗である。36 は上下に端部を拡張した陶器甕口縁部片。37・38 は鐙状の突帯を巡らす滑石製石鍋口縁部片で、いずれも内外を丁寧にケズリ仕上げする。39 は外面斜格子タタキで須恵質の丸瓦小片である。

SX119

個別の図面は掲載していないが、1 区北西部平坦面の南側、SX108 の西側の斜面地の包含層であり、砂粒を多く含んだ 10YR 4/2 灰黄褐色粗砂で埋め戻されていた。恐らく平坦面の造成にともなう遺構であろう。

SX119 出土土器・石鍋 (第 24 図 1 ～ 4、第 11 表) 1 は土師器皿、2 は土師器杯である。3 は口縁部が直線的に外反する須恵器杯で、底部はヘラ切り痕を残す。4 は石鍋の胴部片と考えられるが、低く稜線の目立たない突帯が巡っている。



第 25 図 ST97 実測図 (1 / 30)

SX121 (図版 10、第 22 図)

1 区南東部平坦面の南東調査区境で検出した。壁に沿って東西に長く、現状で東西 8.0m を測り、南北は最大で 2.4m 程調査した。深さは最大で 0.65m 程である。底面は凹凸が顕著で、礫・岩等が露出する。礫等を多く含む褐色粘土が厚く堆積しており、人為的に埋め戻されたことは確かである。中央部の上面では 60cm 大の大型の岩が投棄されており、凹地等を整地するとともに、石を投棄した整地層と推測される。

SX121 出土土器・磁器 (第 24 図 5 ~ 11、第 11 表) 図示可能な出土遺物は多くない。5 は土師器皿、6 ~ 9 は土師器杯である。8 は丸味をおびた器形で、口縁端部はわずかに肥厚する。9 は径が小さく、深い器形をなす。

10 は小形の瓦器碗、11 は白磁底部片である。

(5) 墓

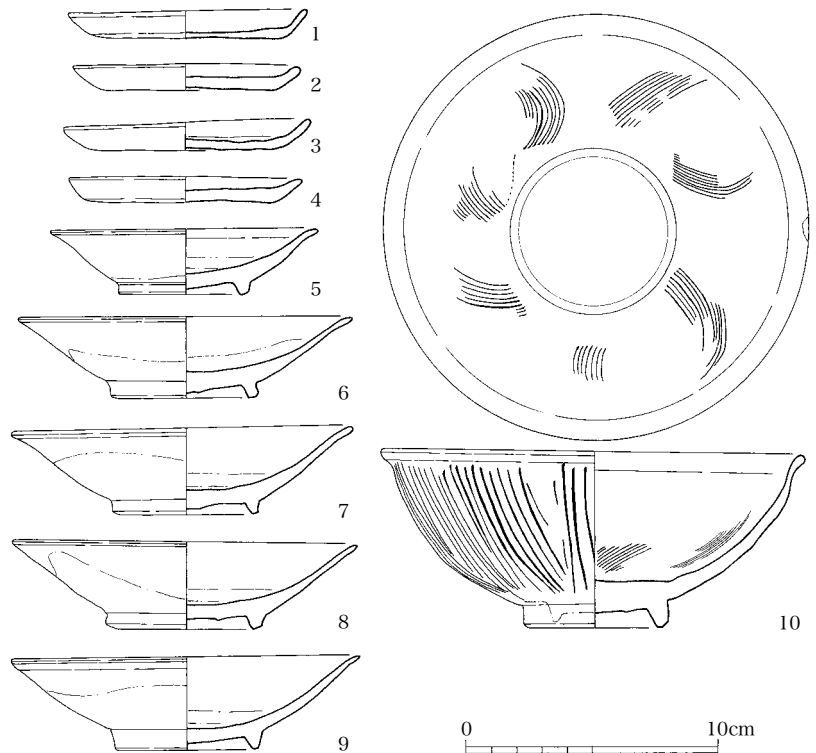
ST97 (図版 11、第 25 図)

SX66 の底面近くで輪郭を検出したが、SX66 を掘り込んでいた可能性が高いと考えられる。磁器・土師皿・鉄器が一括して出土したことから墓と考えられる。出土遺物は北側から土師器皿 2 点と、白磁皿 5 点、青磁碗 1 点、鉄小刀 1 点が一括で出土した。また、南側からは土師器皿が 2 点出土している。出土状況図に図示はしていないが、付近から鉄釘小片が散漫ながら、ややまとまって出

第 11 表 SX119・SX121 出土土器・磁器・石鍋観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
24-1		SX119 包含層	土師器杯	残高12	赤褐色粒、雲母等砂粒含む	良好	橙褐色	内外摩滅。			228
24-2		SX119 包含層	土師器杯	残高10	細砂粒わずかに含む	良好	橙色	内面ナデ、底部外面糸切り痕残す。			227
24-3		SX119 包含層	須恵器杯	口径118、残高28	細砂粒わずかに含む	良好	灰色	体部内外ナデ、底部外面ヘラ切り。			229
24-4		SX119 包含層	滑石製石鍋胴部片	残高58、厚さ13				内外ケズリ痕残す。			230
24-5		SX121 包含層	土師器皿	口径86、器高10	雲母、細砂粒若干含む	良好	白黄褐色	外底面糸切り痕を残す	1 / 4		249
24-6		SX121 包含層東部	土師器杯	残高26	雲母、細砂粒若干含む	良好	灰橙褐色	内外摩滅。	小片		243
24-7		SX121 包含層西部	土師器杯	口径136、残高32	細砂粒わずかに含む	良好	白橙褐色	内外ナデ。	1 / 10		247
24-8		SX121 包含層東部	土師器杯	口径154、器高29	精良だが、雲母少量含む	良好	白黄褐色	内外器表摩滅。			242
24-9		SX121 包含層	土師器杯	底径42、残高34	精良	良好	淡橙褐色	内外ナデ仕上げ。	1 / 3		244
24-10	23	SX121 包含層西部	瓦器碗	口径90、器高28、高台径44、高台高4	3 ~ 5mm程の砂粒少し含む	やや甘い	黒灰色、内底面は黄色を帯びる	内外摩滅。	口縁1 / 2 残、高台全周。		245
24-11		SX121 包含層西部	白磁底部片	底径58、高台高9、残高23	精良	良好	生地灰黄色、釉灰黄褐色	内面施軸、外面露胎。	2 / 3		248

土した。本来、木棺墓であった可能性が高いが、床面付近まで掘下げて墓の存在に気がついたために、その輪郭は不明である。墓墳は主軸をほぼ南北に向けた長方形をなすと考えられ、上面で長さ 1.65m、幅 1.17m、下面で長さ 1.32m、幅 0.94m を測る。墓墳の南東隅には SX66 包含層中の大きな岩があつて、木棺があるとしても、床面の長さ 1.32m よりもやや小さかったものと想定される。墓墳壁は現状では東側の遺存状況が良好で、高さ 0.42m を測るのに対して、西側は輪郭に気づかずに掘下げたために高さ 0.05m 程しか遺存しない。なお、鉄器は第 53 図に示し、出土遺物の一部は「S66 最下層」として取り上げたものがある。



第 26 図 ST97 出土土器・磁器実測図（1 / 3）

ST97 出土土器・磁器（第 26 図、第 12 表） 1～4 は土師器皿である。底部外面は糸切りの後、板圧痕が残る。5～9 は白磁皿である。4 はやや小形であるが、他は口径 13.0cm、器高 3.5cm 前後とほぼ法量が揃っている。10 は高台付の青磁碗である。

（6）その他の遺構出土土器・陶磁器

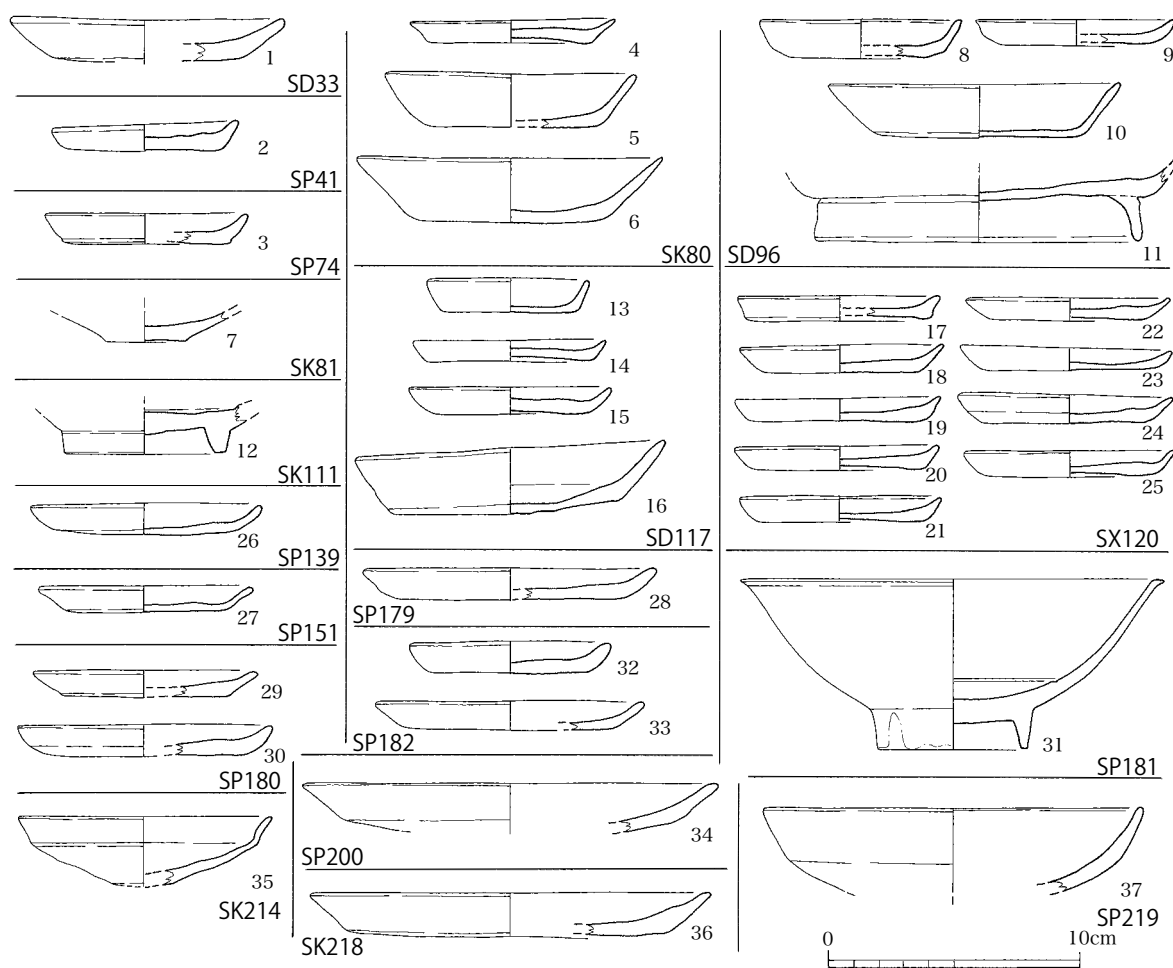
SD33 出土土器（第 27 図 1、第 13 表） 土師器皿である。

SP41 出土土器（第 27 図 2、第 13 表） 土師器皿である。

SP74 出土土器（第 27 図 3、第 13 表） 土師器皿である。

第 12 表 ST97 出土土器・磁器観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
26-1	23	ST95 No. 9	土師器皿	口径90、器高11	細砂粒少し含む	良好	白黄褐色	体部外面糸切り後、板圧痕を残す。	ほぼ完形		206
26-2	23	ST97 No. 7	土師器皿	口径86、器高10	赤褐色粒、雲母等細砂粒やや多く含む。	良好	褐色	底部内面板工具によるナデ。底部外面は糸切り痕、板圧痕を残す。	ほぼ完形		204
26-3	23	ST97 No. 10	土師器皿	口径98、器高12	赤褐色粒少し含む	良好	淡橙色	底部外面は糸切り痕、板圧痕を残す。	ほぼ完形		207
26-4	23	ST97 No. 8	土師器皿	口径90、器高10	0.2～0.5mmの砂粒、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	灰黄褐色	底部内面は工具によるナデ、底部外面は糸切り痕を残す。	ほぼ完形	口縁わずかに欠損。	205
26-5	23	S65最下層 No. 5	白磁皿	口径104、器高25、高台径50、高台高5	精良	良好	釉淡灰色	内面見込み輪状に釉剥ぎ、外面体下部一高台内露胎。	ほぼ完形		131
26-6	23	S65最下層 No. 2	白磁皿	口径130、器高32、高台径58、高台高6	精良	良好	釉灰色	内面見込み、外面体下部一高台内露胎。	ほぼ完形		128
26-7	23	S65最下層 No. 1	白磁皿	口径128、器高35、高台径58、高台高6	精良	良好	釉灰色	内面見込み輪状に釉剥ぎ、外面体下部一高台内露胎。	ほぼ完形		127
26-8	23	S65最下層 No. 6	白磁皿	口径132、器高35、高台径60、高台高6	精良	良好	釉灰色	内面見込み輪状に釉剥ぎ、外面体下部一高台内露胎。	ほぼ完形		203
26-9	23	S65最下層 No. 4	白磁皿	口径136、器高37、高台径58、高台高7	精良	良好	釉灰色	内面見込み輪状に釉剥ぎ、外面体下部一高台内露胎。	ほぼ完形		130
26-10	23	S65最下層 No. 3	青磁碗	口径164、器高70、高台径58、高台高11	精良	良好	釉黄灰色	高台外一高台内露胎、他は施釉、8本1単位の櫛描文を内外に施文	ほぼ完形		129



第 27 図 1 区その他の遺構出土土器・陶磁器実測図 (1 / 3)

SK80 出土土器 (第 27 図 4～6、第 13 表) 4 は土師器皿、5・6 は土師器杯である。

SK81 出土土器 (第 27 図 7、第 13 表) 白磁か青磁かの区別に悩む釉調の杯底部片である。

SD96 出土土器 (第 27 図 8～11、第 13 表) 8・9 は土師器皿、10 は土師器杯である。11 は高く径の大きい高台をもつ土師器底部片で、高台付皿と考えられる。

SK111 出土磁器 (第 27 図 12、第 13 表) 白磁碗底部片である。

SP117 出土土器 (第 27 図 13～16、第 13 表) 13～15 は土師器皿、16 は土師器杯である。

SX120 出土土器 (第 27 図 17～25、第 13 表) SW14 裾の包含層であり、図示したものはいずれも土師器皿である。

SP139 出土土器 (第 27 図 26、第 13 表) 土師器皿である。

SP151 出土土器 (第 27 図 27、第 13 表) 土師器皿である。

SP179 出土土器 (第 27 図 28、第 13 表) 器形の大きい土師器皿で、底部外面糸切り痕を残す。

SP180 出土土器 (第 27 図 29・30、第 13 表) いずれも土師器皿で、30 は底部外面に板圧痕を残す。

SP181 出土磁器 (第 27 図 31、第 13 表) 白磁碗であり、高台外面～体部外面～内面は施釉するが、畳付～高台内は露胎である。

SP182 出土土器 (第 27 図 32・33、第 13 表) いずれも土師器皿で、32 底部外面には糸切り痕を残す。

SP200 出土土器 (第 27 図 34、第 13 表) 土師器杯である。

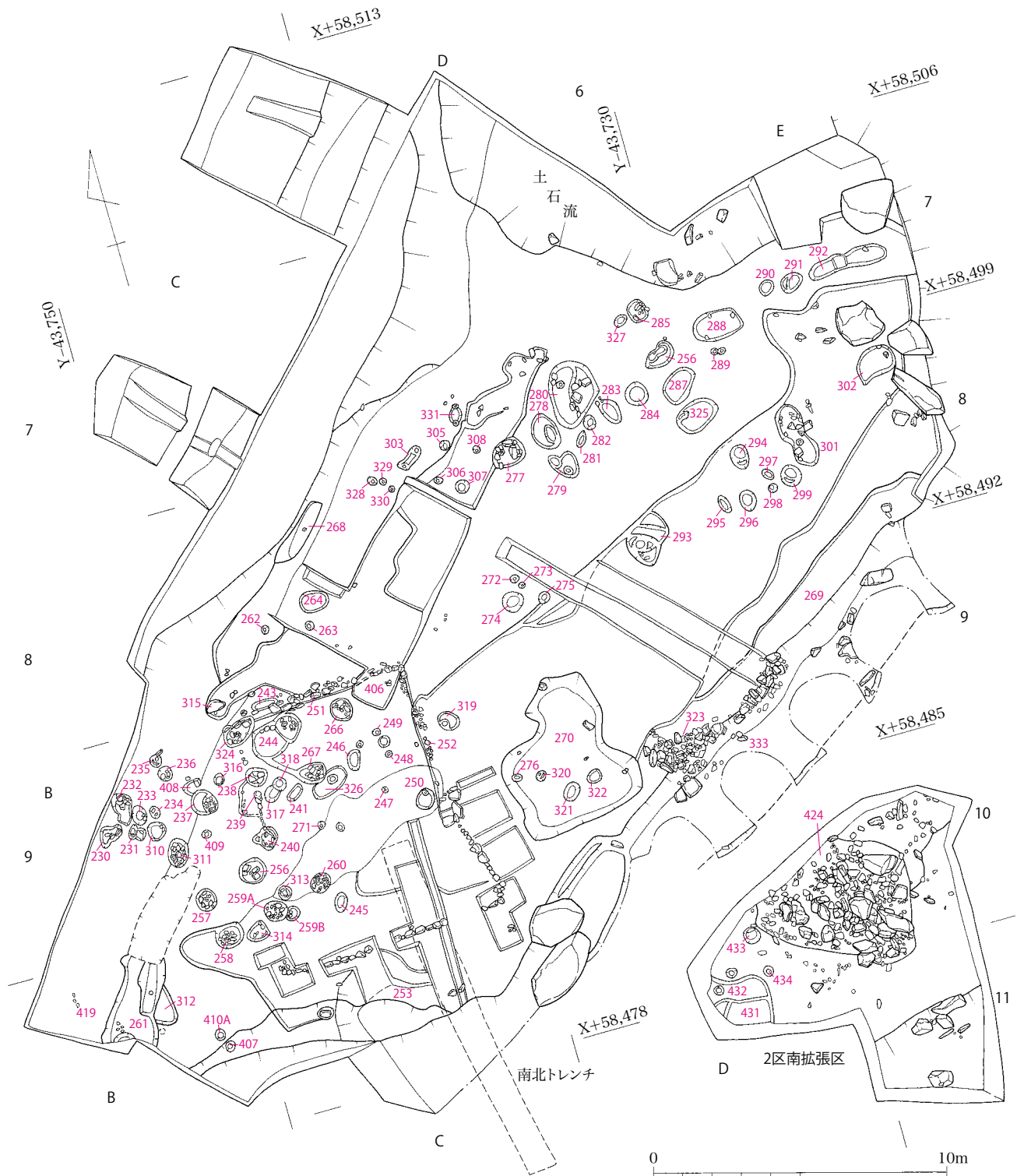
第 13 表 1 区その他の遺構出土土器・陶磁器観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
27-1		SD33	土師器皿	口径106、器高17	精良だが、雲母少量含む	良好	白黄褐色	底部外面にはへら切り痕を残す。			90
27-2		SP41	土師器皿	口径70、器高12	細砂粒を少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面には板圧痕を残す。	ほぼ完形		91
27-3		SP74	土師器皿	口径78、器高13	細砂粒を少し含む	良好	灰黄褐色	内外の摩滅が顕著。			161
27-4		SK80	土師器皿	口径82、器高10	細砂粒、雲母を少し含む	良好、内面黒変箇所あり	淡黄灰色	内外の摩滅が顕著。			192
27-5		SK80	土師器杯	口径98、器高21	赤褐色粒、雲母等細砂粒を少し含む	良好	橙褐色	内外の摩滅が顕著であるが、底部外面に板圧痕を残す。			191
27-6		SK80	土師器杯	口径118、器高26	細砂粒、雲母を少し含む	良好	橙褐色	内外の摩滅が顕著。			190
27-7		SK81	白磁杯底部	底径30、残高12	精良	良好	生地白黄灰色、釉灰黄色	底部糸切り痕残る。内面施釉、外面露胎。	1 / 2	釉黄色帯び、青磁か白磁かの区別に悩む。	193
27-8		SD96	土師器皿	口径78、器高15	細砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	内外の摩滅が顕著。			201
27-9		SD96	土師器皿	口径78、器高10	細砂粒を少し含む	良好	灰黄色	底部外面に板状圧痕を残す。			200
27-10	23	SD96	土師器灰	口径110、器高22	細砂粒をやや多く含む	内面が黒変	灰黄褐色	内外の摩滅が顕著。			199
27-11		SD96	土師器台付皿	高台径128、高台高16、残高30	細砂粒をやや多く含む	良好	灰黄褐色	径の大きく高い高台が特徴的。内面摩滅、高台内外ナデ仕上げ。			202
27-12		SK111	白磁碗底部	高台径64、高台高9、残高20	精良	良好	生地白灰色、釉白色	見込み中央部施釉でその周辺を輪状に釉を掻き取る。高台内外露胎。			220
27-13		SP117	土師器皿	口径60、器高13	細砂粒をわずかに含む	良好	白黄褐色	底部外面糸切り後、板圧痕。			223
27-14		SP117	土師器皿	口径74、器高10	細砂粒をわずかに含む	やや甘い	白黄褐色ー灰色	内外摩滅。			224
27-15		SP117	土師器皿	口径78、器高11	赤褐色粒、雲母をやや多く含む	良好	明褐色	底部外面糸切り後、板圧痕。	1 / 3		226
27-16	23	SP117	土師器杯	口径120、器高29	0.2ー0.5mmの砂粒、赤褐色粒、雲母をやや多く含む	良好	灰黄褐色ー灰色	底部外面糸切り後、板圧痕。体部内面摩滅。			225
27-17		SX120	土師器皿	口径78、器高11	精良だが、微小砂粒を少し含む	良好	灰黄色	内外摩滅。	1 / 4		240
27-18		SX120	土師器皿	口径78、器高10	精良だが、1ー2mmの細砂粒を少し含む	良好	灰黄褐色	内外摩滅するが、底部外面糸切り痕が残る。			237
27-19		SX120	土師器皿	口径78、器高10	2ー3mmの砂粒を少し含む	やや甘い	淡灰黄褐色	内外摩滅するが、底部外面板圧痕が残る。			235
27-20		SX120	土師器皿	口径78、器高10	雲母、細砂粒若干含む	良好	淡白黄褐色	内外摩滅。			236
27-21		SX120	土師器皿	口径78、器高10	精良	良好	灰黄褐色	内外摩滅。	1 / 3		241
27-22		SX120	土師器皿	口径80、器高9	1ー2mmの細砂粒を少し含む	良好	灰黄褐色	内外摩滅。	3 / 4		238
27-23		SX120	土師器皿	口径80、器高10	細砂粒、雲母を少し含む	外面少し黒変	白黄褐色	内外摩滅するが、底部外面板圧痕が残る。			233
27-24		SX120	土師器皿	口径82、器高12	細砂粒、雲母を少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕が残る。			234
27-25		SX120	土師器皿	口径82、器高10	1mmの細砂粒を少し含む	良好	灰黄褐色	内外摩滅。	1 / 2		239
27-26		SP139	土師器皿	口径90、器高12	細砂粒、赤褐色粒、雲母を多く含む	良好	淡褐色	底部外面糸切り後板圧痕が残る。			256
27-27		SP151	土師器皿	口径82、器高11	1ー3mm大砂、赤褐色粒、雲母多い	良好	白黄褐色	底部外面板状圧痕を残す。			257
27-28		SP179	土師器皿	口径112、器高13	雲母、細砂粒少し含む	良好	白黄褐色	底部外面に糸切り痕を残す。	1 / 4		258
27-29		SP180	土師器皿	口径86、器高11	細砂粒、雲母を少し含む	良好	白橙褐色	内面ナデ、外面摩滅顕著。	1 / 4		259
27-30		SP180	土師器皿	口径98、器高12	精良だが、雲母少量含む	良好	白黄褐色	底部外面に板状圧痕を残す。	1 / 6		260
27-31		SP181	白磁碗	口径158、器高67、高台径60、高台高16	精良	良好	生地灰黄色、釉灰黄緑色	疊付ー高台内側は露胎、他は施釉。高い高台が特徴的。	1 / 2		261
27-32		SP182	土師器皿	口径78、器高12	精良だが、雲母やや多い	良好	白黄褐色	底部外面に糸切り痕を残す。			263
27-33		SP182	土師器皿	口径104、器高11	精良だが、雲母少量含む	良好	淡橙褐色	内外摩滅顕著。			262
27-34		SP200	土師器杯	口径160、残高19	雲母等の細砂粒を少し含む	良好	白橙褐色	内外摩滅。			320
27-35		SK214	須恵質杯	口径98、器高26、底径24	砂粒ほとんど含まず	良好	白灰色	内外ナデ仕上げ。小さな平底をなし、口縁部は屈曲して外反する。	1 / 3		369
27-36		SK218	土師器杯	口径156、器高17	細砂粒を少し含む	良好	白黄褐色	内外摩滅顕著。	1 / 6		370
27-37		SP219	土師器杯	口径146、残高33	精良で、砂粒をほとんど含まず	良好	灰白色	内面ー口縁部外面ナデ、外面下部摩滅。	1 / 6		371

SK214 出土土器（第 27 図 35、第 13 表） 小さな平底で、口縁部が屈曲して外反する、須恵器杯で、類例の少ない器形である。

SK218 出土土器（第 27 図 36、第 13 表） 土師器杯としたが、皿との区別が難しい口径の大きい器形を呈す。

SP219 出土土器（第 27 図 37、第 13 表） 丸みをおびた体部の土師器杯である。



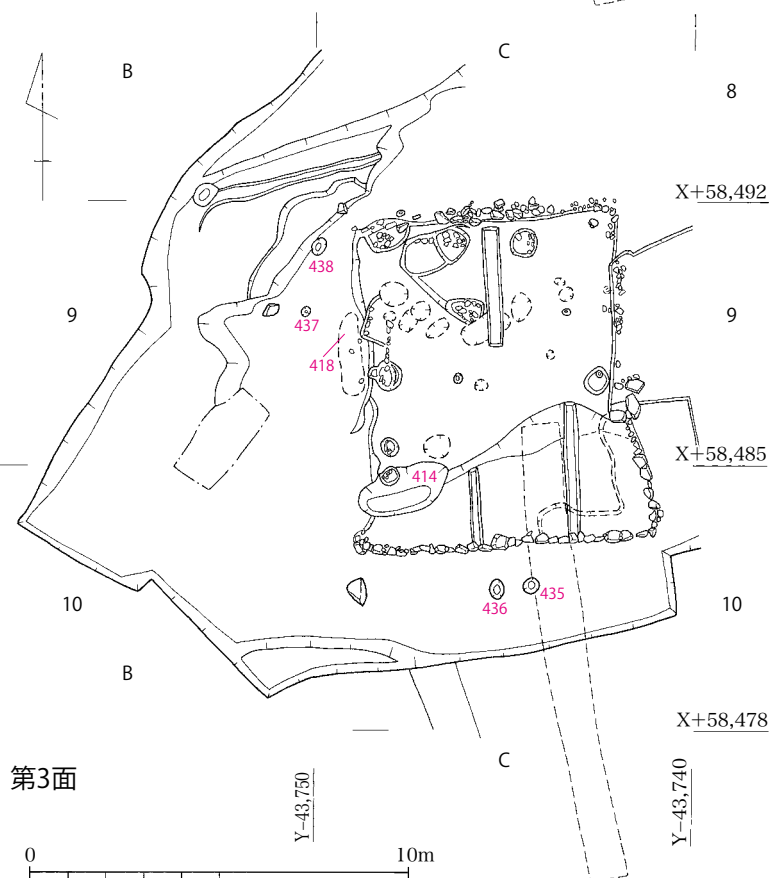
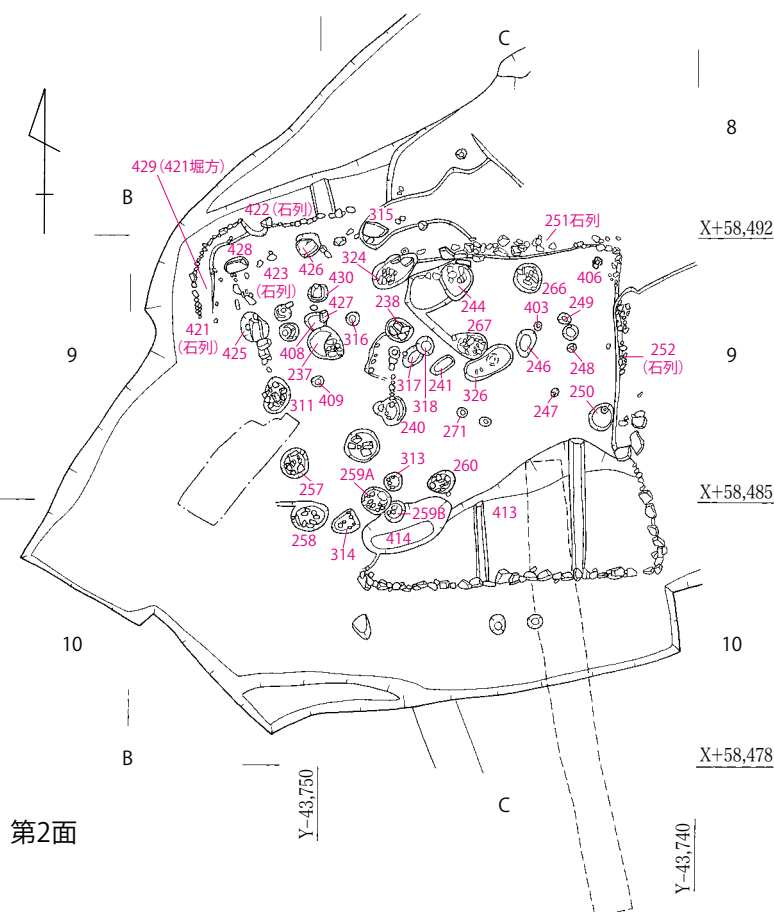
第 28 図 2 区第 1 面平面図 (1/200)

第3節 2区の調査

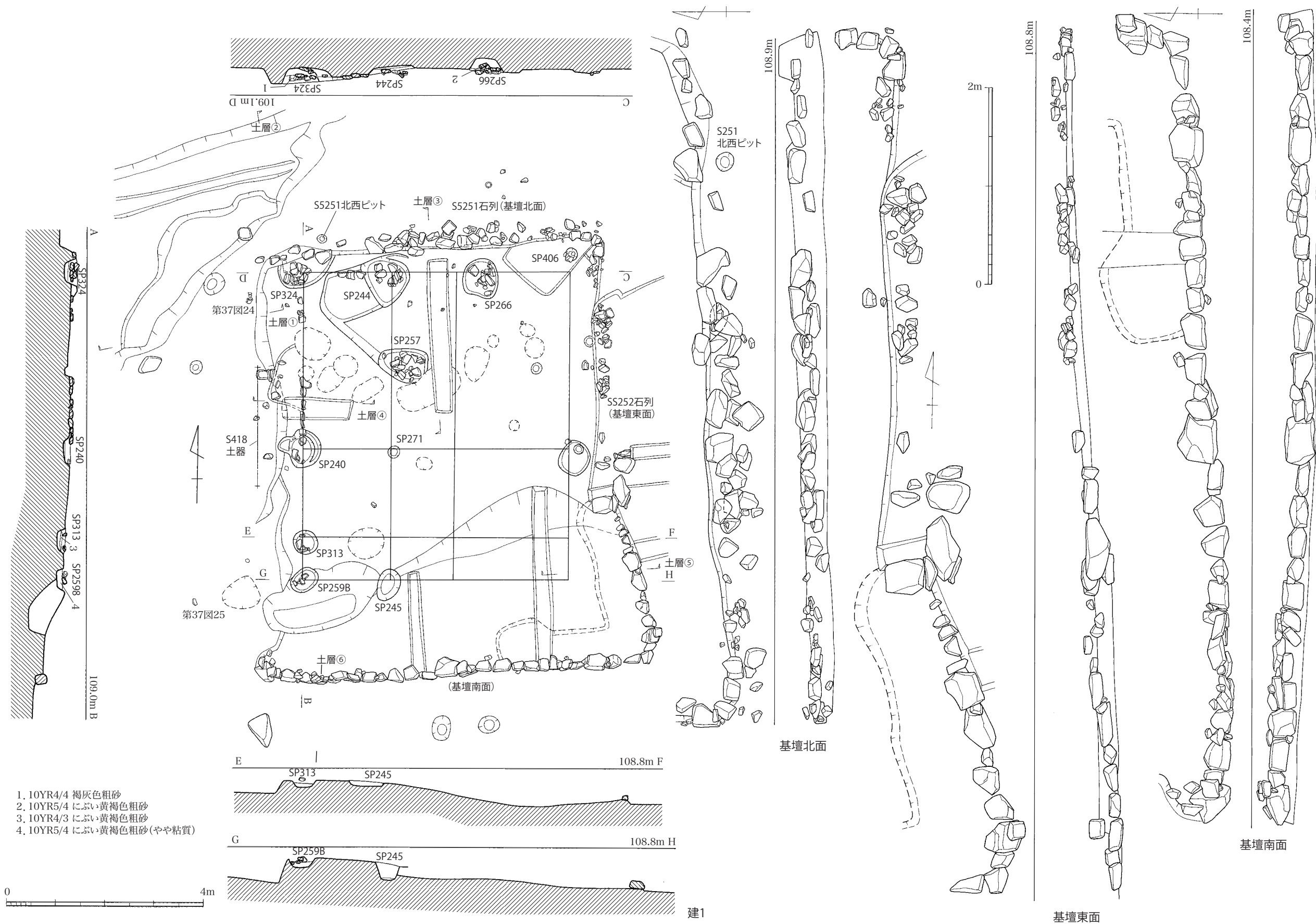
2区は原川西岸の畑地として利用されていた平坦面と板碑周辺を対象とした調査区である。遺構面までの深さ、内容を確認するための確認調査を実施していなかったため、1区調査完了後に重機を入れて表土、堆積層を除去し、遺構面を探しながら、調査範囲を広げ確定していくこととなった。遺構検出の結果、畑地として利用されていた平坦面の川側は土石流の堆積等によって遺構が分布しないと推測されたものの、ほぼ全域で遺構が検出された（図版11・12、第28図）。

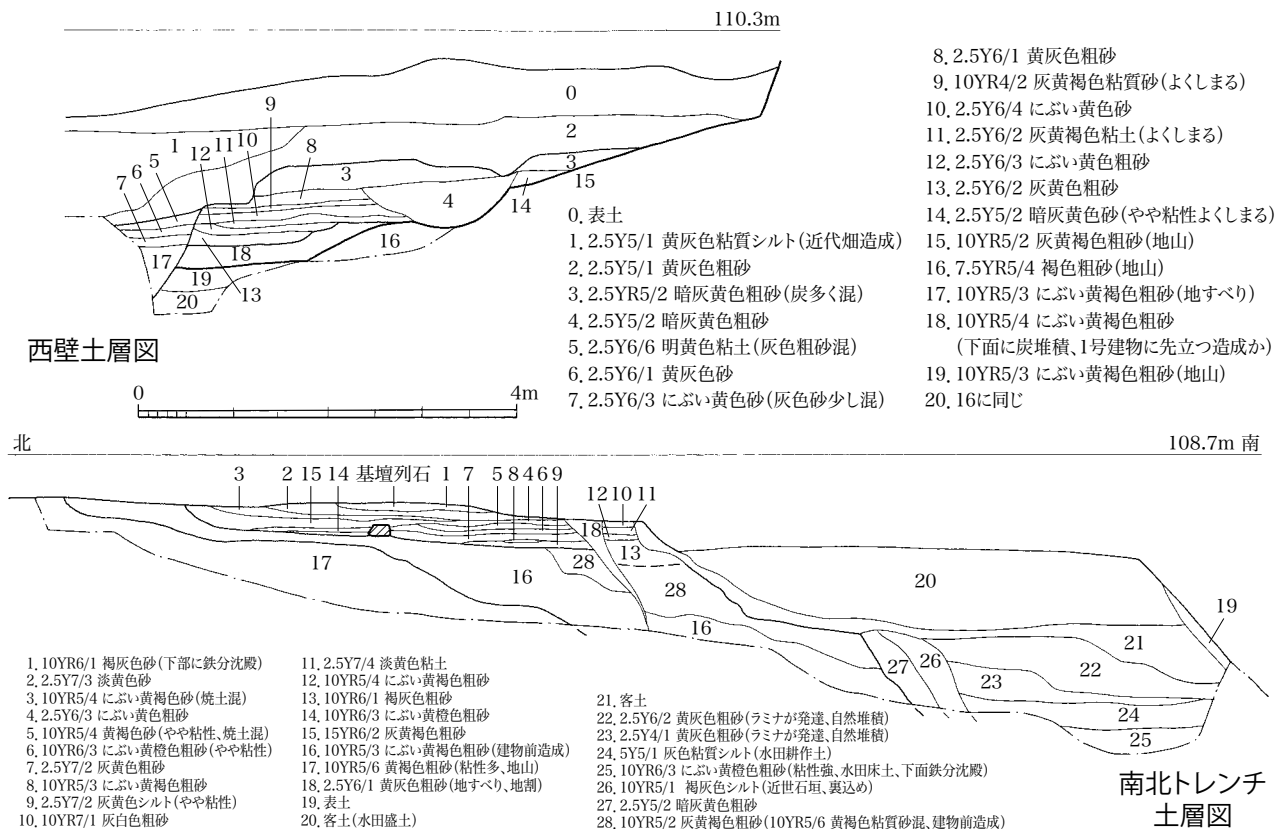
第30図上段は2区の調査区西壁の土層を示したものである。表土及び耕作土＝1層、遺物をほとんど含まない堆積層＝2層、2.5Y5／1黄灰色粗砂を除去した、地表下1m弱で安定した土が検出され、遺構検出を進めた。その結果、調査区の西半分は寺院を構成する建物であったと推測される1・2号建物跡の礎石根石が集中的に検出された。また、調査区の東南部では中世の土師器・陶磁器を比較的多量に含む包含層、SX269の上面やピット等が検出されたので、そこを遺構面として調査をすることとした。

ただ、遺構検出と平行して、調査区西壁部分で遺構面下まで掘下げると、第30図西壁土層の下部、3～13層が人工的な盛土と判断された。そこで、調査区西部の建物跡は複数時期にわたり、整地も複数時期に及ぶものと考えられた。



第29図 2区西部第2面・第3面平面図 (1/200)





第 30 図 2 区西部西壁・南北トレンチ土層実測図 (1 / 80)

そのため、2 区西部では、検出状態を第 1 面として記録し、掘下げながら、建物跡を面的に検出することとした。結果的に、上層の 2 号建物を第 2 面、下層の 1 号建物跡を第 3 面として調査することとなった(第 29 図)。

また、2 区の中央やや西より、1・2 号建物跡の下層を調べるために設定したのが、第 30 図下段に土層図を示した南北トレンチである。このうち 1～13 層は 1・2 号建物跡の基壇盛土及びその外部に堆積した堆積層、2 号建物跡廃絶後の整地層である。この周辺は 17 層=10YR 5/6 黄褐色粗砂を基盤とし、17 層と 1～13 層の間にある 16・28 層は 1 号建物建築に先立つ大規模な整地に伴うものと考えられた。

このトレンチ南端では近世以降の水田等の耕作層、整地層が検出され、1 号建物建築に先立つ整地土まで除去されていると判断された。このトレンチ南端周辺は斜面地であるとともに、中世の遺構も遺存しないと判断されたので、一部工事にはかかるものの部分的な調査にとどめた。

なお、板碑の上部にも平坦面があるため、2 個所にわたってやや広めのトレンチを設定し、確認調査を行った。調査の結果、遺構は検出されず、中世に遡る遺物も全く出土しなかったため、部分的な調査にとどめることとした。

(1) 西部建物付近

建物跡

2 号建物跡 (図版 14～16、第 31 図)

調査区の西部で確認された 2 棟の礎石建物跡の内、新しい時期のものである。調査の当初は建物

跡北西隅は2区の北西に位置する尾根線からの斜面の裾に位置し、自然地形と考えて検出していなかった。しかしながら、北西隅以外をほぼ完掘した後に、建物跡が広がる可能性に気が付き、当初自然地形と考えていた斜面裾を1m以上掘下げたところ、北西隅が検出された。そのため全体を撮影した良好な写真を残せなかったことが後悔される。

2号建物跡の礎石、根石は北側では1号建物跡の礎石、根石を覆うように盛土し、その上層に位置しているが、大半が1号建物跡と同一面で検出された。第31図平面図は検出状況を示しているものであるが、2号建物跡を構成する礎石・礎石根石として確実なものにはSP424・SP425・SP311・SP257・SP258・SP426・SP256・SP259A・SP315がある。このうちSP424・SP425・SP311・SP257・SP258は一直線上に等間隔で並び、それぞれの間隔は1.80m、6尺となる。これらは軸線を座標北から16°西に向けている。また、SP424とSP425、SP425とSP311との間には直線上に石が残り、地覆石と考えられ、建物の西辺であったと考えられる。SP424とSP426との間、SP425とSP315の間にもやや乱れているが、石が検出されたので、地覆石の残存であろう。ただ、建物跡の東部は削平によって礎石はもちろん、根石も失われている。

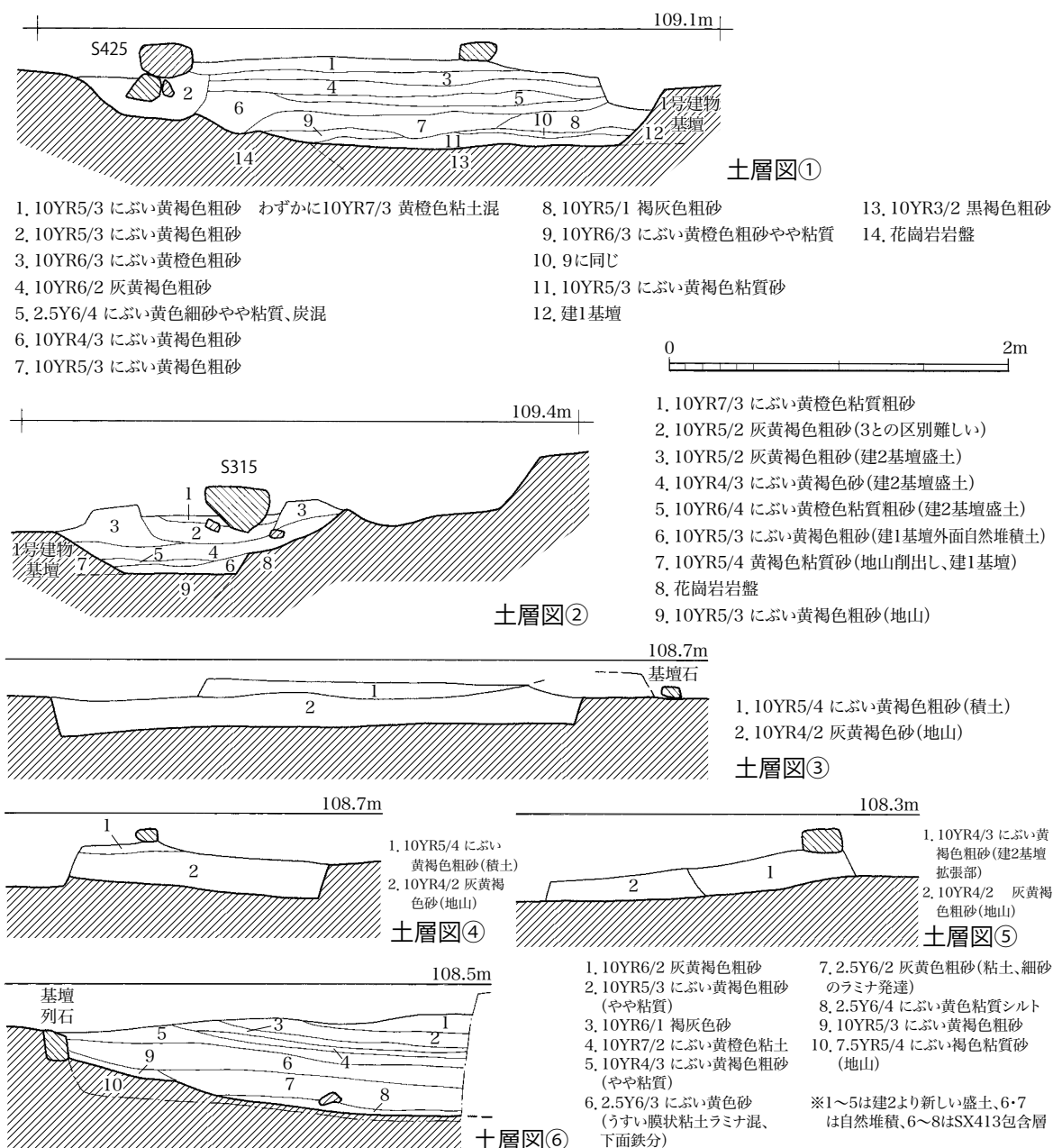
建物跡の北西部では外側に基壇外面を装飾した列石が検出され、SS421石列とした。列石は1段分を検出しているが、列石上面が礎石SP426、SP424、SP425の礎石上面より5cm程低いだけであり、本来からこの高さであったと考えられる。なお、列石は北側が揃っているのに対して、屈曲部～西側は石が小振りで乱雑であるとともに、北辺よりも外側に並んでいるために改築が行われたと考えられる。

上述した礎石・礎石根石の周辺には略真北およびそれに直交する石列が検出されているが、大半は後述する1号建物跡の基壇外面の列石と考えられる。ただ、東の石列、SS252の石列南半は屈折していて、やや東に張り出す。その方向は2号建物跡西辺柱筋方向とほぼ一致している。したがって、2号建物跡基壇列石は、東辺南半では1号建物基壇を若干、拡張し、南辺ではそのまま再利用したものと考えられる。

この2号基壇列石南東隅、北東隅の範囲内に、6尺等間の柱間隔で建物跡を復元すると4×4間のほぼ正方形の建物が想定される。したがって、SP256・SP244・SP267も本建物跡の礎石根石となる。SP237、SP238は総柱とした場合の位置からずれているが、やはり本建物跡に伴うものであろう。

第33図に示した1号建物基壇周辺土層図のうち①、②は、2号建物建築に伴い1号建物跡基壇を覆って施工された整地盛土に相当すると解釈される。2号建物跡の北西隅では1号建物跡の基壇北側の石列SS251の上部に想定される柱筋が位置する。したがって、2号建物跡は南側の基壇は1号建物のものを再利用しながら、北半では1号建物跡基壇を覆うように盛土し、拡張して建築されたといえる。

また、第33図土層図⑥には1・2号建物によって共有された基壇南側列石の外の堆積を示した。これによると基壇築造後に自然堆積したやや厚い6・7層を覆うように、厚さ5cm前後の薄い1～5層がある。第30図に示した2区南北トレンチ土層図の1～6層もこれに相当する。これらは2号建物の廃絶後に、人工的に盛土した層と考えられる。第30図の2区西部西壁土層図の8～12層も人工的な積土と考えられ、これが基壇南側まで連続していたのであろう。2号建物の廃絶後に、その基壇を埋め立てて上層に、建物を築造した可能性がある。ただ、そうであるとしても、礎石や柱穴は検出できなかったので、耕作による削平等によって失われたと考えておきたい。



第 33 図 1 号建物基壇周辺土層実測図 (1 / 40)

1号建物跡 (図版 17・18、第 32・33 図)

2号建物の下層に位置する建物跡である。現況では基壇と礎石根石を残すが、削平のため、東半分は礎石及び礎石根石が失われている。現況で残る基壇はほとんどが地山を削り出すが、上面では薄く整地層と考えられる 10YR 5 / 4 にぶい黄褐色粗砂が残存していた。恐らく下半部は地山削り出しにより、略、礎石根石の上面より上は盛土で構築されていたと考えられる。

北・東・南側は基壇外面に石列を伴うが、基壇西側は石列がない。基壇西側は土が露出しているが、恐らく、2号建物の建築に伴う整地に際して、基壇石列が除去されたのではないかと考えられる。なお、基壇北側の石列を SS251、基壇南側の石列を SS252 とした。

建物跡を構成する礎石根石は、SP324・SP240・SP313・SP259B・SP244・SP266 があり、

SP324 と SP244 の間、SP324 と SP240 の間にはほぼ直線的に石列 SS423 がある。これらの石列は柱間に設置された地覆石と考えられ、建物は SP324 を角としたことが明らかである。SP324 – SP244、SP244 – SP266、SP240 – SP313 間はほぼ 1.80m でそろい、SP313 と SP259B 間は 0.90m とその 1/2 となり、建物は 6 尺等間を基準にしたものと推測される。建物の北辺柱列礎石根石は 3 個所しか残っていないが、SP266 の東に 1.80m 伸ばすと、基壇の北東隅のすぐ内側に合致する。そのため、建物はほぼ正南北に軸を向けた 3 × 3 間の身舎に、半間の軒ないしは縁が南にとりつく柱配置と考えられる。すると、SP271 及び SP245 は 1 号建物を構成する礎石根石下の掘り込みの可能性があり、2 号建物の礎石根石である SP257 の掘り方の西側の広がり、1 号建物の礎石根石の抜き取り痕と推測される。

基壇外面石列は北側、東側の北半では小振りの塊石が乱雑に検出されている。2 号建物の整地やその後の削平等による石の移動の影響を受けた可能性は皆無ではないが、石の形も揃っていないので、もともと基壇南側の石列に比べ、粗雑な積み方であったと考えておきたい。一方、前述のように、基壇の南東部は 2 号建物の建築に先立つ整地時に拡張されたと考えられるが、基壇南側の石列は、比較的長方形の整った石を用いている。基壇南側石列の上面標高は 108.0 ～ 108.2m 程であり、北側石列の上面標高 108.5 ～ 108.7m と比べ、0.5m 程低くなる。基壇上面が水平であったとすれば、南側は北側、東側よりも基壇高が大きかったと推測される。1 号建物跡北側礎石根石列の上面標高は 108.6 ～ 108.7m であり、その上に据えた礎石の高さが 0.2m 程とすると、少なくとも 1 号建物建築時の基壇上面標高は 108.9m 前後となり、南側は高さ 1m 程の石垣であったことになる。したがって、南側石列は、高く石垣を積むために丁寧に施工されたと考えておきたい。

建物の東北隅、基壇石列内側、柱列外側に小規模なピット SP406、建物の西北、SS252 石列外側に SS251 北西ピットが位置する。後述するように、それぞれ筒形土器、黄褐釉陶器が埋置された状態で検出された。2 号建物の築造時には本ピットは整地層の下となる位置にあり、いずれも 1 号建物及び基壇の北側コーナーを意識したものであろう。

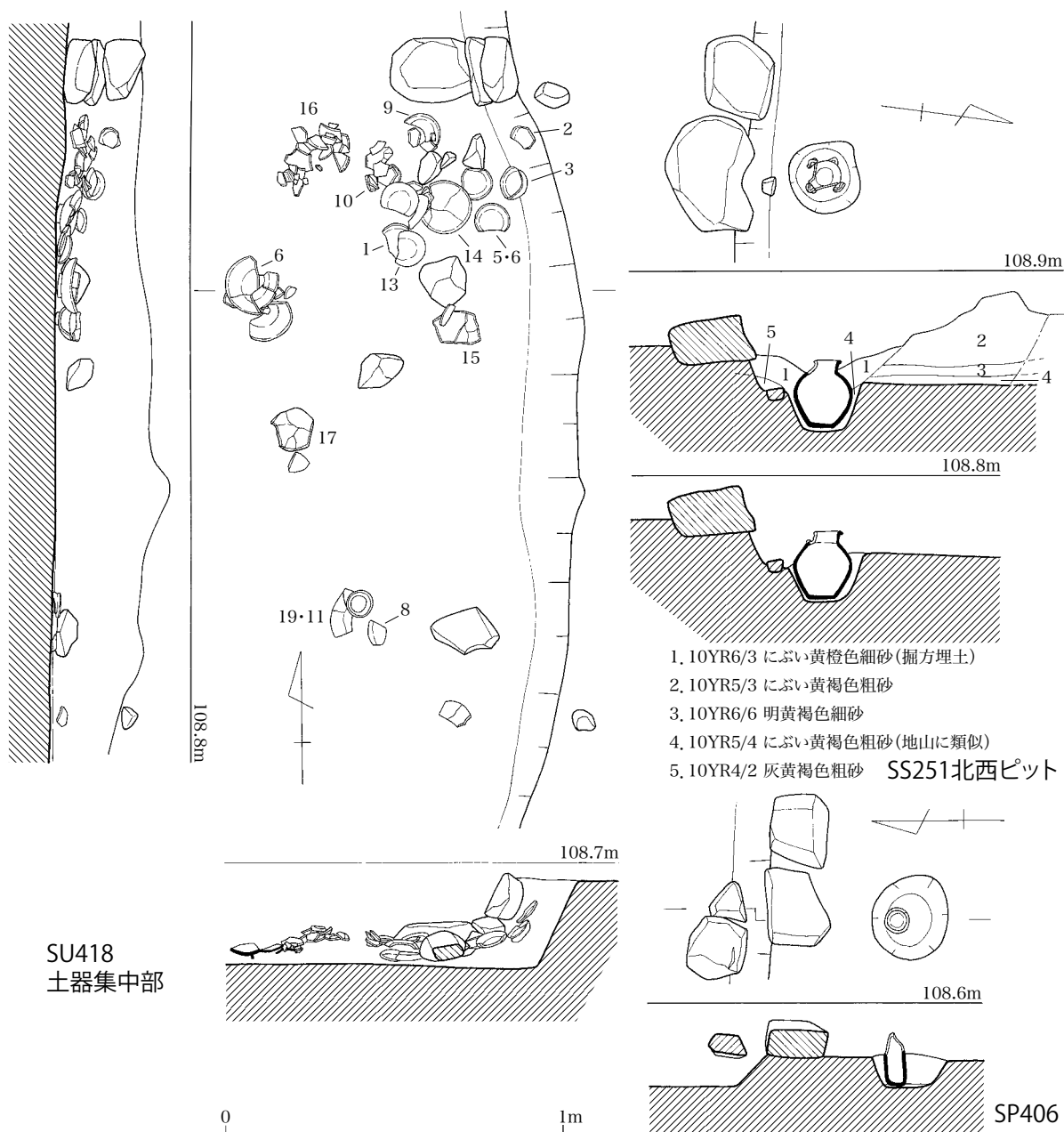
ピット

SS251 西端ピット（図版 19、第 34 図）

1 号建物跡基壇の北西隅外、基壇に接するような場所で検出したピットで、ほぼ完形の黄褐釉陶器壺を埋置していた。土層図に示したように、基壇北側の堆積層（2 ～ 4 層）から、壺の大きさとほぼ等しいピットを掘り込んで埋置している。ただ、1 号建物の北西隅を強く意識した位置にあり、上面を 2 号建物建築に先立つ整地層が覆っていた可能性が高いため、1 号建物に伴うものと考えられる。なお、壺内の胴部 1/3 程の高さまでは炭化物が堆積していて、壺内の埋土を精査したが、特に出土遺物はなかった。

SS251 西端ピット出土陶器（第 35 図 1、第 14 表） 口縁端部をわずかに欠損するがほぼ完形の壺である。褐釉陶器の四耳壺につながる器形と考えられるが、黄緑色に発色した釉を施すため黄褐釉とした。口縁部は短く、端部を急激に外反させて仕上げる。胴部は最大形がやや下部にあるどっしりした器形で、肩部に粘土紐を貼付した四耳がある。胴下部外面はケズリを残し、底部外面の調整は雑で、板圧痕を残す。外面胴下半部、底部外面は露胎であり、全体に釉薬は薄い。口径 96mm、頸径 78mm、胴部最大径 165mm、底径 82mm、器高 164mm、胴高 137mm を測る。

11 世紀代に中国でも南方で生産されたものと考えられる。



第 34 図 SU418・SP406・SS251 北西ピット実測図 (1 / 20)

SP406 (図版 19、第 34 図) 1 号建物跡、2 号建物跡基壇の北東隅の内側に位置し、筒形土師器が出土した。位置から考えて、1 号建物の建築に先立つ、地鎮のような目的があった可能性が高いものと思われる。ただ、内部の埋土からの出土品はない。ピットは直径 20cm 余りで筒形土師器よりはやや大きめであり、ピットの床に接するように、土師器は正置されていた。埋土は 10YR 4 / 2 灰黄褐色粗砂。

SP406 出土土器 (第 35 図 2、第 14 表) 口縁端部は一部しか遺存しないが、体部～底部はほぼ完存する筒形土師器である。底部は大きく安定した平底で、口縁部に向ってすぼまる。胴部外面は縦ハケが遺存し、胴部内面に粘土紐巻き上げ痕を明瞭に残す。中世土師器としては類例が少ない器形である。

ただ、大きさは異なるものの、太宰府近辺出土の経筒の外容器中に、粘土紐を巻き上げた筒形土

器がある。出土状況の特異性から考えて、これらの経筒外容器の製作技法を取り入れたものと考えられる。口径 48mm、底径 76mm、器高 152mm を測る。

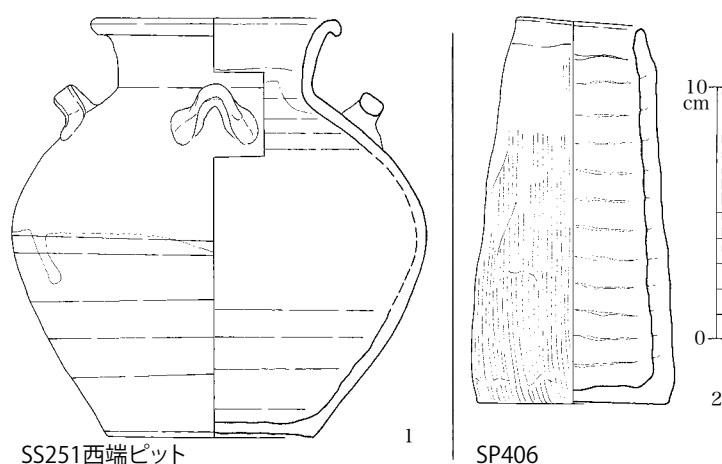
遺物集中部

SU418 遺物集中部 (図版 19、第 34 図)

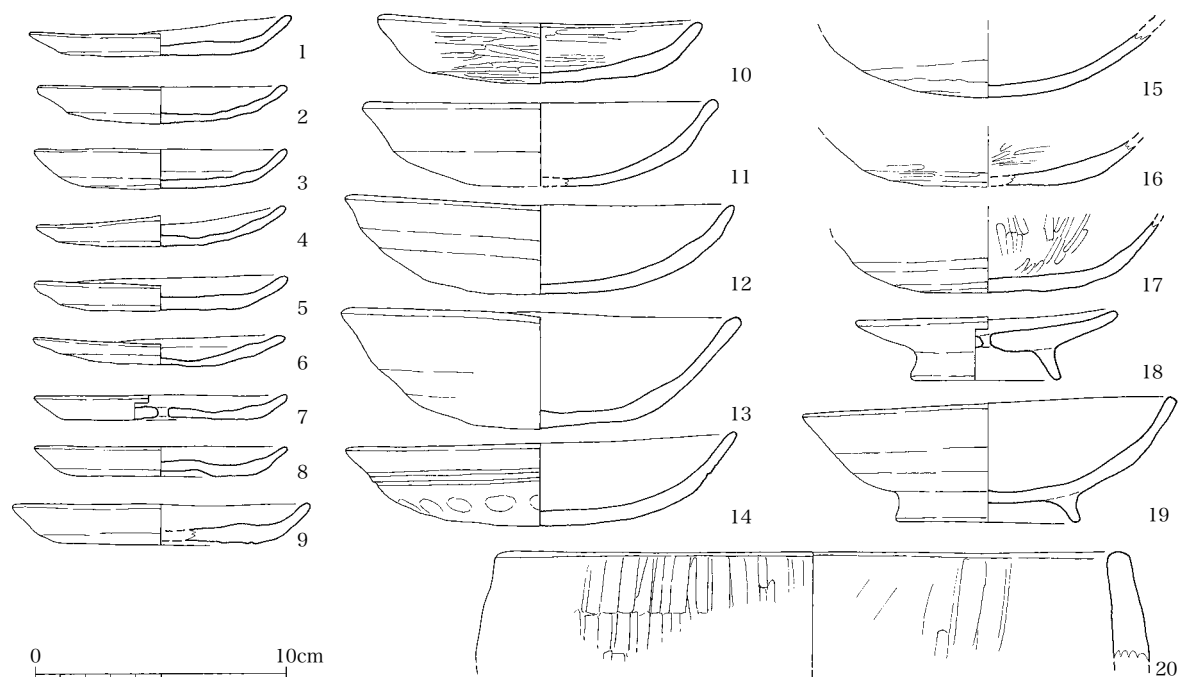
1 号建物基壇の西側包含層を SX413 として遺物を取り上げたが、特に土器の集中する個所があったので、別個に SU418 として遺構番号を付し、出土状況を記録した。出土状況を見ると、1 号建物跡基壇の西側に接し、基壇内側から流れ込むような状態で出土しており、さらにその上部は 2 号建物跡の整地層に覆われる。したがって、2 号建物の築造のための整地の直前の時期、すなわち 1 号建物の廃絶に限りなく近い時期に推測され、良好な一括性をもつものと考えられる。

SU418 出土土器・石鍋 (第 36 図、第 15 表) 1～9 は土師器皿である。外面に板圧痕を残すものが多く、糸切り痕を残すものは含まれない。10～17 は土師器杯である。10・16 は一応、土師器に含めているが、内外面黒色で、ミガキ仕上げであるため、黒色土器とするべきかも知れない。14 は外面の強いナデによる沈線、指頭圧痕が特徴的である。18 は高台付皿、19 は高台付杯で、いずれもやや高くしっかりした高台を貼付している。

20 は滑石製石鍋口縁部片。



これらの遺物は 11 世紀後半に位置づけられる。第 35 図 SS251 西端ピット・SP406 出土土器・陶器実測図 (1/3)



第 36 図 SU418 出土土器・石鍋実測図 (1/3)

建物基壇周辺の包含層出土土器

SS251 前面包含層出土土器（第 37 図 1～4、第 16 表） 1 号建物跡の基壇北側石列の前面（北側）の遺物包含層からの出土品である。2 号建物築造時にはこの包含層を覆うように、盛土・整地されており、2 号建物跡築造以前のものが多いと考えられる。1～4 は土師器皿である。1 は小形であるが、他は口径 10cm 近い比較的大形品であり、5 の土師器碗も高台が高い。

SS252 前面包含層出土土器（第 37 図 6～11、第 16 表） 1 号建物跡・2 号建物跡の基壇東側石列の前面（東側）の遺物包含層出土品。2 号建物の築造時に、1 号建物跡の基壇列石を改造したと考えられるので、2 号建物築造後に堆積した包含層と考えられる。6 は土師器皿。7・8 は土師器杯で口径は小さく、器高の高い点が特徴的である。9 は高台が低く、高台径の小さい土師器碗、10 は高台径、高台高が大きい土師器碗底部片。11 は褐釉陶器の底部近くの破片である。

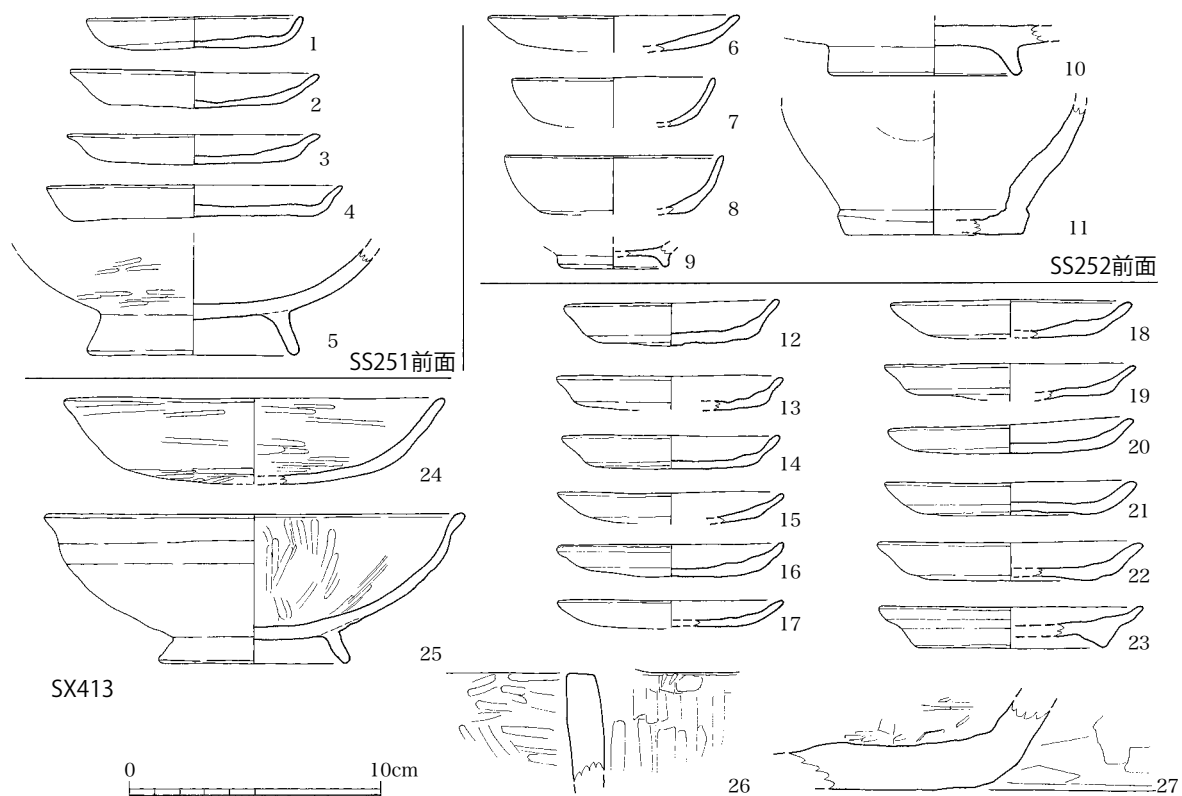
SX413 出土土器・石鍋（第 37 図 12～27、第 16 表） 1 号建物跡基壇の西側に堆積した包含層中

第 14 表 SS251 西端ピット・SP406 出土土器・陶器観察表

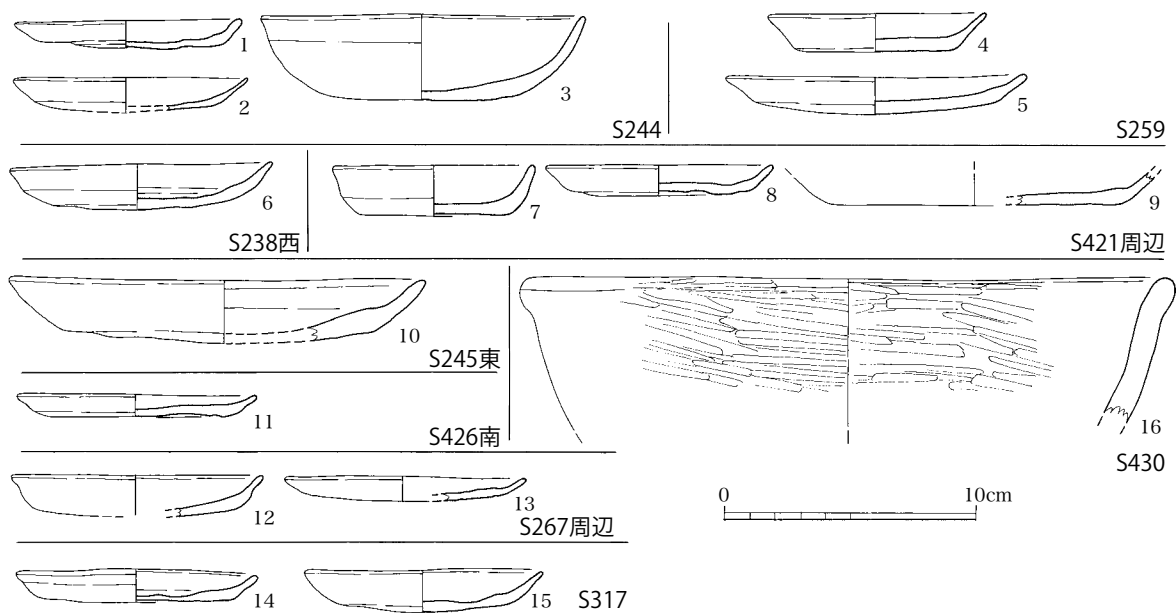
挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量（mm）	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
35-1	23	SS251 西端 ピット	黄褐釉陶 器壺	口径96、頸径 78、胴部最大径 165、底径82、器 高164、胴高137	細砂粒をやや多く含む	良好	生地灰黄色、 釉黄緑褐色	肩部に粘土紐貼付の四耳がある。胴 下部外面はケズリを残し、底部外面 の調整は雑で、板圧痕残。	口縁端わずかに 欠損するがほぼ 完形		461
35-2	23	SP406	土師器筒 形土器	口径48、底径 76、器高152	精良	良好	灰黄褐色	胴部外面縦ハケ、胴部内面ナデで粘 土紐積み上げ痕跡を残す。底部は安 定した平底で、口縁部にむかってす ばまる。	口縁一部残。胴 部ほぼ完存。		571

第 15 表 SU418 出土土器・石鍋観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量（mm）	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
36-1		SU418 No. 4	土師器皿	口径100、器高16	角閃石、赤褐色粒少量 含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕。			681
36-2		SU418 No. 12	土師器皿	口径98、器高15	細砂を若干含む	良好	白黄色	摩滅顕著。	1 / 8		691
36-3		SU418 No. 11	土師器皿	口径98、器高15	白色粒、雲母少量含む	良好	灰黄色	底部外面板圧痕。			692
36-4		SU418	土師器皿	口径98、器高16	細砂粒若干含む	良好	灰黄色	底部外面板圧痕。			693
36-5		SU418 No. 9	土師器皿	口径96、器高14	白色粒、赤色粒若干含 む	良好	灰黄色	底部外面粘土紐巻き上げ痕、板圧痕 残る。			683
36-6		SU418 No. 9	土師器皿	口径98、器高13	白色粒、赤色粒若干含 む	良好	淡橙色	底部外面ヘラ切り痕、板圧痕残る。			684
36-7		SU418	土師器皿	口径98、器高10	精良	良好	灰黄色	底部中央に穿孔の可能性あり。底部 外面板圧痕残る。			697
36-8		SU418 No. 18	土師器皿	口径98、器高12	雲母、細砂粒わずかに 含む	良好	白黄褐色ー黒 褐色、内底面 黒色	底部外面板圧痕残る。	1 / 4		696
36-9		SU418 No. 14	土師器皿	口径114、器高15	赤褐色粒、雲母等若干 含む	良好	白黄褐色	底部外面ヘラ切り痕残る	1 / 2		690
36-10		SU418 No. 2	土師器 （黒色土 器？）杯	口径124、器高25	精良	良好	黒色	内外ミガキ仕上げ、外底面粘土紐巻 き上げ痕を残す。			699
36-11		SU418 No. 17	土師器杯	口径136、器高33	細砂粒を多く含む	良好	白黄色	内外摩滅顕著。	1 / 2		694
36-12		SU418 No. 6	土師器杯	口径148、器高35	角閃石、赤褐色、雲母 等細砂粒多く含む	良好	白黄色	外底面板圧痕残る。			689
36-13		SU418 No. 5	土師器杯	口径154、器高46	角閃石、赤褐色、雲母 等細砂粒少し含む	良好	杯黄褐色、内 底部黒色	内外摩滅顕著。			688
36-14		SU418 No. 8	土師器杯	口径152、器高36	細砂粒を多く含む	良好	灰黄褐色ー暗 褐色	外面板圧痕残。外面の強いナデによ る沈線、指頭圧痕が特徴的。			685
36-15		SU418 No. 20	土師器杯	残高30	細砂粒若干含む	良好	白黄褐色	内外摩滅顕著			700
36-16		SU418 No. 1	土師器 （黒色土 器？）杯	残高18	精良であるが、雲母少 し含む	良好	黒灰色ー黒色	内面ミガキ、外面摩滅			686
36-17		SU418 No. 15	土師器杯	残高28	細砂粒、雲母少し含む	良好	白黄褐色、一 部内面黒色	内面ミガキ、外面ナデ			695
36-18		SU418	土師器高 台付皿	口径100、器高 28、高台径56、 高台高11	赤褐色粒、雲母等若干 含む	良好	淡褐色	底部中央部穿孔、内外摩滅顕著。		内面煤と思われる黒色 物付着。	698
36-19		SU418 No. 17	土師器碗	口径144、器高 50、高台径92、 高台高12	角閃石、白色粒等細砂 粒をわずかに含む	良好	灰黄褐色ー暗 褐色	内面ー口縁部外面摩滅、高台付近ナ デ。高台やや高い。			687
36-20		SU418	滑石製石 鍋口縁片	口径240、残高44				内外面ケズリ痕残る。			680



第 37 図 1 号・2 号建物跡基壇周辺包含層出土土器・石鍋実測図 (1 / 3)



第 38 図 1 号・2 号建物跡礎石・礎石根石周辺出土土器実測図 (1 / 3)

の出土遺物である。包含層は 2 号建物築造時の整地層に覆われるため、1 号建物の築造～廃絶までのものが主体となり、上述した SU418 出土遺物もこの一部と言える。12～23 は土師器小皿で、23 は上げ底気味の底部が特徴的である。24 は土師器杯、25 は土師器高台付碗で、内外のミガキ仕上げが特徴的である。26・27 は滑石製石鍋小片である。

1・2 号建物礎石・礎石根石およびその周辺出土土器

ここでは 1・2 号建物跡礎石・礎石根石掘方及びその周辺の遺構面から出土した土器を報告する

ことにしたい。

SP244 出土土器（第 38 図 1～3、第 17 表） 1・2 は土師器皿である。3 は土師器杯で外面に黒斑を残す。

SP259 出土土器（第 38 図 4・5、第 17 表） いずれも西側の遺構面から出土した土師器皿で、4 は底部外面に糸切り痕を残す。

SP238 出土土器（第 38 図 6、第 17 表） 土師器皿で、底部外面には板圧痕を残す。

SS421 出土土器（第 38 図 7～9、第 17 表） 周辺の包含層から出土したものである。7・8 は土師器皿で、8 は底部外面に糸切り痕を残す。9 は土師器杯。

SP245 出土土器（第 38 図 10、第 17 表） 東側の遺構面から出土した土師器杯である。

SP426 出土土器（第 38 図 11、第 17 表） 南の遺構面から出土した土師器皿であり、底部外面に糸切り痕を残す。

第 16 表 1 号・2 号建物跡基壇周辺包含層出土土器・石鍋観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量（mm）	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
37-1	23	SS251 前面 包含層	土師器皿	口径84、器高13	砂粒ほとんど含まず	良好	黄橙褐色	底甲板圧痕残。			462
37-2		SS251 前面 包含層	土師器皿	口径98、器高15	細砂粒少量含む	良好	白灰黄色	底部ヘラ切り。			464
37-3		SS251 前面 包含層	土師器皿	口径98、器高13	1mm大細砂少量含む	良好	白黄褐色	底部外面摩滅。	1／2		463
37-4	23	SS251 前面 包含層	土師器皿	口径116、器高13	精良、砂粒ほとんど含まず	良好	橙褐色	底部糸切り後板圧痕。	口径2／3、底全周。		465
37-5		SS251 前面 包含層	土師器碗	底径78、高台高16、残高42	細砂、赤褐色粒わずかに含む	良好	白黄色ー白褐灰色	体部丸み帯び、高台高い。体部外面ミガキ残。	3／4		651
37-6		SS252 前面 包含層	土師器皿	口径98、器高14	精良	良好	灰黄褐色	底部外面摩滅。	1／3		471
37-7		SS252 前面 包含層	土師器杯	口径78、器高19	精良	良好	外面黒灰色ー白色、内面灰黄色	底部外面摩滅。	1／5		467
37-8		SS252 前面 包含層	土師器杯	口径86、器高33	微砂粒少量含む	良好	外面灰色、内面灰黄褐色	底部外面摩滅。	1／3		469
37-9		SS252 前面 包含層	土師器碗	高台径50、残高8	精良	良好	白黄褐色	高台低い。	3／4		468
37-10		SS252 前面 包含層	土師器碗	高台径66、残高20	精良	良好	白黄褐色	高台やや高い。			470
37-11		SS252 前面 包含層	褐釉陶器 壺	底径70、残高52	細砂粒少量含む	良好	紫褐色	底部外面削り。外面下半は露胎。	1／8		466
37-12		SX413 最下 層	土師器皿	口径84、器高19	雲母少量含む	良好		底部外面板圧痕。			670
37-13		SX413 最下 層	土師器皿	口径86、器高13	精良、赤褐色粒・雲母少量含む	良好	白黄褐色	底部外面摩滅。	1／4		659
37-14	23	SX413	土師器皿	口径84、器高13	精良だが、雲母少し含む	良好	白黄橙色	底部外面板圧痕。	1／4		657
37-15		SX413	土師器皿	口径88、器高12	雲母、赤褐色粒少量含むが精良	良好	橙褐色	底部外面板圧痕	1／2		669
37-16		SX413	土師器皿	口径88、器高13	精良	良好	白黄灰色	底部外面板圧痕。		1／2	658
37-17		SX413	土師器皿	口径86、器高11	精良	良好	白黄橙色	底部外面摩滅。	1／4		668
37-18		SX413	土師器皿	口径94、器高14	細砂粒、雲母少量含む	良好	白黄橙色	底部外面板圧痕。全体的に摩滅気味。			662
37-19		SX413	土師器皿	口径98、器高14	細砂粒、赤褐色粒少量含む	良好	白黄橙色	底部外面糸切り痕。			666
37-20		SX413	土師器皿	口径96、器高13	雲母・角閃石の細砂粒少量含む	良好	灰黒色	底部外面板圧痕。	2／3	瓦器に近い焼成。	655
37-21		SX413 最下 層no. 2	土師器皿	口径98、器高13	雲母・角閃石細砂粒少量含む	良好	灰黄色	底部外面糸切り痕。			661
37-22		SX413	土師器皿	口径104、器高15	砂粒ほとんど含まず	良好	白黄灰色	底部外面糸切り痕。			
37-23		SX413	土師器皿	口径104、器高16	雲母、赤褐色粒少量含むが精良	良好	白黄灰色	底部外面ナデ。	1／4		664
37-24		SX413	土師器杯	口径148、器高33	精良だが、雲母少し含む	良好	白黄橙色、内外底面の一部黒灰色	内外ミガキ			660
37-25		SX413	土師器碗	口径164、高台径72、器高59、高台高13	雲母少量含むが、精良	良好	白黄橙色	内面ミガキ、外面摩滅、底部外面ミガキ			656
37-26		SX413	滑石製石 鍋口縁片	残高43、厚さ14				内外面ケズリ痕			671
37-27		SX413	滑石製石 鍋底部片	残高35、厚さ18				内外面ケズリ痕			672

SP267 出土土器（第 38 図 12・13、第 17 表） 周辺の遺構面から出土した土師器皿で、13 は底部外面に糸切り痕を残す。

SP317 出土土器（第 38 図 14・15、第 17 表） いずれも土師器皿で、15 は北西側の遺構面から出土したものである。いずれも底部外面に板圧痕を残す。

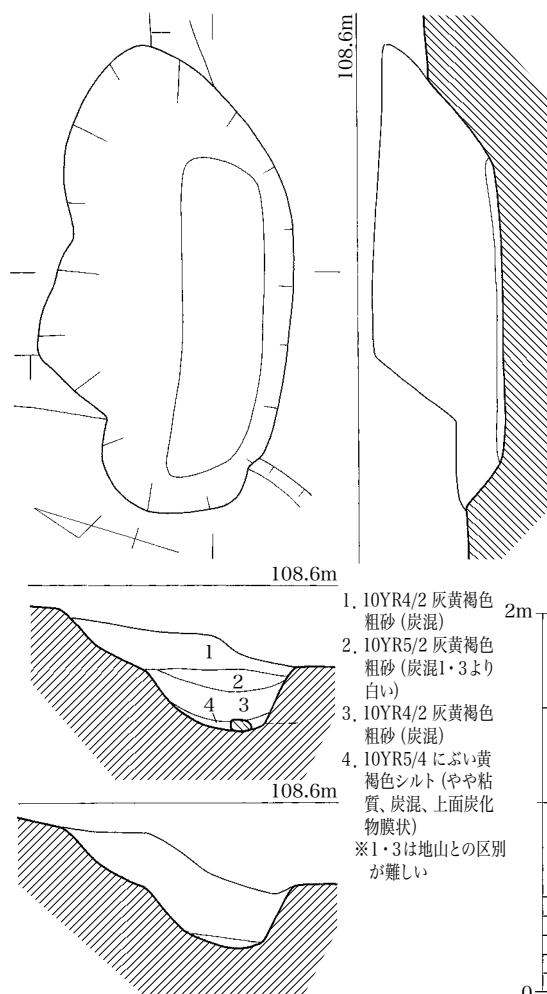
SP430 出土土器（第 38 図 16、第 17 表） 土師器鉢としたが、灰黒色を呈し、内外粗いミガキ仕上げで瓦器にやや近いと言える。

これらの土器のうち、SS421 周辺、SP426・SP430 は、2 号建物関連遺構の中でも、確実に 1 号建物の上層に位置するものである。したがって、これらは 2 号建物築造後の土器として扱うことができよう。

土坑

SK414（第 39 図）

1 号建物跡基壇の南西部で検出された土坑である。ほぼ東西に主軸を向けた長さ 2.5m、幅 1.1m の平面楕円形を呈し、北側の深いところでは深さ 0.7m 程で



第 39 図 SK414 実測図（1／40）

第 17 表 1 号・2 号建物跡礎石・礎石根石周辺出土土器観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
38-1		SP244	土師器皿	口径88、器高12	精良であるが、赤褐色粒を含む	良好	白黄褐色	内外摩滅顕著。	1／2		460
38-2		SP244	土師器皿	口径94、器高13	1～4mm大砂粒を少し含む	良好	灰褐色	内外摩滅顕著。	3／4		458
38-3		SP244	土師器杯	口径128、器高33	細砂粒を少し含む	良好	灰黄色	内外ナデ仕上げ。底部外面黒斑残る。	1／2		459
38-4		SP259西遺構面	土師器皿	口径86、器高15	細砂粒、赤褐色粒を少し含む	良好	内面黄橙灰色、外面黒色	底部外面糸切り痕を残す	1／8		652
38-5		SP259西遺構面	土師器杯	口径116、器高15	精良だが、わずかに雲母を含む	良好	橙褐色	底部外面に板圧痕を残す	1／3		653
38-6		SP238西遺構面No.1	土師器皿	口径104、器高18	細砂粒、雲母、角閃石、赤褐色粒を少し含む	良好	淡褐色	底部外面に板圧痕を残す。	完形	欠損なし	654
38-7		SS421周辺包含層	土師器皿	口径78、器高20	細砂粒、雲母、赤褐色粒を少し含む	良好	黄褐色	内外摩滅顕著。	1／4		702
38-8		SS421周辺包含層	土師器皿	口径88、器高12	精良、わずかに赤褐色粒、雲母を含む	良好	橙褐色	底部外面糸切り後板圧痕を残す。	1／4		703
38-9		SS421周辺包含層	土師器杯	底径114、残高13	精良、わずかに赤褐色粒、雲母を含む	良好	橙褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／2		704
38-10		SP425東遺構面	土師器杯	口径160、器高25	細砂粒、雲母、赤褐色粒を少し含む	良好	橙色	外面摩滅、内面ナデ仕上げ。	1／4		705
38-11		SP426南遺構面No.1	土師器皿	口径92、器高9	細砂粒、雲母を少し含む	良好	橙褐色	底部外面糸切り痕を残す	1／8		706
38-12		SP267周辺遺構面	土師器皿	口径98、器高16	精良	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／4		474
38-13		SP267周辺遺構面	土師器皿	口径94、器高9	精良	良好	淡褐色	底部外面糸切り痕を残す	1／3		473
38-14	23	SP267周辺遺構面	土師器皿	口径92、器高10	1～2mm大砂粒を少し含む	良好	灰褐色	底部外面板圧痕を残す。	3／4		553
38-15		SP317	土師器皿	口径92、器高17	1mm大砂粒をやや多く含む	良好	灰黄褐色	底部外面に板圧痕を残す。	1／3		552
38-16		SP317北西遺構面	土師器？鉢	口径252、器高58	細砂粒、雲母を少し含む	良好	灰黒色	内外ミガキ仕上げ。	1／10		708

ある。上面に1・2号建物跡の礎石根石であるSP259A・Bが位置し、それに先行することは確実である。1号建物跡の基壇南西部との関係は不明であったが、礎石根石に先行することから、本土坑は基壇構築にも先行するものと考えておきたい。

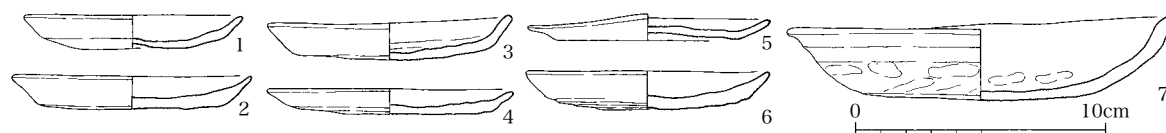
SK414 出土土器（第40図、第18表） 1～6は土師器皿である。口径94～104mmを測り、底部外面に糸切り痕を残すものは含まれない。7はやや丸底に近い底部の土師器杯で、胴下部内外の指頭圧痕が特徴的である。

(2) 東部第1面

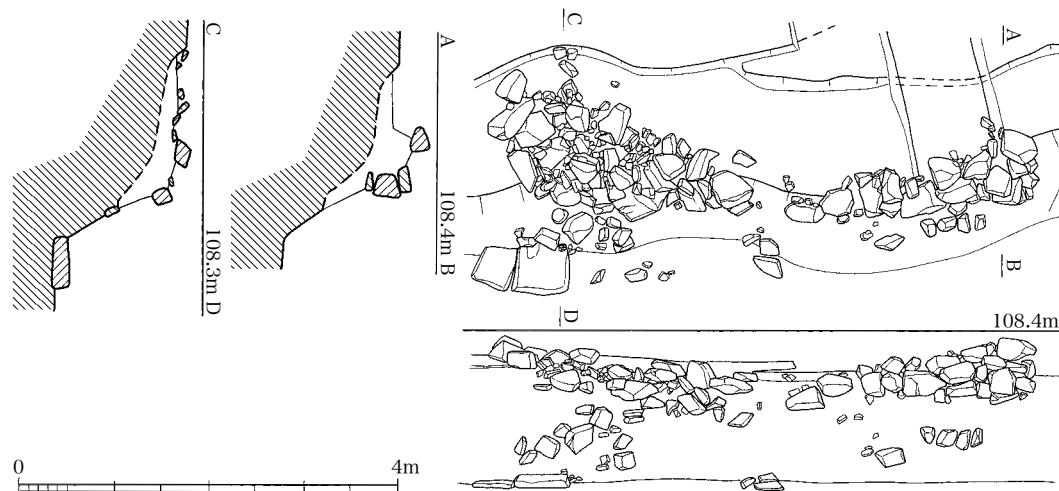
石垣

SW323（図版20、第41図）

2区平坦面の南東部にあり、掘方は包含層SX269を掘り込んでいる。遺存状況が悪く、北東-南西の4m程が残存するに過ぎない。石垣裾にある幅1m余りの細長い平坦面からの比高差が1mであったと推測されるが、南西部では石垣上部の裏込めを残すのみである。北東は遺存状況が良好であり、上部に高さ0.5m弱、本来の面を残す。掘方は幅1m程と狭く、裏込めの石も貧弱で



第40図 SK414 出土土器実測図 (1 / 3)



第41図 SW323 実測図 (1 / 80)

第18表 SK414 出土土器観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
40-1		SK414	土師器皿	口径104、器高13	精良	良好	白黄褐色、一部内灰黒色	内外摩滅顕著。	1 / 4		676
40-2	23	SK414	土師器皿	口径112、器高13	精良だが、赤褐色粒少し含む	良好	黄橙色	底部外面板圧痕を残す。	1 / 2		675
40-3	23	SK414	土師器皿	口径98、器高17	細砂粒を少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	2 / 3		673
40-4		SK414	土師器皿	口径92、器高10	細砂粒、赤褐色粒を少し含む	良好	内白黄褐色、外白黄色	底部外面板圧痕を残す。	1 / 2		677
40-5		SK414	土師器皿	口径94、器高9	細砂粒、赤褐色粒を少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	2 / 3		679
40-6	23	SK414	土師器皿	口径94、器高15	精良だが、雲母、赤褐色粒を含む	良好	淡黄褐色	底部外面へラ切り痕を残す。	1 / 2		678
40-7		SK414	土師器杯	口径148、器高33	細砂粒、赤褐色粒を少し含む	良好	淡褐色	内外ナデ仕上げで、胴下部内外は指頭圧痕を残す。	2 / 3 残		674

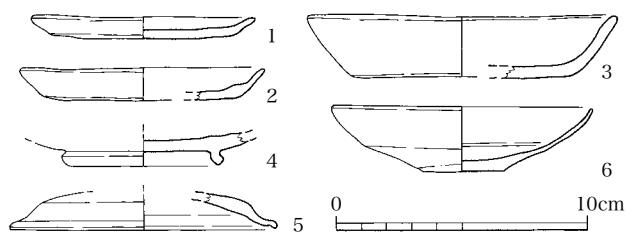
ある。裏込めの状況からは、1区の石垣よりは新しいのではないかという印象であったが、時期に関する確証はない。

SW323 出土土器・磁器実測図（第42図、第19表） いずれも裏込めから出土したもので、隣接するSX269 包含層を掘り込んでいるため、そこに本来、帰属するものも多いと推測される。1・2は土師器皿、3は土師器杯、4は土師器碗である。5は8世紀代の土師器蓋と推測される。6は青磁皿である。

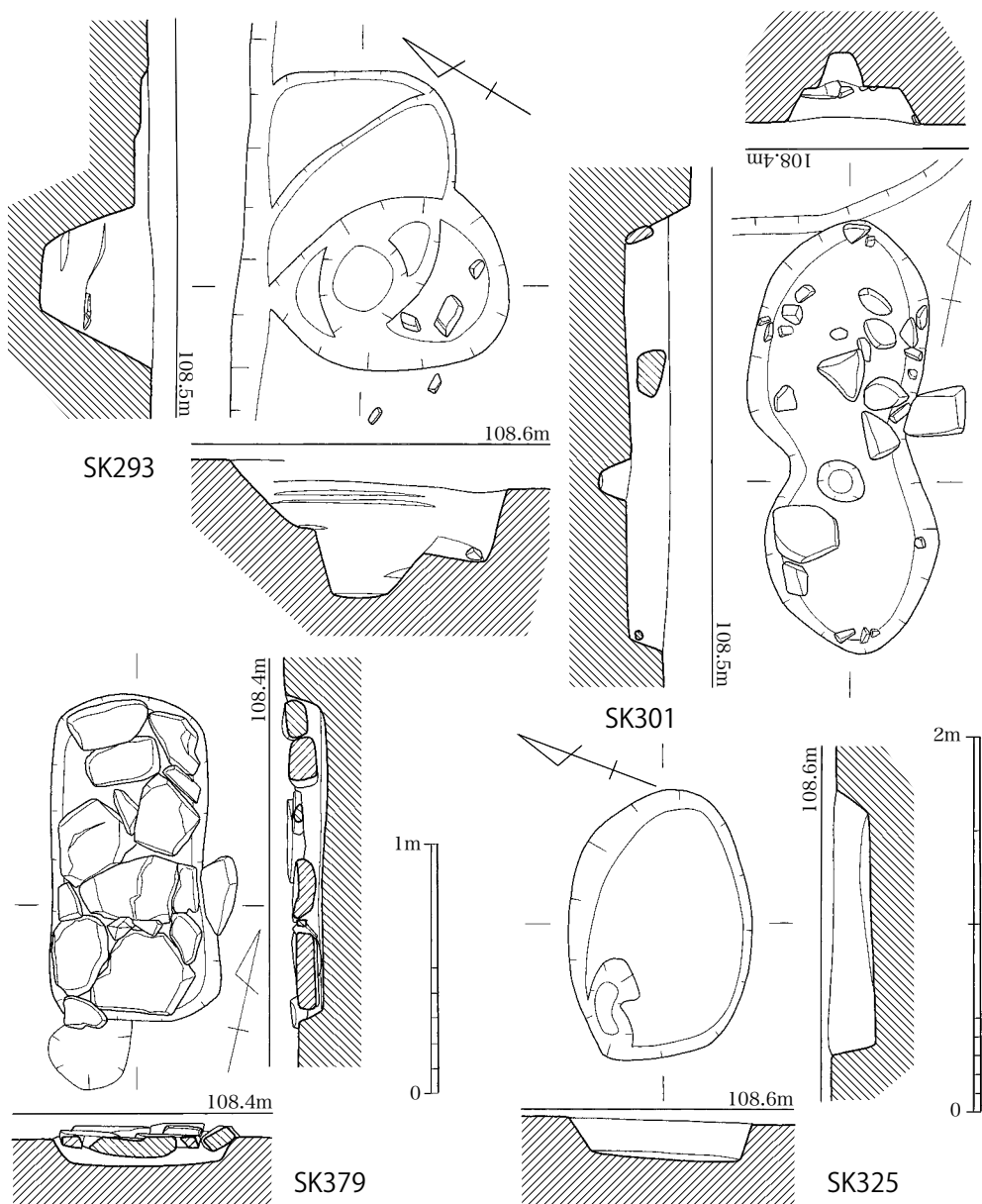
土坑

SK293（第43図）

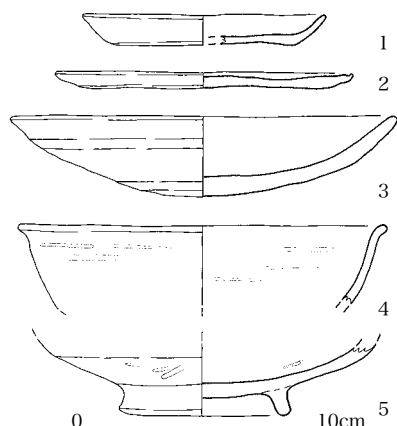
2区平坦面の東部、包含層SX269の下部で検出された土坑である。上面が不明瞭であったために北東側に広がっているが、本来



第42図 SW323 出土土器・磁器実測図（1／3）



第43図 SK293・SK301・SK325・SK379実測図（SK379は1／30、他は1／40）



第 44 図 SK301 出土土器
実測図（1／3）

は南西側の、北西－南東に主軸をおく楕円形の土坑として捉えるべきであろう。楕円形の土坑部分では長軸方向に長さ 1.3m、幅 0.95m を測り、深さは 0.6m 程である。図示はできないが、中世土師器、平瓦小片が出土している。埋土は 10YR 3／3 暗褐色粗砂であった。

SK301（第 43 図）

2 区平坦面の東部に位置する。ほぼ南北に主軸を向けた長楕円形を呈し、長さ 2.3m、幅 0.9m、深さ 0.3m 弱である。土坑内には石が投棄されるとともに、壁・床面には基盤土に含まれる岩が露出していた。埋土は 10YR 4／2 灰黄褐色粗砂で、上面に炭が多かった。

図示はできないが、石鍋の小片もいくつか出土した。

SK301 出土土器（第 44 図、第 20 表） 1 は土師器皿である。2 は土師器皿として図示したが、器高が低いため蓋となる可能性も考慮しておきたい。底部外面は糸切り痕後板圧痕が付着する。3 は丸底で底部外面にケズリ痕を残す土師器鉢。4・5 は外面も一部黒変するが、内面が黒色でミガキ仕上げの黒色土器であり、同一個体の可能性が高い。

SK325（第 43 図）

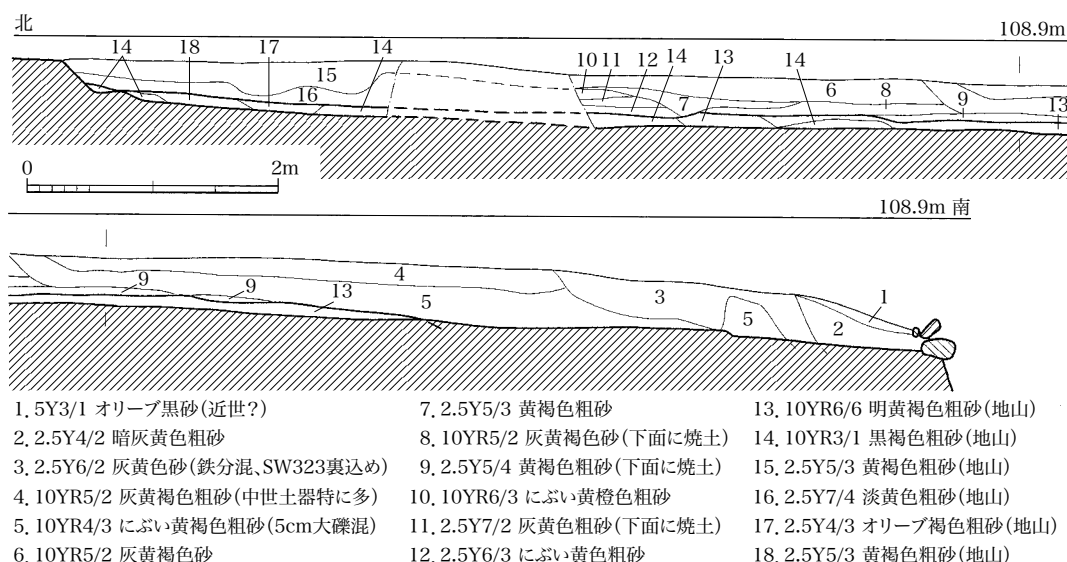
2 区平坦面の東部に位置する。北東－南西に主軸を向けた楕円形を呈し、長さ 1.4m、幅 1.0m を測る。床面は検出面からの深さ 0.2m 余りで、平坦である。図示できる遺物は無いが、上層 10YR 4／4 褐色粗砂、下層 10YR 5／4 にぶい黄褐色粗砂を埋土とし、図示はできないが、石鍋片もいくつか出土している。

第 19 表 SW323 出土土器・磁器観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
42-1		SW323裏込め	土師器皿	口径86、器高9	細砂、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	灰黄褐色	糸切り後板圧痕を残す。	1／4		558
42-2		SW323裏込め	土師器皿	口径96、器高14	細砂、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	白黄褐色	内外ナデ仕上げ。	1／4		555
42-3		SW323裏込め	土師器杯	口径120、器高24	1mm大細砂、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	白黄褐色	底部外面糸切り痕を残し、口縁外面～内面ナデ仕上げ。	1／4		556
42-4		SW323裏込め	土師器碗	高台径58、高台高6、残高13	1mm大細砂、赤褐色粒、雲母を少し混	良好	黄橙色	内外ナデ仕上げ。	底部全周		557
42-5		SW323裏込め	土師器蓋	口径104、残高15	細砂、赤褐色粒、雲母を少し含む	良好	白黄褐色	内外ナデ仕上げ。	1／4		554
42-6		SW323裏込め	白磁皿	口径102、器高25、底径32	精良	良好	生地灰色、釉緑灰色	外面は底部と口縁部の境後よりやや上から底部露胎。内面施釉。	口縁1／2残		559

第 20 表 SK301 出土土器観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
44-1		SK301	土師器皿	口径94、器高12	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	白黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	1／2		550
44-2		SK301	土師器皿	口径116、器高6	細砂粒、雲母、赤褐色粒少し含む	良好	白黄褐色	器高が低く、蓋となる可能性も考えられる。底部外面にはヘラ切り痕後板圧痕を残す。	1／4		546
44-3	24	SK301	土師器杯	口径150、器高32	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	灰黄色	丸底で、底部外面にケズリ痕を残す。	1／2		548
44-4		SK301	黒色土器？碗	口径146、残高32	1～2mm大の細砂粒、雲母、赤褐色粒を多く含む	良好	内面黒色、外面黄褐色及び黒色	口縁部を短く屈曲させて外反させる。内外わずかにミガキが残る。	1／6		551
44-5		SK301	黒色土器？碗	高台径70、残高28、高台高11	1～2mm大の細砂粒、雲母、赤褐色粒を多く含む	良好	内面黒色、外面黄褐色及び黒色	高台は比較的高い。内外わずかにミガキが残る。	高台全周		547



第 45 図 SX269 土層実測図 (1 / 60)

包含層

SX269 (図版 20、第 45 図)

2 区南東部の法肩のラインに沿って、幅 7m、長さ 18m 程の範囲に堆積していた包含層である。深さは 0.3m 程であるが、特にその上部、4 層から土器・陶磁器等の遺物が多量に出土している。遺物の出土状況等から考えて、遺物の投棄等によって、形成された包含層と考えられる。

SX269 出土土器・磁器・石鍋 (第 46・47 図、第 21・22 表) 第 46 図には土師器・瓦器・磁器を示した。

1～13 は土師器皿。14～26 は土師器杯で、27・28 は土師器杯の底部と考えられる。29・30 は土師器大形杯で、丸底に近いものと思われる。31～34 は土師器鉢。いずれも器壁が厚く、砂粒を多く含む粗い胎土が特徴的である。35 は高い突帯を巡らした土師器胴部片で、羽釜の胴部かと考えられる。36・37 は瓦器碗で、36 はやや小形品で、低い高台を貼付する。38～48 は白磁である。このうち 43～46 は、南の法面近くから一括で出土したほぼ完形の白磁で、43・44 は皿、45・46 は玉縁口縁の碗である。47・48 は白磁皿であるが、47 の釉はやや青く発色する。第 47 図は滑石製の石鍋片である。1 は口縁端部片で、端部はやや外傾する面をなす。2 は突帯部付近、3 は底部付近の再加工品である。

(3) 東部第 2 面

2 区東部の第 1 面の遺構の掘下げにおいて、基盤となる淡黄色粗砂の下に黒褐色粗砂、黄褐色シルト土があり、これを掘り込んだ遺構の存在が確認された。そこで淡黄色粗砂を除去して調査を行ったのが、第 2 面である (第 48 図)。小規模なピットが多く、出土遺物も少ないが、石を敷いた長方形の土坑、SK379 の存在が注目される。

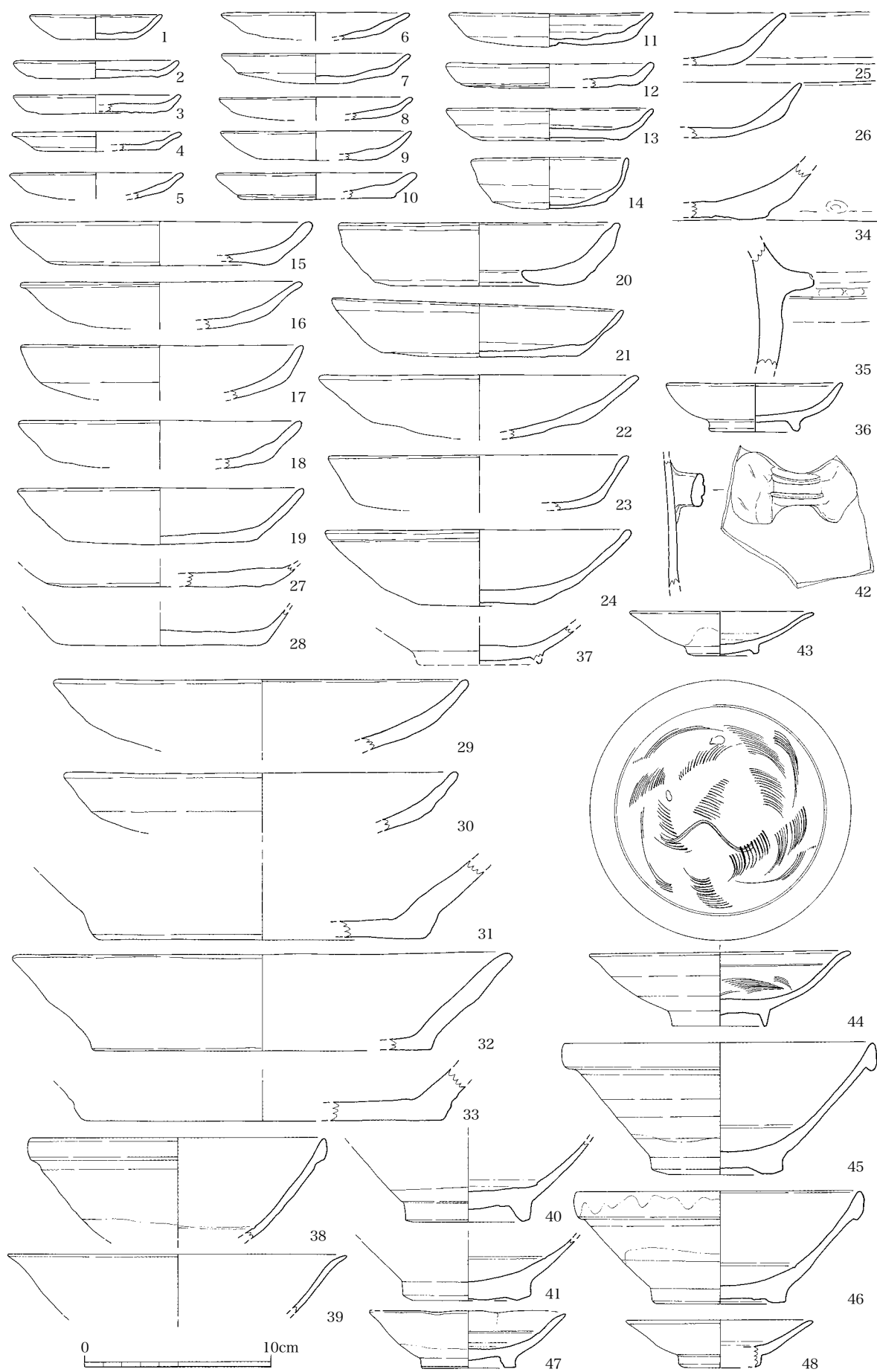
土坑

SK379 (第 43 図)

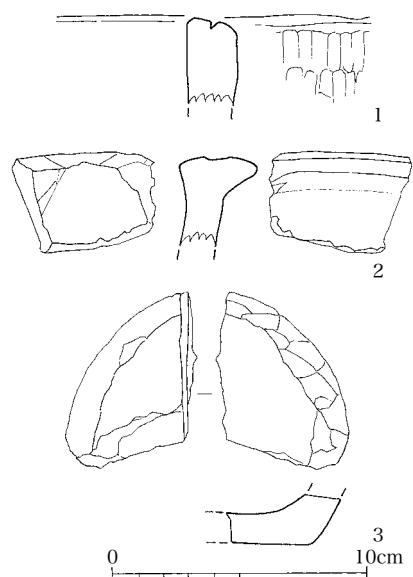
厚さ 10cm 前後の平たい石を敷き詰めた長方形の土坑で、上面及び石の間に多量の炭が堆積している点も注意を引いた。長さ 1.3m、幅 0.65m を測り、主軸をほぼ南北に向ける。

第 21 表 SX269 出土土器・磁器・石鍋観察表（1）

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量（mm）	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
46-1		SX269 包含層東部	土師器皿	口径68、器高13	細砂粒を少し含む	良好	灰褐色	外底面ヘラ切り。			528
46-2		SX269 包含層	土師器皿	口径84、器高9	精良	良好	暗黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。	1 / 3		491
46-3		SX269 包含層	土師器皿	口径86、器高10	1mm大細砂粒、雲母少し含む	良好	褐色	外底面糸切り後板圧痕を残す。	1 / 4		506
46-4		SX269 包含層東部	土師器皿	口径88、器高10	細砂粒を少し含む	良好	白灰黄色	内外ナデ仕上げ。	1 / 4		527
46-5		SX269 包含層	土師器皿	口径90、器高15	1mm大細砂粒、雲母少し含む	良好、口縁端部黒変	灰黄褐色	内外摩滅。	1 / 4		503
46-6		SX269 包含層	土師器皿	口径98、器高15	精良	良好	白黄褐色	内外摩滅。	1 / 3		496
46-7		SX269 包含層西部	土師器皿	口径98、器高15	1mm大細砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	内外摩滅。	1 / 2		520
46-8		SX269 包含層東部	土師器皿	口径102、器高15	微砂粒わずかに含む	良好	灰黄褐色	内外摩滅。	1 / 4		518
46-9		SX269 包含層	土師器皿	口径102、器高15	細砂粒少し含む	良好	白灰橙色	外底面糸切り痕を残す。			484
46-10		SX269 包含層東部	土師器皿	口径104、器高14	1mm大細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好、内面一部灰変	灰黄褐色	外底面糸切り痕を残す。	1 / 4		505
46-11	24	SX269 包含層東部	土師器皿	口径106、器高18	1-4mm大砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	外底面板圧痕を残す。	ほぼ完形		533
46-12		SX269 包含層	土師器皿	口径108、器高13	細砂粒少し含む	良好	白灰黄色	外底面板圧痕を残す。			483
46-13		SX269 包含層	土師器皿	口径108、器高17	細砂粒少し含む	良好	灰黄色	内外ナデ仕上げ。口縁外面、内見込み部一部黒変。			482
46-14	24	SX269 包含層東部	土師器杯	口径82、器高27	1-2mm細砂粒少し含む	良好	黄褐色	口径が小さく、深い器形をなす。外底面板圧痕を残す。			532
46-15		SX269 包含層	土師器杯	口径156、器高23	精良	良好、外底部灰変	黄褐色	口径に比して、器高が小さく、皿との区別に悩む。内外摩滅。	1 / 4		499
46-16		SX269 包含層	土師器杯	口径146、器高25	精良	良好	白黄褐色	内外摩滅。	1 / 8		498
46-17		SX269 包含層	土師器杯	口径148、残高28	精良	良好	白黄褐色	内外摩滅。	1 / 7		502
46-18		SX269 包含層	土師器杯	口径148、器高25	1-2mm細砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	内外摩滅。	1 / 5		493
46-19		SX269 南法面	土師器杯	口径150、底径102、器高30	1-3mm大砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	外底面糸切り後板圧痕を残す。	3 / 4	包含層の南にある石垣の裏込め土出土と解釈すべきか	524
46-20		SX269 包含層東部	土師器杯	口径146、器高33	1-3mm大砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	底部穿孔の可能性あり。内外ナデ仕上げで、厚い器壁が特徴的。			529
46-21	24	SX269 包含層東部	土師器杯	口径150、器高31	1-3mm大砂粒少し含む	良好	黄灰褐色	底部外面糸切り後板圧痕を残す。			519
46-22		SX269 包含層	土師器杯	口径166、残高34	1mm大細砂粒少し含む	良好	淡橙褐色	丸底に近い底部をなす。内外摩滅。	1 / 4		504
46-23		SX269 包含層	土師器杯	口径158、器高29	1mm大細砂粒、雲母少し含む	良好	淡褐色	底部外面板圧痕を残す。	1 / 6		500
46-24		SX269 包含層	土師器杯	口径158、器高40、底径62	精良	良好	白黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。	1 / 6		497
46-25		SX269 包含層	土師器杯	器高30	1-2mm細砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り痕を残す。	小片		501
46-26		SX269 包含層	土師器杯	器高30	精良	良好	白黄褐色	内外摩滅。	小片		495
46-27		SX269 包含層西部	土師器杯？	残高12	精良	良好	灰黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	1 / 3		523
46-28		SX269 包含層東部	土師器杯？	残高20	1mm大細砂粒少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面糸切り後板圧痕を残す。	3 / 4		526
46-29		SX269 包含層東部	土師器大形杯	口径216、残高37	精良だが、雲母を少量含む	良好	褐色	内外摩滅。	1 / 5		531
46-30		SX269 包含層	土師器大形杯	口径208、残高32	精良	良好	褐色	内外摩滅。	1 / 5		507
46-31		SX269 包含層	土師器鉢？	底径172、残高43	1-5mm大砂粒多く含む	良好	外暗黄褐色、内暗褐色	内外摩滅顕著。	1 / 8		489
46-32		SX269 包含層東部	土師器鉢？	口径260、底径180、器高51	1-5mm大砂粒多く含む	良好	外暗黄褐色-黒灰色、内灰黄褐色	内外ナデ仕上げ。	1 / 5		476
46-33		SX269 包含層	土師器鉢？	底径192、残高28	1-4mm大砂粒、雲母多く含む	良好	外灰黄褐色、内黒灰色	内外ナデ仕上げ。	1 / 8		490
46-34		SX269 包含層	土師器鉢？	残高31	砂粒多く含む	良好	褐色	内外ナデ仕上げで、外面に指頭圧痕残す。	小片	内面使用のためか赤変。	508
46-35		SX269 包含層東部	土師器羽釜		砂粒多く含む	良好	外面暗褐色、内面灰黄褐色	高い突帯を巡らし、内外ナデ仕上げ。傾き、天地は不安である。	小片		530
46-36		SX269 包含層	瓦器碗	口径92、器高26、高台径46、高台高7	細砂粒少し含む	良好	灰色-黒色	内外摩滅。			485
46-37		SX269 包含層西部	瓦器碗底部	残高20	精良	良好	外面灰白色、内面黒灰色	外面摩滅、内面ナデ仕上げ。			421
46-38		SX269 包含層	白磁碗	口径156、残高54	精良	良好	釉灰黄色	内見込みに沈線巡る。外下部露胎。			513
46-39		SX269 包含層	白磁碗	口径178、残高33	精良	良好	釉灰色	内外施釉。	1 / 8		512



第46图 SX269出土土器・磁器实测图(1/3)



第 47 図 SX269 出土石鍋実測図
(1/3)

図示できる遺物はない。

(4) 東部第 3 面

第 2 面のベースとなっていた 10YR 5/6 黄褐色シルト土に縄文土器が含まれているために掘下げ、第 3 面の有無を確認した。確認したところ、3 基の黄褐色土を埋土とする不整形の落ち込み状遺構が検出されたので、掘削を行った (第 48 図)。掘削を行ったところ、底面も凹凸が顕著であり、しっかりした遺構とはならないため、恐らく風倒木痕跡のような遺構と考えられる。

(5) 2 区南拡張部

2 区の主体となる平坦面より、約 3 m 程下に、調査前より平坦面のあることが確認されていた。そこに設定したのが本調査区である。平坦面の造成に伴い石を投棄した土坑 SK424 と、ピット等が検出された。

土坑

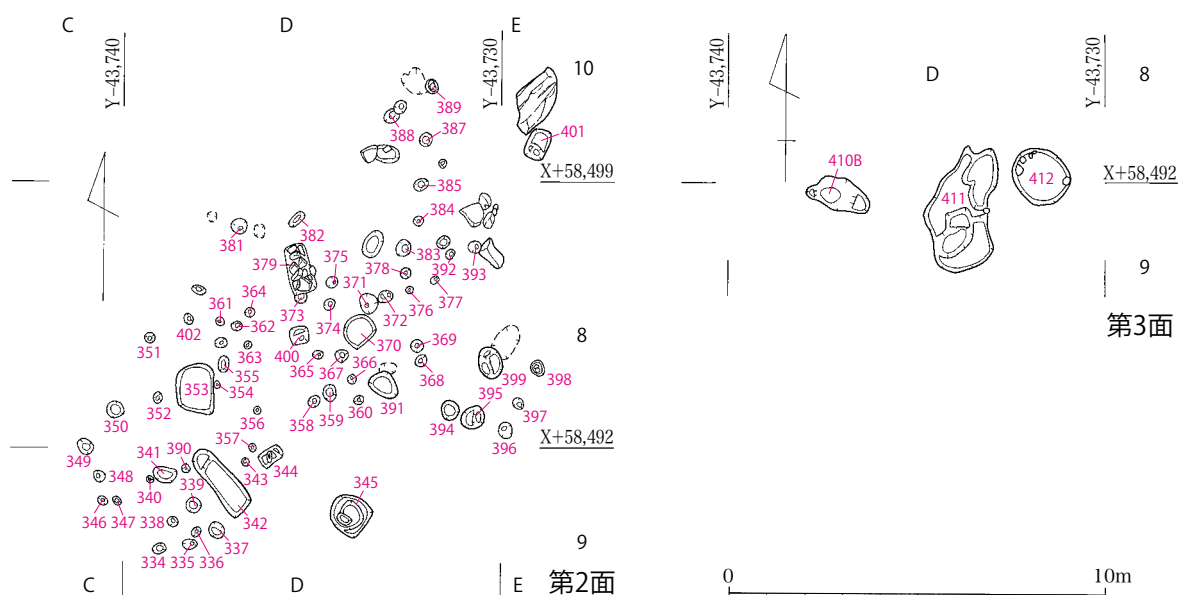
SK424 (図版 21、第 49 図)

2 区南拡張部の北側に位置する。北側は調査区外に広がるが、長さ 5.5m、幅 4.0m を測るほぼ長方形の平面形を呈するものと考えられる。内部には 0.5 ~ 1m の巨石が多数投棄されており、造成に際して、石を片づけて投棄した土坑と考えられる。人力で石を除去することができず、底部までは完掘していない。図示できる遺物はないが中世土師器片等が出土した。

(6) 2 区その他の遺構出土土器・陶磁器

第 22 表 SX269 出土土器・磁器・石鍋観察表 (2)

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
46-40		SX269 包含層東部	白磁碗底部片	高台径66、高台 高11、残高43	精良	良好	釉灰黄色	外面高台よりやや上から高台内にかけて露胎。見込み輪状に釉剥ぎ。	全周		487
46-41		SX269 包含層	白磁碗	高台径68、残高 43、高台高9	精良	良好	釉灰黄色	外面残存部露胎。内面施釉。内見込みに沈線巡る。	全周		516
46-42		SX269 包含層	白磁? 四耳壺肩部		細砂粒少し含む	良好	釉灰黄色	橋状に粘土を貼付して耳とする。	小片	釉剥離。黄褐釉陶器とすべきか。	486
46-43	24	SX269 包含層一括	白磁皿	口径96、器高 23、高台径38、 高台高5	精良	良好	生地灰褐色、 釉青灰色。	高台外一高台内にかけて露胎。見込み輪状釉剥ぎ。	ほぼ完形		478
46-44	24	SX269 包含層一括	白磁皿	口径138、器高 40、高台径51、 高台高9	精良	良好	生地灰黄色、 釉灰黄緑色	内面櫛描文施文。高台外一高台内にかけて露胎。	ほぼ完形		479
46-45	24	SX269 包含層一括	白磁碗	口径164、器高 69、高台径70、 高台高9	精良	良好	生地灰黄色、 釉灰黄緑色	外面高台よりやや上から高台内にかけて露胎。見込みに沈線巡る。	ほぼ完形		481
46-46	24	SX269 包含層一括	白磁碗	口径146、器高 60、高台径72、 高台高7	精良	良好	生地灰黄色、 釉灰黄緑色	口縁部外面釉垂れる。外面高台よりやや上から高台内にかけて露胎。見込みに沈線巡る。	ほぼ完形		480
46-47	24	SX269 包含層	白磁皿	口径102、器高 30、高台径50、 高台高7	精良	良好	生地黄灰色、 釉緑黄灰色	外面高台よりやや上から高台内露胎。見込み輪状釉剥ぎ。口縁輪花状凹みあり、内面口縁よりやや下に沈線巡る。	底部全周、口縁 1/6	釉やや青く発色するが、白磁か。	514
46-48		SX269 包含層	白磁皿	口径98、器高 25、高台径44、 高台高7	精良	良好	釉淡灰黄緑色	高台外一高台内露胎。見込み輪状に釉剥ぎ。			515
47-1		SX269 包含層	滑石製石鍋片	厚さ19				口縁端部片。	小片		509
47-2		SX269 包含層	滑石製石鍋片	厚さ14				突帯部の再加工品。	小片		510
47-3		SX269 包含層東部	滑石製石鍋片	厚さ15				底部の再加工品。	小片		525



第48図 2区東部第2面・第3面平面図 (1/200)

SD261 出土土器 (第50図1、第23表) 土師器杯で、底部外面には糸切り痕後、板圧痕が付着する。

SP263 出土土器 (第50図2・3、第23表) 2はやや灰色を帯びるが、土師器碗か。3は土師器鉢と推測される。

SK270 出土土器 (第50図4～9、第23表) SX269 包含層に掘り込まれた土坑であり、本来、SX269に属するものが含まれる可能性も考えられる。4～6は土師器皿、7・8は瓦器碗である。9は多くない器形であるが、蓋と考えて図示した。口縁部内面に低い突出がある。

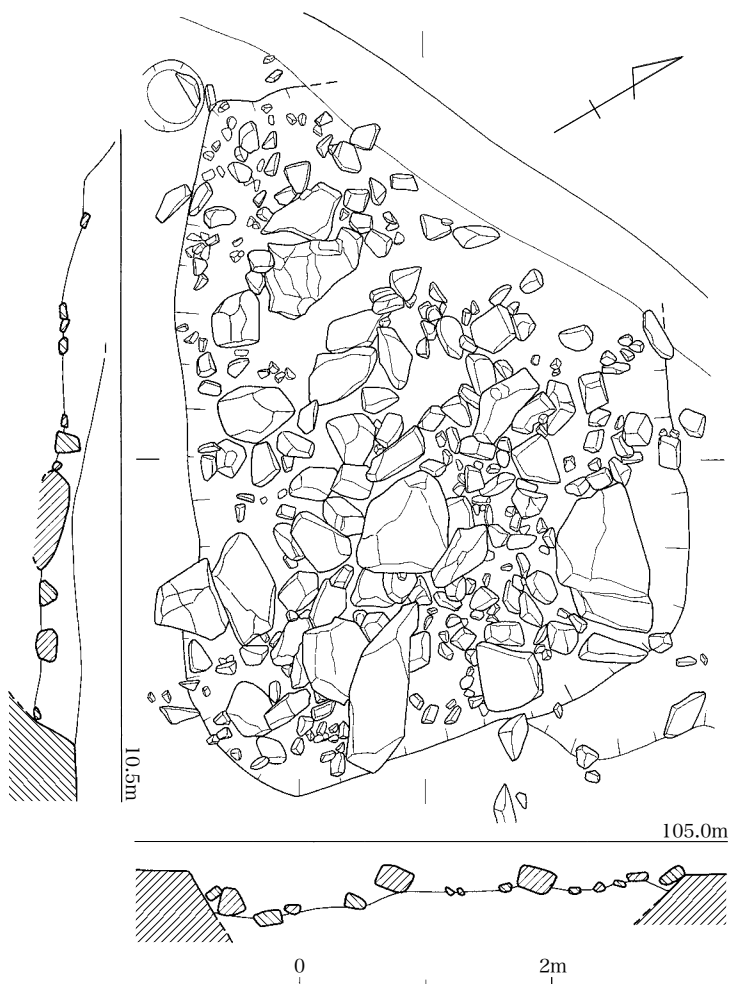
SP285 出土磁器 (第50図10、第23表) ピット北側の遺構面から出土した白磁皿である。

SK288 出土土器 (第50図11、第23表) 灰黄褐色を呈する土師器で、鉢状の器形をなすか。

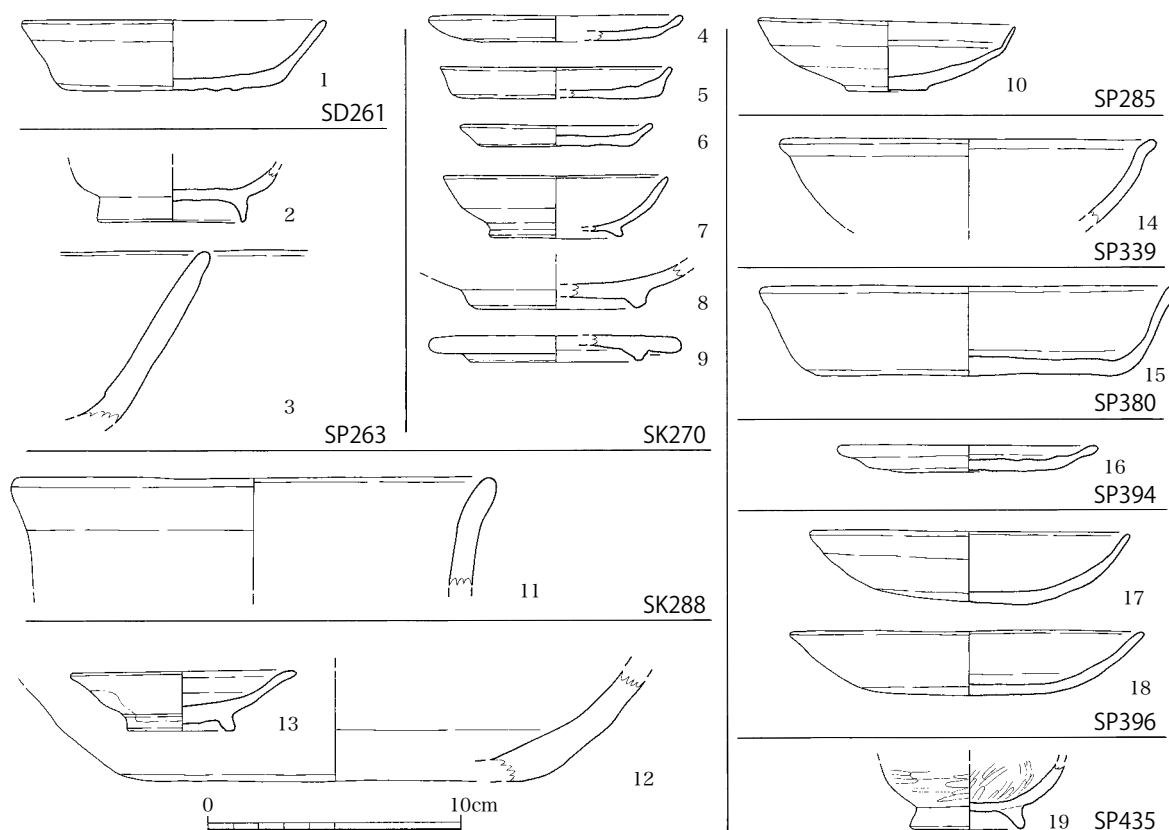
SP327 出土土器・磁器 (第50図

12・13、第23表) 12は粗製の土師器鉢で、底部内面にはコゲが付着する。13は青磁皿。

SP339 出土土器 (第50図14、第23表) 土師器杯で灰黄色を呈し、口縁部の外折が特徴的である。



第49図 SK424 実測図 (1/60)



第 50 図 2 区その他の遺構出土土器・陶磁器実測図（1 / 3）

SP380 出土土器（第 50 図 15、第 23 表） 土師器杯で、底部外面には糸切り痕を残す。

SP394 出土土器（第 50 図 16、第 23 表） 土師器皿である。

SP396 出土土器（第 50 図 17・18、第 23 表） 17・18 は、いずれも土師器鉢である。

SP435 出土土器（第 50 図 19、第 23 表） 2 区南拡張部のピットで、図示したのは瓦器碗底部片。

（7）板碑（図版 21、第 51 図）

2 区の北西、斜面裾に調査前から露出していた花崗岩製の板碑である。工事範囲にかかることから調査の上、取り上げることとなった。

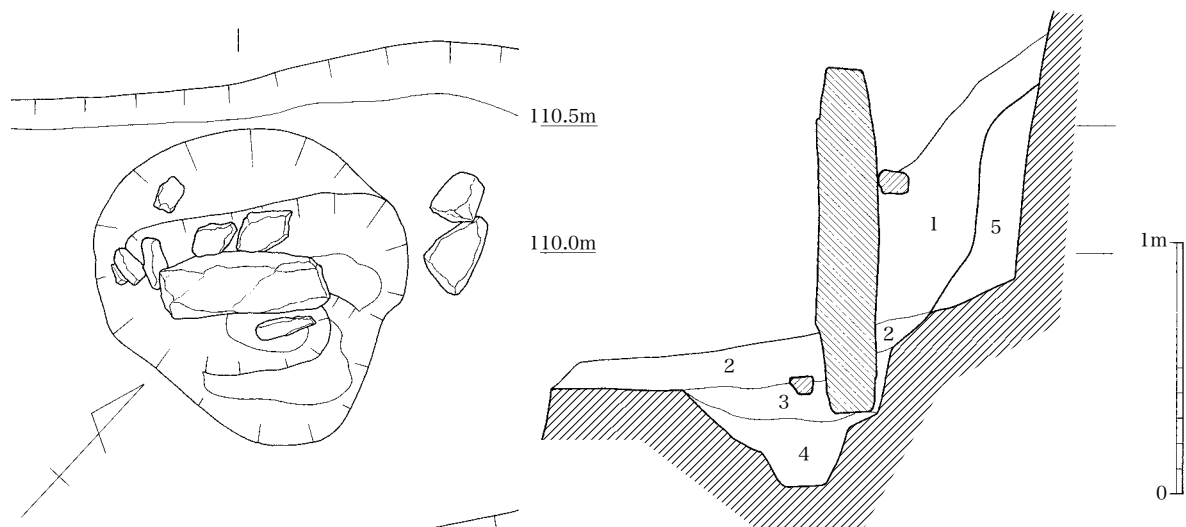
板碑は地表から高さ 1.0m 程露出していたが、下部は 0.35m 程、地中に埋め込まれていた。板碑本体は高さ 1.35m、幅 0.63m、厚さ 0.23m を測る。

中央やや上部に直径 0.4m 程の円形区画を線刻し、円内中央に梵字を太く深い線で記し、円内下部にやや細い線刻により蓮弁文を描く。梵字の下には 5 行 23 字の銘文を線刻する。

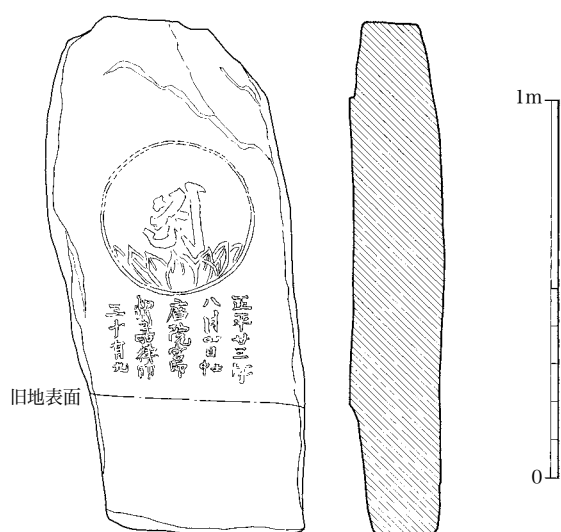
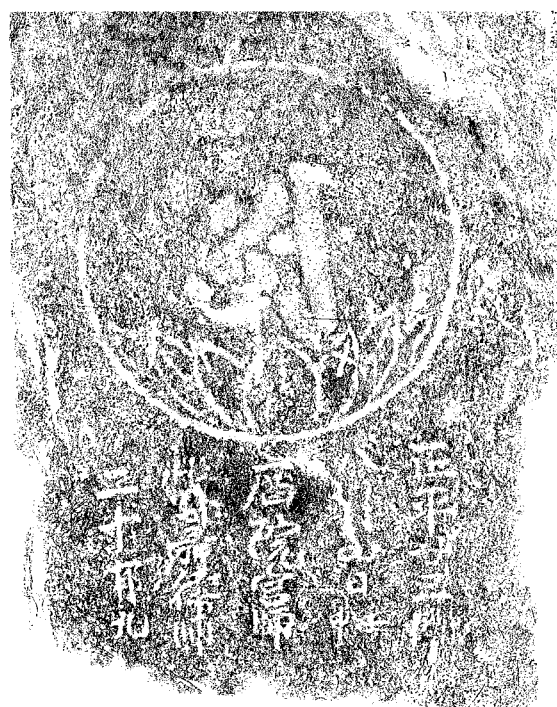
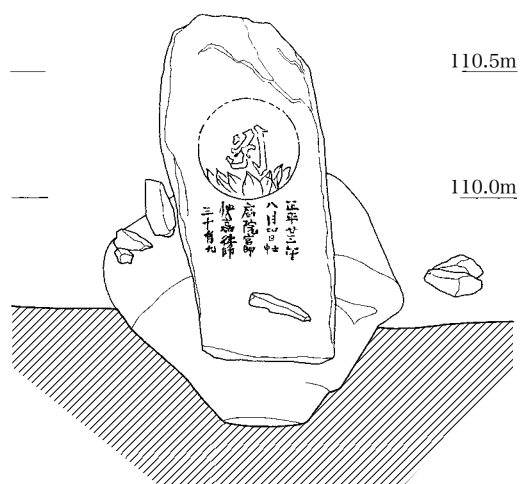
板碑は円形の掘方内に設置されており、掘方にはしまりのない 2.5 Y 5 / 2 暗灰黄色粗砂が堆積していた。出土遺物がなく断定できないが、他の中世の遺構とは差があり、中世に遡るという印象は受けなかった。本来あった場所から移動して建て直された可能性が高いと考えておきたい。

太宰府市教育委員会山村信榮氏に銘文の釈読、拓本の採取について御協力をいただいた結果、銘文は「正平廿三年 八月四日壬申 廟院宮師 快嘉律師 三十有九」と読める。

2 区の出土遺物には正平 23 年（南朝年号、1368 年）前後の 14 世紀にまで下るようなものはほとんど含まれない。上述したように 1 号建物の創建時期は 11 世紀後半にまで遡り、SX269 包含層は 12 世紀を中心とするものと考えられる。したがって、この板碑と 2 区の遺構の中心時期には、懸



- 1, 10YR3/2 黒褐色粗砂(表土) 4, 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂
 2, 25Y4/1 黄灰色シルト(表土) (3よりやや暗い)
 3, 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂(軟い) 5, 2.5Y6/3 にぶい黄褐色粗砂(地山)



0 40cm

正平廿三年
 八月四日
 申壬
 廟院宮師
 快嘉律師
 三十有九

第 51 図 「正平廿三年」 銘梵字板碑実測図 (設置状況 1 / 30、板碑 1 / 20、拓本 1 / 8)

隔があるものと言える。仮に板碑が建替えによる移動前から2区周辺に設置されていたとすれば、1・2号建物が廃絶した後も、水瓶山への信仰は連続し、その意識のもと、この場所が板碑樹立に際して選地されたということになろう。

第4節 鉄器・石器・縄文土器

第52図、図版24の2は鉄器である。1は鉄鏃、2・11は鉄小刀、13は棒状鉄器を折り曲げ環を作り出すもの、17は鉄刀子、15・21は刃部のない不明鉄片である。その他は鉄釘であり、いずれも11～13世紀を中心とする中世の遺物と考えられる。

このうち2～5はST97から出土したもので、2は土師器・磁器とともに出土した副葬品である。3～5は木棺の結合に用いた釘であるが、全長41mm、幅4mmと細く、木質の遺存から考えて、2・3は厚さ17mmの板に打ち付けられていたと推測される。この他、調査区各所から鉄釘が出土しているが、第52図には出土遺構が明らかで、なおかつ遺存状況の良好なものを掲載している。釘は9が頭部を太くするが、他は頭部を折り曲げて、打ち込むものであり、大形(12・18など)、中形(16・19など)、小形(3～5、8など)の3種に大きく分かれる。

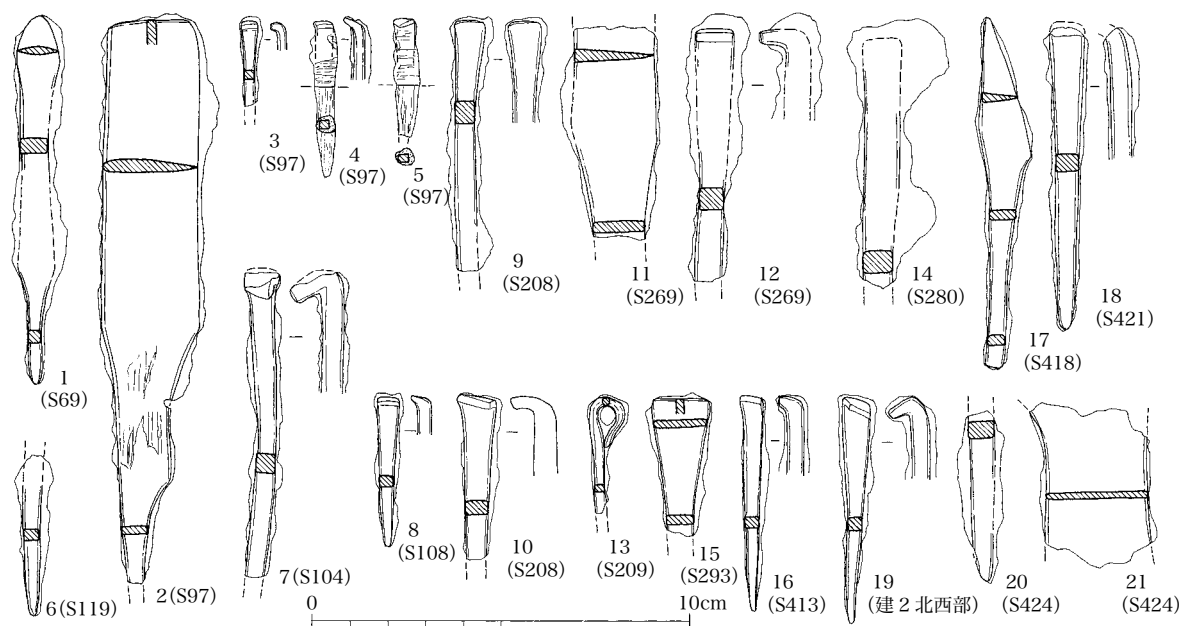
第53図、図版24の3・4には石器、石製品、縄文土器を示した。

1～5は黒耀石打製石器で、1は石鏃、2は石鏃未製品である。3は下縁を使用したスクレーパー、4・5は側縁に使用痕の見られる剥片である。6は凝灰岩質の弥生時代石剣か。7は石鍋の転用品。8・9は2区から出土した縄式縄文土器である。

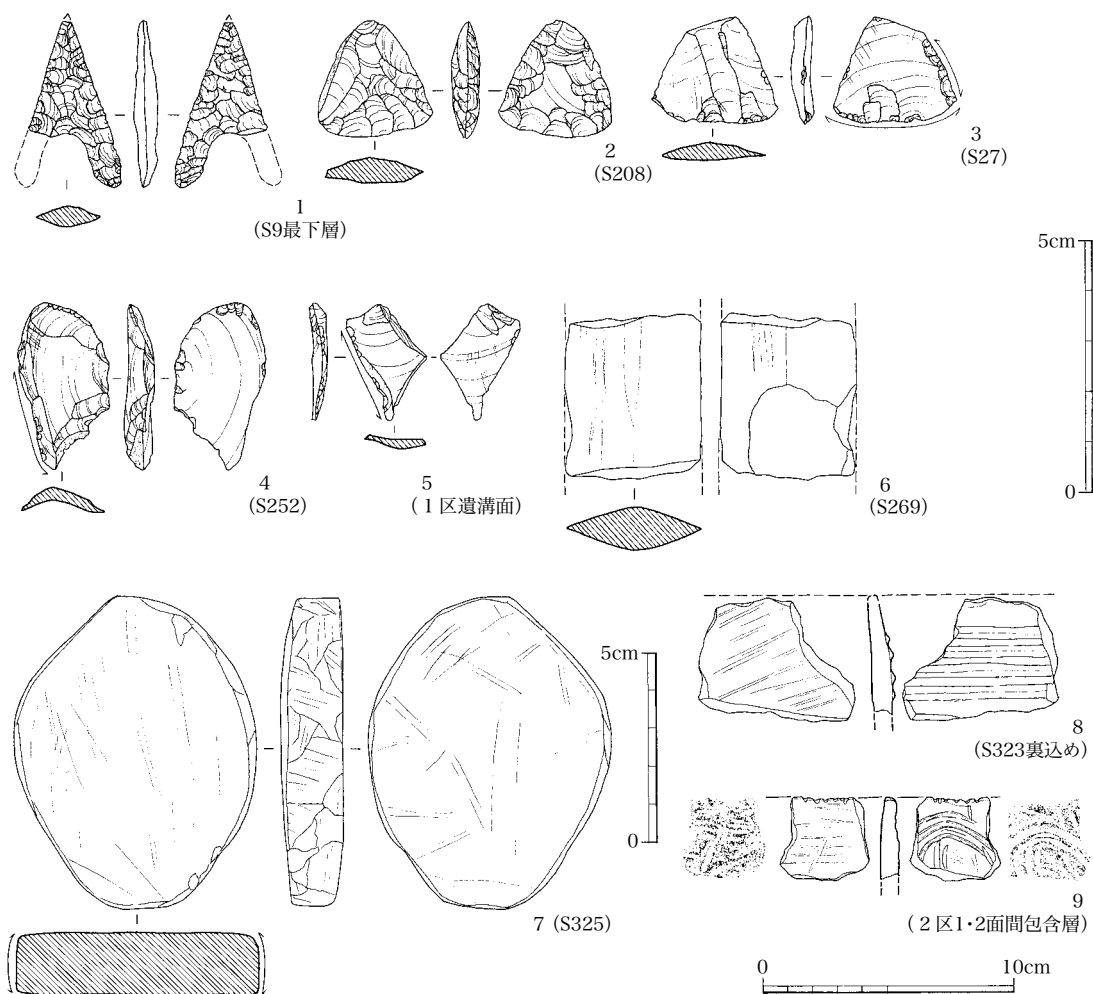
第23表 2区その他の遺構出土土器・陶磁器観察表

挿図 番号	図版 番号	出土 遺構等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
50-1	24	SD261	土師器杯	口径116、器高28、底径88	細砂粒少し含む	良好	暗褐色	底部糸切り後板圧痕残す。	4/5		472
50-2		SP263	土師器碗	高台径56、残高22、高台高10	精良であるが、雲母少し含む	良好、内面一部黒変	灰黄褐色	内外摩擦顕著。	1/2		522
50-3		SP263	土師器鉢	残高67	1～5mm大細砂多く含む	良好	外暗黄褐色、内灰黄褐色	内外摩擦顕著。	小片		477
50-4		SK270	土師器皿	口径98、器高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少量含む	良好	黄橙色	内外摩擦顕著。	1/4		537
50-5		SK270	土師器皿	口径88、器高13	細砂粒、雲母、赤褐色粒少量含む	良好	淡褐色	内外ナデ仕上げ。	1/2		538
50-6		SK270	土師器皿	口径74、器高8	細砂粒、雲母、赤褐色粒少量含む	良好	黄褐色	底部外面板圧痕を残す。	1/2		539
50-7		SK270	瓦器碗	口径96、器高24、高台径50、高台高5	細砂粒、赤褐色粒少し含む	良好	灰黄色	内外摩擦顕著。	1/4		535
50-8		SK270	瓦器碗	高台径70、残高17、高台高7	細砂粒、雲母、赤褐色粒少量含む	良好	灰黄色	内外摩擦顕著。	1/2		536
50-9		SK270	土師器蓋?	口径98、かえり径66、器高10	細砂粒、雲母、赤褐色粒少量含む	良好	黄橙色	内外ナデ仕上げ。	1/4		534
50-10	24	SP285北遺構面	白磁皿	口径102、器高29、底径32	精良	良好	生地灰黄色、釉黄灰色	体部外面下部～底部外面露胎。口縁部屈曲。	1/4		541
50-11		SK288	土師器鉢	口径108、残高44	2～5mm砂粒、赤褐色粒、雲母少し	良好	灰黄色	外面ナデ、内面摩擦顕著のため調整不明。	1/8		542
50-12		SP327	土師器鉢底部	残高44、底径148	1～2mm砂粒、赤褐色粒、雲母多い	良好	内面暗褐色、外面黒色～暗褐色	内外ナデ仕上げ、外面煤が付着。	1/7		561
50-13		SP327	青磁皿	口径86、器高24、高台径40、高台高7	精良	良好	生地白灰色、釉緑灰白色	外面高台よりやや上～高台露胎、底部外面施釉、内面施釉であるが目砂痕残す。	2/3		560
50-14		SP339	土師器鉢	口径146、残高36	細砂粒、雲母、赤褐色粒少量含む	良好	灰黄色	内外摩擦で調整不明、外面煤付着。口縁部の屈折特徴的。	1/4		570
50-15		SP380	土師器杯	口径162、器高35、底径120	細砂粒、雲母、赤褐色粒少量含む	良好	灰黄褐色～灰色	底部外面糸切り痕後板圧痕を残す。口縁外面～内面摩擦顕著。大きな平底が特徴。	1/6		565
50-16		SP394	土師器皿	口径152、器高10	2～5mm砂、赤褐色粒、雲母少し含む	良好	灰黄褐色	底部外面摩擦顕著、口縁外面～内面ナデ仕上げ。	1/3		566
50-17	24	SP396	土師器杯	口径126、器高29	1～2mm大砂粒、少し含む	良好	灰褐色	底部外面板圧痕を残す。	1/2		569
50-18		SP396	土師器杯	口径138、器高25	2～5mm大砂、赤褐色粒、雲母少し	良好	灰黄褐色	内外摩擦顕著。	1/5		567
50-19		SP435	瓦器碗	高台径44、高台高9、残高25	精良であるが、雲母少し含む	良好	白黄褐色	体部内外ミガキ、高台内外ナデ仕上げ。	高台全周		707

このうち8・9は2区の黄褐色土から出土しており、その形成が縄文前期に近いことを示す。1～2区から出土した黒耀石打製石器もこれら縄文時代に属するものであろう。



第52図 鉄器実測図 (1/2)



第53図 石器・縄文土器実測図 (7は1/2、8・9は1/3、他は2/3)

第4章 おわりに

今回の調査で、特筆されるのは2区において礎石立の1号・2号建物跡を検出したことであろう。2号建物は1号建物の北側の基壇列石の上に盛土して整地し、建築されているために1号建物、2号建物の順であることは確実である。

建物の年代を示す資料としては、2号建物の整地盛土下層より検出されたSU418 遺物集中部の土器が最も重要である。これらの土器は一括性も高く、11世紀後半に比定することができる。1号建物跡に伴う基壇の列石は、SU418の位置する西側のみ失われている。これは2号建物の築造に先立ち、除去されたと考えられ、SU418は1号建物廃絶後、2号建物の建築前の、極めて短期間に形成された可能性が高い。したがって、1号建物跡は11世紀後半まで存続し、それに引き続いて2号建物が築造されたと考えられる。

1号建物基壇の北西隅を意識して埋納されたSS251 西端ピット出土黄褐釉陶器壺も1号建物の存続期間内のものである。黄褐釉陶器壺については、時期はもちろんのこと製作地についても、意見が分かれるところであろう。上述したように、報告では、11世紀代に中国南方で製作されたとする立場をとった。すると、SU418 出土土器とも合致してくる。したがって、1号建物は11世紀中頃には築造されていたと考えておきたい。

一方、2号建物の下限、存続時間幅を示す資料は少ない。ただ、2号建物の礎石周辺からの出土土器は13世紀に下るものはないと考えられる。したがって、2号建物跡の存続時期の下限を12世紀と比定しておくことにしたい。

1号建物と2号建物はほぼ同位置に、建替えという形で建築されたと考えられるが、両者の建物には大きな違いもある。ひとつは規模の違いであり、1号建物が3×3間であるのに対して、2号建物になると拡張して4×4間になる。これは、寺院の繁栄等により、規模を拡大して荘厳化が図られたためと解釈しておきたい。

次に、同一地点の建替えの関係にありながら、主軸方位にずれがあることも注目される。2号建物は主軸を北からやや西に振っているのに対して、1号建物はほぼ正南北を向く。大宰府関係の古代官衙建物は正南北方向に主軸を向けることが多いので、1号建物は古代的な造営規制が残存している時期に築造されたと考えておきたい。2号建物は建替えに際して、周辺の地形・等高線と主軸を合わせたものであろう。

これらの建物は、大宰府に関係する経塚埋納の対象となった水瓶山から稜線を降りてきて、最初の平坦地に位置している。1号建物の築造された11世紀は経塚埋納の最盛期にあたり、1号建物はまさに水瓶山の入口を意識して築造された経塚埋納に係わる建物と考えられるであろう。原山無量寺の古図には本建物は記録されていないが、寺の造営・拡張の経緯を考えると、重要な位置を占めるものと評価される。

また、2区には「正平廿三年（1368）」銘梵字板碑も樹立されていた。現在の位置は、建立当初の位置から建替えられたものと推測されたが、大きく位置を移動していないと推測される。2区は全体として12世紀の遺構が中心であり、板碑の年代まで下る確実な遺構は存在しない。水瓶山での経塚埋納は衰退し、かわって雨乞い祈願の対象となっていたと推定されるが、14世紀においても2区の地点が水瓶山に接した特殊な場所として、意識され、板碑が建立されたと考えられよう。銘文からは、板碑は「廟院宮師 快嘉律師」なる人物が「三十有九」歳の時に建立したことがわか

る。「廟院宮師 快嘉律師」は同一人物であり、原山無量寺に関係すると推測され、原山無量寺での宗教活動を物語る貴重な文字資料と言える。

一方、1区では、明確な建物遺構が見つからなかったが、石垣や整地に伴って石を投棄する土坑等が検出された。したがって、削平等により失われたが、寺域として建物が築造されていたことはほぼ間違いない。整地に係わる遺構等の出土遺物から判断すれば、12世紀を中心とするものと考えられ、2区よりやや新しい時期に中心がある。

原山無量寺、原遺跡は、江戸時代以来農地として利用され、近年は宅地化が進んでいる。寺院の建物跡があったとしても、削平等により失われたりして、把握することが困難と予想されるが、石垣や平坦地の造成に伴う遺構に注目すれば、寺域の範囲、その時間的変遷も調査の蓄積によって、次第に復元できるのではないかと考えられる。

今回の調査で縄文時代早期の轟式土器が出土したことも特筆される。良好な包含層を捉えられなかったため断片的な遺物にとどまるが、これらの縄文土器は本来、2区の黄褐色土の中に含まれていた可能性が高い。同様の土壌は1区の最高所の狭い平坦面でも一部確認することができた。したがって、中世寺院の造成による地形の改変が著しいものの、原遺跡の中では場所によっては良好な状態で縄文時代の遺構が残されていることを期待しても良いであろう。

今回の調査は、砂防ダム建設に先立つ時間的に限られたものであり、報告書も短時間で作成せざるを得なかった。また、筆者の不勉強のため、調査成果を十分に咀嚼した上での報告書となっていないことも認めざるを得ない。多くの不備があると思われるので、御批判をいただければ幸いである。

今後も原遺跡、原山無量寺については太宰府市教育委員会において、報告書の作成が予定されている。今回の調査成果についても、調査の進展を見て、機会があれば再度、検討してみたい。



板碑採拓状況（1）

第24表 1区遺構一覧表(1)

遺構 記号	遺構 番号	遺構種別	1/20図区画	埋土等	出土遺物	図版	挿図	説明・留意事項等	備考
SK	1	土坑	J 8	灰褐色粗砂	青磁皿底、近世陶磁器			輪郭やや不明瞭	
SK	2	土坑	J 8	黒褐色粗砂	土師器皿、土師器杯小片			小形の土坑、木の根跡かも	
SK	3	土坑	J 8	灰褐色粗砂	中世土師器小片	8	11	整った長楕円形の土坑。浅い。	
SP	4	ビット	J 8	暗褐色粗砂	中世土師器極小片			浅い、不整形のくぼみ状	
SP	5	ビット	J 8	暗褐色粗砂に黄褐色地山ブロック含む	中世土師器極小片			浅い、底の凹凸著しい。	
SP	6	ビット	J 8	暗褐色粗砂、炭やや多く混	中世土師器極小片			小ビット。	
SK	7	土坑	J 8・K 8	褐灰色細砂、5cm大礫多く混	白磁口縁小片、青磁底部			小形の長楕円形。輪郭はやや不明瞭であった。	
欠番	8								
SX	9	包含層	J 7・K 7	土層図あり	土師器小片多		20	「1区東部北斜面包含層」として遺物を取り上げたもの、この遺構に含まれる。	
SK	10	土坑	J 9	褐灰色砂、粘質土ブロック、炭混、下部は暗褐色粘質土	近世土器出土			上面では輪郭が不明瞭であったが、掘り下げるとしっかりした土坑となる。	
SP	11	ビット	J 9・J 10	暗灰褐色細砂				全体的に浅いが東側のみビット状に深くなるので小さな穴の輪郭を誤認したおそれもあり。	
SK	12	土坑	J 10	灰褐色砂				浅く輪郭はやや不安。南部がビット状に深くなる	
欠番	13								
SW	14	石垣	J 10・J 11・K 10・K 11	土層図参照	中世土師器・陶磁器、瓦等	4・5	5	石垣を覆う表土には近世陶磁器あり。石垣を多く表土層も「S14上面」として取り上げ	
SP	15	ビット	J 10	暗褐色粗砂、粘性を含み炭少し混				しっかりした深いビット	
SP	16	ビット	J 9	褐色粗砂				木の根の攪乱か?	
SP	17	ビット	J 9	褐色粘質砂	中世土師器極小片				
SP	18	ビット	J 9	褐色粘質土	中世土師器極小片				
SK	19	土坑	K 9	上部褐灰色粘質土、下部粘性のある灰褐色砂で炭少し混	中世土師器、近世陶磁器			近世の土坑	
SK	20	土坑	J 10・K 10	褐灰色粘土、砂礫多く混	中世土師器、中世磁器やや多い			溝SD27に切られるように図示するが、北東側のビットの輪郭を広くとらえた可能性が高い	
SP	21	ビット	J 9・K 9	褐色粘質土	中世土師器極小片			浅い、はっきりとしないビット、上面はSP22と一連となる	
SP	22	ビット	J 9・K 9	褐色粘質土	中世土師器極小片			浅い、はっきりとしないビット	
SP	23	ビット	K 9	褐灰色粘質土				浅い、はっきりとしないビット	
SP	24	ビット	K 9	褐灰色粘質土				浅い、はっきりとしないビット	
SP	25	ビット	K 9	褐灰色粘質土、炭少し混				深いビット	
SP	26	ビット	K 9	暗褐色粘質土				浅い	
SD	27	溝	J 10・K 10	土層図参照			17	北にSK10、南にSW14の裏込め包含層があるため、輪郭は不安	
SP	28	ビット	K 10	土層図参照	中世土師器極小片			掘方は方形で整う。柱痕あり。	
SK	29	土坑	I 7	土層図参照	出土遺物なし	8	11	浅い、焼土を埋土に含む。	
SP	30	ビット	I 7	黒褐色粘質土、炭多く混				浅く、はっきりしないビット	
欠番	31							番号付したが攪乱のため欠番とする	
SP	32	ビット	I 7	灰褐色細砂、やや粘性有り				浅く、はっきりしないビット	
SD	33	溝	K 10	暗褐色砂、やや粘性有り	白磁口縁小片、中世土師器極小片			浅い不整形な溝状。床面でSP75を検出。	
SK	34	土坑	K 10	暗褐色砂、やや粘性有り	中世陶磁器、土師器小片			浅い落ち込み状で、出土遺物も少ない	
SP	35	ビット	K 10	暗褐色細砂、やや粘性有り	中世土師器極小片			小さいビット。	
SP	36	ビット	K 8	灰褐色細砂、炭多く混	中世土師器極小片			長楕円形のビット。SX77を切る。	
SP	37	ビット	K 8・K 9	灰褐色細砂	中世土師器極小片			小ビット。SX76・SX77を切る。	
SP	38	ビット	K 9	灰褐色粗砂				小ビット。	
SP	39	ビット	K 10	暗褐色細砂	中世土師器極小片			小ビット。	
SP	40	ビット	K 10	暗褐色細砂	中世土師器極小片			小ビット。	
SP	41	ビット	K 10	暗褐色細砂、やや粘性、炭少し混	上面で中世土師器皿			小ビット。	
SP	42	ビット	K 9・K 10	暗灰褐色土				小ビット	
SP	43	ビット	K 9・K 10	灰褐色細砂	中世土師器極小片			SK62を切る考えて掘り下げたが、浅く、はっきりしないビット	
SP	44	ビット	K 10	暗褐色細砂、やや粘性、炭少し混	中世土師器極小片			小ビット。	
SP	45	ビット	K 9	灰褐色細砂、やや粘性有り	中世土師器極小片			小ビット。	
欠番	46							番号付したが浅いくぼみで記録せず	
SK	47	土坑	K 9	土層図参照	中世土師器・陶磁器小片	8	11	大形で浅い楕円形土坑で、SD53を切る。	
SP	48	ビット	K 9	灰褐色細砂、やや粘性	中世土師器極小片			小ビット。	
SP	49	ビット	K 10	暗褐色粘土				小ビット。	
SP	50	ビット	K 9	褐灰色細砂、やや粘性。				浅く、掘るとすぐに基盤土に含まれる岩が露出。	
SP	51	ビット	K 9・K 10	褐色粘質土				小ビット。	
SP	52	ビット	K 9	暗灰褐色粗砂				小ビット。SP49を切るとしたが、確証は得られていない。	
SD	53	溝	K 9	7.5YR4/3褐色粘質土	中世土師器極小片		17	細長い溝で、SK47に切られる。	
SP	54	ビット	K 9	10YR4/1褐灰色粘質土	中世土師器極小片			調査区外へと続き完掘していないが、平面隅丸方形と推測される。	

第25表 1区遺構一覧表(2)

遺構 記号	遺構 番号	遺構種別	1/20図区画	埋土等	出土遺物	図版	挿図	説明・留意事項等	備考
SP	55	ビット	K 9	10YR5/1褐色粘質土	中世土師器極小片			不整形の小ビット。	
SP	56	ビット	K 9	10YR3/2黒褐色粗砂に斑状に7.5YR4/3褐色粗砂混				楕円形の浅いビット。	
SP	57	ビット	K 9	10YR3/2黒褐色粗砂に斑状に7.5YR4/3褐色粗砂混	中世土師器極小片			小ビット。	
SP	58	ビット	K 9	10YR3/2黒褐色粗砂に斑状に7.5YR4/3褐色粗砂混	中世土師器極小片			小ビット。	
SP	59	ビット	K 9	10YR3/2黒褐色粗砂に斑状に7.5YR4/3褐色粗砂混	中世土師器極小片			小ビット。	
SK	60	土坑	K 9	土層図参照	中世土師器極小片	8	11	大形で浅い楕円形土坑。	
SK	61	ビット	K 9	(未記録)				楕円形の小ビット。	
SK	62	土坑	K 9	10YR4/2灰黄褐色粗砂	中世土師器小片			長楕円形の土坑。SK71を切ると考え掘り上げたが、確認は得られず。	
SW	63	石垣	I 9・I 10・J 9・J 10	土層図参照	前面を覆う表土等から中世土器・陶磁器等出土	5・6	5	SW14の西に位置する直立する石垣	
SX	64	包含層	I 7・I 8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	中世土器等、遺物は少ない			SK80・SK81上層の薄い包含層。	
SX	65	包含層	H 8・H 9	10YR5/3にぶい黄褐色砂、均質	中世土器等、遺物は少ない			SX66・SK77上面を覆う薄い包含層	
SX	66	包含層	G8・H8	土層図参照	中世土器等、遺物は少ない	10	20	斜面を造成し、平坦にした際の盛り土か。	
欠番	67							番号付したが浅いくぼみで記録せず	
SD	68	溝	K10	10YR4/1褐色粘土	中世土師器小片			屈曲した短く、浅い溝。SK68を切る。	
SK	69	土坑	K9・K10	上面10YR4/1褐色粗砂、SK69A7.5YR4/4褐色粘質土(炭・砂礫多)、SK69B7.5YR4/4褐色粘質土	中世土師器、瓦器碗底部等		12	北SK69B、南SK69Aに分かれる。北側では輪郭が不明瞭。	
SK	70	土坑	K9・K10	10YR4.1褐色粘土、斑状に7.5YR5/4にぶい褐色粘土混	中世土師器小片			浅く、SK62に切られると考えたが、輪郭不明瞭なため、前後関係やや不安。	
SK	71	土坑	K9	10YR4/2灰黄褐色粗砂	中世土師器小片			西側が深くなる	
SP	72	ビット	K9	2.5Y4/1黄灰色粗砂	近世陶磁器小片			SX76を切る。	
SP	73	ビット	K9	10YR4/1褐色粗砂	中世土師器小片			SX76を切る。	
SP	74	ビット	K9	10YR4/1褐色粗砂	中世土師器小片				
SP	75	ビット	K10	10YR3/1黒褐色粗砂、砂礫多				SD33溝床面の小ビット	
SX	76	包含層	K8・K9	土層図参照	中世土器	10	22	整地層状の堆積、包含層	
SK	77	土坑	H8・18	土層図参照	中世土器、土師皿多数	9	12	上面で土師皿を一括投棄、大きな石を投棄した土坑	
欠番	78							番号付したが、浅い凹みで記録せず	
SP	79	ビット	I8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	遺物無し			SX64下層のビット	
SK	80	土坑	I8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂、シルト含む、床面ビットはいずれも2.5Y4/2暗灰黄褐色粗砂	中世土師器杯等			SX64下層にある浅い土坑状の凹み	
SK	81	土坑	I8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				SX64の下層にある浅い土坑状の凹み	
欠番	82							番号付したが浅いくぼみで記録せず	
SK	83	土坑	H8	2.5Y5/2暗灰黄色粗砂、炭少し混。しまりあり	白磁口縁部小片				
SK	84	土坑	H8・18	2.5Y5/2暗灰黄色粗砂	土師器小片				
SD	85	溝	H8・H9	2.5Y4/2暗灰黄褐色粘質土、炭混				SX66包含層下部の一部を、本遺構して番号を付した。	SX66とあわせて説明
SP	86	ビット	I8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	中世土師器小片				
SK	87	土坑	I8	10YR4/2灰黄褐色粗砂	中世土師器小片				
SK	88	土坑	I8	10YR4/2灰黄褐色粘質土、地山ブロック多	中世土師器小片			浅い土坑。	
SK	89	土坑	I8	2.5Y4/2暗灰黄褐色粗砂	遺物少ない				
SP	90	ビット	I8	10YR4/2灰黄褐色粗砂				SK87床面で検出されたビット	
SP	91	ビット	I8	10YR4/1褐色粗砂					
SP	92	ビット	I8	10YR4/2灰黄褐色砂	遺物無し				
SP	93	ビット	H8	10YR4/2灰黄褐色粗砂、礫多					
SP	94	ビット	H8	10YR4/2灰黄褐色砂					
SD	95	溝	H8	土層図参照			20	SX66の東に位置する溝。	SX66とあわせて説明
SD	96	溝	H8	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土師器多		20	SX66包含層下層の溝、包含層との関係は土層図参照	
ST	97	墓		2.5YR4/2暗灰黄色粘土、炭多く混	磁器・土師皿一括して出土	11	25	SX66の底面近くで輪郭を検出したが、SX66を掘り込んでいた可能性が高い。	磁器・土師皿・鉄釘が一括して出土(「S66最下層」として取り上げ
SP	98	ビット	H8	10YR4/2灰黄褐色粗砂、やや粘性、炭及び10YR5/6にぶい黄褐色砂塊混					
SP	99	ビット	H8	2.5Y4/2暗灰黄色粗砂					
SP	100	ビット	I8	10YR5/3にぶい黄褐色砂				SK80の西	
SP	101	ビット	H8	7.5YR4/2灰褐色粘土、炭・粗砂多					
SP	102	ビット	H8	浅い、埋土記録前に掘り上げ					
SP	103	ビット	H8	10YR4/1褐色粘土、炭わずかに混					
SP	104	ビット	H8	10YR4/1褐色砂、炭・土器小片少し混					
SP	105	ビット	H8	2.5Y5/1黄灰色砂、炭少し混					
SP	106	ビット	H8	2.5Y5/2暗灰黄色粗砂				楕円形のやや大きなビット	
SD	107	溝	H9・19	土層図参照			19	1区北西部平坦面の段に沿った溝	出土遺物は少ない
SX	108	整地層	I9	土層図参照		10	22	石垣SW63の裏込めに続く包含層	
SP	109	ビット	H8	10YR4/4褐色粗砂					
SP	110	ビット	I9	10YR4/2灰黄褐色砂、やや粘性				浅い	
SK	111	土坑?	I8・19	10YR5/2灰黄褐色粗砂				埋土・周辺の地山と区別できず、輪郭不明瞭	
SP	112	ビット	I9	浅い、埋土記録前に掘り上げ				浅い	
SP	113	ビット	H9	10YR5/2灰黄褐色粗砂					

第26表 1区遺構一覧表(3)

遺構 記号	遺構 番号	遺構種別	1／20図区画	埋土等	出土遺物	図版	挿図	説明・留意事項等	備考
SP	114	ビット	H9	10YR5/2灰黄褐色粗砂				輪郭不明瞭であるが、楕円形、西側に石。	
SP	115	ビット	H9	10YR5/2灰黄褐色粗砂、やや粘性				輪郭不明瞭。	
SP	116	ビット	H9	10YR4/2灰黄褐色砂、炭混	土師器皿片出土				
SP	117	ビット	H9	10YR3/2黒褐色粗砂	同安楽青磁碗片・土師皿・土師器杯			土器等が一括して出土	
欠番	118							浅い、記録せず	
SX	119	整地層	H9・I9	土層図参照				斜面を埋めた整地土	
SX	120	包含層	J11・K11	10YR3/2黒褐色粗砂				SW14裾の包含層	
SX	121	整地層	J12・K12	土層図参照		10	22	1区南東部の整地層	
SW	122	石垣	I11・I12・J11・J12	土層図参照		6・7	8	1区南東部、南西部間の石垣	
SP	123	ビット	I12	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SK	124	土坑	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土器少し			浅い	
SK	125	土坑	I12	2.5Y5/3黄褐色粗砂					
SK	126	土坑	I11・I12	土層図参照	白磁・土師皿等	9	14	深い、大形で石を投棄した土坑	
SP	127	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	128	ビット	I12	10YR3/3暗褐色粗砂					
SP	129	ビット	I12	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	130	ビット	I12	2.5Y5/2暗灰黄色粗砂				浅い、中世土器少し	
SP	131	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂				浅い、中世土器少し	
SP	132	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色砂、やや粘性					
SP	133	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色砂、やや粘性				中世土器少し	
SP	134	ビット	I12	10YR3/3暗褐色粗砂、やや粘性				遺物無し	
SP	135	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	136	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	137	ビット	I12	10YR5/3にぶい黄褐色粘土、炭少し混					
SP	138	ビット	I12	7.5YR4/3褐色粘土					
SP	139	ビット	I12	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SP	140	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	141	ビット	I12	10YR3/3暗褐色粗砂					
SP	142	ビット	I12	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				浅い	
攪乱	143				近世～近代瓦出土				
SD	144	溝	I12	10YR4/2灰黄褐色粗砂、締まる					
SP	145	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	146	ビット	I12	10YR3/3暗褐色粗砂				やや大形のビット	
SP	147	ビット	I12	10YR3/3暗褐色粗砂、炭・焼土少し混				楕円形、途中で段有り	
SP	148	ビット	I12	10YR4/1褐色粗砂					
欠番	149							浅い凹み、記録せず	
SP	150	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	151	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂	土師皿2点				
SP	152	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色砂、7.5YR褐色粘土塊・焼土混					
SP	153	ビット	H12	10YR6/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	154	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	155	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂	土師器小片				
SP	156	ビット	H12	10YR5/1褐色砂、炭混					
SP	157	ビット	H12	10YR6/2灰黄褐色砂、やや粘質					
SP	158	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色砂				焼土塊混	
SP	159	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色砂、炭少し混	土師器小片				
SP	160	ビット	I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土器少ない				
SP	161	ビット	I11	10YR4/2灰黄褐色粗砂、炭少し混					
SK	162	土坑	I11・I12	上層10YR5/2灰黄褐色粗砂、下層10YR6/3にぶい黄褐色粗砂、やや粘性	中世陶磁器少量			楕円形、埋土中には石を多く含む	
SK	163	土坑	H11・I11	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土器少し			円形	
SP	164	ビット	H12	10YR6/2灰黄褐色粗砂					
SP	165	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色粗砂				楕円形、途中で段有り	
SD	166	溝	H12	10YR5/1褐色粗砂、やや粘土含む				溝SD169の続き	
SP	167	ビット	H12	10YR6/2灰黄褐色砂				溝SD169の続き	
SD	168	溝	H12	10YR4/1褐色粗砂			19	溝SD169の続き	
SD	169	溝	H11・H12	10YR5/1褐色粗砂			19		
SD	170	溝	H11・H12	10YR4/1褐色粗砂			19	細長い溝、溝SD169と関係か	
SP	171	ビット	H12・I12	10YR4/1褐色粗砂				埋土中には炭、鉄分少し混	
SP	172	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色砂					
SP	173	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土器				
SP	174	ビット	H12	10YR4/1褐色粗砂				浅いビット	
SP	175	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色粗砂				溝SD170の続き	
SP	176	ビット	H12	10YR4/1褐色粗砂					
SP	177	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	178	ビット	H12	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	179	ビット	H12	10YR4/2灰黄褐色砂、やや粘性				埋土には炭少し混、土師器皿等出土	
SP	180	ビット	H11	10YR5/2灰黄褐色砂				土師器ややまとまって出土	
SP	181	ビット	H11	10YR5/3にぶい黄褐色砂				白磁底部出土	
SP	182	ビット	H11	10YR3/2黒褐色粗砂					
SK	183	土坑	H11	10YR3/1黒褐色粗砂				やや土器多い	
SK	184	土坑	H11	10YR5/3にぶい黄褐色砂				土器少ない	
SK	185	土坑	I12	10YR4/1褐色粗砂				土器少ない	
SK	186	土坑	I11・I12	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土器		14	埋土には人頭大の礫多。	
攪乱	187		I12					攪乱、近世以降	
SK	188	土坑	H12	10YR4/2灰黄褐色粗砂、礫多。	中世土器少				
SD	189	溝	J12	10YR4/1褐色粗砂	中世土器小片のみ			南北に長い溝状。	
SP	190	ビット	J12・K12	10YR4/2灰黄褐色粘土					

第27表 1区遺構一覧表（4）

遺構 記号	遺構 番号	遺構種別	1／20図区画	埋土等	出土遺物	図版	挿図	説明・留意事項等	備考
SP	191	ビット	J12	10YR4/1褐灰色粘土	中世土師器杯				
SP	192	ビット	K11	10YR4/2灰黄褐色砂、炭少し混					
SP	193	ビット		記録せず				浅く、埋土記録せず	
SK	194	土坑	I11	土層図参照、浅い	中世土師器2箱		9	14	焼土、中世土器多。
SK	195	土坑	I11	10YR4/1褐灰色粗砂	中世土師器、近世染付				埋土には拳～人頭大の礫多。
SK	196	土坑	I10・I11	記録せず					浅い凹み、整地層？
SK	197	土坑	I11	10YR5/2灰黄褐色粗砂	白磁碗底部				埋土には拳大の角礫多。
SK	198A	土坑	I11	10YR4/2灰黄褐色粗砂					上面では198Bと一体。人頭大の角礫多。
SK	198B	土坑	I11	10YR4/2灰黄褐色粗砂					人頭大の角礫多。
SK	199	土坑	H11	10YR6/2灰黄褐色粗砂、斑状に10YR4/2灰黄褐色粘土混	土師器杯他			14	
SP	200	ビット	H11	10YR5/2灰黄褐色粗砂、締まる	中世土師器少				
SP	201	ビット	H11	上層2.5Y5/3黄褐色粗砂、下層10YR3/2黒褐色粗砂やや粘性	中世土器少				
SP	202	ビット	H10	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土器少				
SP	203	ビット	I11	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	中世土器少				
SP	204	ビット	I11	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	中世土器少				
SP	205	ビット	I11	10YR4/2灰黄褐色砂	中世土器少				楕円形
SP	206								
SX	207	包含層	I10	10YR4/2灰黄褐色砂	中世土師器少				SK194北の遺構面を覆う厚さ10cm程の包含層
SW	208	石垣		裏込めは土層図参照			7	8	石垣裏の整地層も「S208裏込め」等の注記で取り上げ。整地層は下層から土師器、陶磁器の大形破片が多い。
SP	209	ビット	I11	2.5Y5/2暗灰黄色粗砂					浅いビット
SK	210	土坑	H11	10YR7/2にぶい黄橙色粗砂	中世土師器				東の深い部分は10YR4/1褐緋色粗砂で、土師器片多
SP	211	ビット	H11	10YR4/2灰黄褐色細砂	中世土師器小片のみ				
SP	212	ビット	H11	10YR4/2灰黄褐色砂					
SK	213A	土坑	H11	10YR4/1褐灰色粗砂	中世土師器小片				
SP	213B	ビット	H11	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SK	214	土坑	H11	10YR4/1褐灰色粗砂、炭多	中世土師器小片				
SK	215	土坑	H11	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SP	216	ビット	H11	10YR3/1黒褐色粗砂					
SK	217	土坑	H11	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SK	218	土坑	H10	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土師皿等				
SK	219	ビット	H10	10YR4/2灰黄褐色粗砂	中世土師器小片				
SP	220	ビット	H10	10YR3/1黒褐色粗砂					
SP	221	ビット	H10・H11	10YR3/1黒褐色粗砂					
SP	222	ビット	H10	10YR4/2灰黄褐色砂					
SP	223	ビット	H11	10YR3/1黒褐色粗砂	中世土師器小片少				
SD	224	溝	H10	10YR4/1褐灰色粗砂	中世土師器、瓦器皿			19	
SP	225	ビット	H10・H11	10YR5/1褐灰色砂					
SP	226	ビット	H10	10YR4/2灰黄褐色砂					
SP	227	ビット	H10	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SP	228	ビット	H10	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SK	229	土坑	H11	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					



板碑採拓状況（2）

第28表 2区遺構一覧表(1)

遺構 記号	遺構 番号	遺構種別	1/20図区画	埋土等	出土遺物	図版	挿図	説明・留意事項等	備考
SP	230	ビット	B9	10YR6/1褐灰色粗砂				ビット内に石	
SP	231	ビット	B9	10YR6/1褐灰色粗砂				ビット内に石	
SP	232	ビット	B9	10YR6/2灰黄褐色粗砂				ビット内に石	
SP	233	ビット	B9	10YR7/1灰白色粗砂	中世土師器・須恵器極小片			ビット内に石	
SP	234	ビット	B9	10YR6/1褐灰色粗砂				ビット内に石	
SP	235	ビット	B9	10YR6/1褐灰色粗砂				ビット内に石	
SP	236	ビット	B9	10YR6/2灰黄褐色粘質砂					
SP	237	ビット	B9・C9	10YR6/2灰黄褐色粗砂	鉄釘、中世土師器			根石あり、建物2柱穴	埋土は土層図参照
SP	238	ビット	C9	10YR6/3にぶい黄褐色粗砂				根石あり、建物2柱穴	埋土は土層図参照
SP	239	ビット	C9	10YR6/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	240	ビット	C9	10YR5/2灰黄褐色粗砂				建物1柱穴、根石あり	埋土は土層図参照
SP	241	ビット	C9	10YR6/3にぶい黄褐色粗砂	中世土師器小片			浅い、輪郭不安	
欠番	242								
SP	243	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂	中世土師器小片			楕円形、輪郭不安	
SP	244	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂	土師器皿3点(上面から出土)			建物1柱穴、根石あり	埋土は土層図参照
SP	245	ビット	C9	10YR6/3にぶい黄褐色粗砂	中世土師器小片、釘			楕円形、根石・柱痕等なし、建物1柱穴?	
SP	246	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				楕円形、根石・柱痕等なし、建物1柱穴?	
SP	247	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				小ビット、柱痕等なし、建物2柱穴?	
SP	248	ビット	C9	10YR5/2灰黄褐色粗砂				柱痕無し、小ビット	
SP	249	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	250	ビット	C9	10YR5/2灰黄褐色粗砂(掘方)、10YR5/4にぶい黄褐色粗砂				検出時は大きな楕円形ビット、柱痕あり	
SS	251	石列	C8・C9					建物1基壇列石	北の包含層を「S251北側包含層」として取り上げ
SS	252	石列	C9					東側包含層上層は10YR5/3にぶい黄褐色粗砂、下層は2.5Y6/4にぶい黄色粗砂。建物1基壇列石、南部は建物2建築時に改造	東の包含層を「S252東側包含層」として取り上げ
SX	253	包含層	C10	土層図参照	中世土師器、鉄釘等			建物1基壇南外の包含層	
欠番	254								S253の一部
欠番	255								S253の一部
SP	256	ビット	C9	10YR4/2灰黄褐色粗砂				根石あり、建物2柱穴	埋土は土層図参照
SP	257	ビット	B9	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				根石あり、建物2柱穴。輪郭不安、周辺の整地土との差が不明瞭	埋土は土層図参照
SP	258	ビット	B10	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				根石あり、建物2柱穴。輪郭不安、周辺の整地土との差が不明瞭	埋土は土層図参照
SP	259A	ビット	C9・C10	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				根石あり、建物2柱穴。	埋土は土層図参照
SP	259B	ビット	C10	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				根石有り、建物1柱穴。	埋土は土層図参照
SP	260	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				根石有り、建物2柱穴	埋土は土層図参照
SD	261	溝	B10	10YR5/2灰黄褐色粗砂	土師皿(関係)、瓦				溝状、整地層の一部かも
SP	262	ビット	C8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	263	ビット	C8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	264	ビット	C8	10YR3/3暗褐色粗砂				浅い、地山の変色した部分かも	
欠番	265							浅い凹みで、記録せず	
SP	266	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	267	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				根石有り、建物2柱穴。	埋土は土層図参照
SX	268	包含層	C8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				段状の造成部とその包含層	
SX	269	包含層	E8・E9・D8・D9	土層図参照	中世土師器・陶磁器多	20	45	2区南側の包含層	
SK	270	土坑	D9	灰色の粘質土	近世			SX269に掘りこまれた土坑。石を投棄。	
SP	271	ビット	C9	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				建物1柱穴?	
SP	272	ビット	D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂	中世土師器小片				
SP	273	ビット	D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SP	274	ビット	D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂	中世土師器小片				
SP	275	ビット	D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	276	ビット	D9	記録せず				攪乱?、浅く埋土確認前に掘り上げ	
SK	277	土坑	D8	10YR6/4にぶい黄褐色粗砂、10YR4/2灰黄褐色粗砂・炭混	ほとんど無い				
SP	278	ビット	D8	10YR2/1黒褐色粘土、炭多				上面では広くとらえず	
SP	279	ビット	D8	10YR5/2黒褐色粗砂、炭多	ほとんど無い				
SK	280	土坑	D7・D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂、炭多	ほとんど無い				
SP	281	ビット	D8	10YR3/2黒褐色粗砂、炭多	中世土師器小片				
SP	282	ビット	D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂	中世土師器小片				
SP	283	ビット	D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂、やや粘性、炭少し混	中世土師器小片				
SP	284	ビット	D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂	中世土師器小片			輪郭に沿って炭有り	
SP	285	ビット	D7	記録せず				浅い	北西30cmの遺構面から出土した白磁皿完形品を「S285北西遺構面」として取り上げ→S327に伴う
SP	286	ビット	D7	10YR2/2黒褐色粗砂、炭極めて多					
SK	287	土坑	D8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				浅い、楕円形	
SK	288	土坑	E7	記録せず				浅い	
SK	289	ビット	E7	東、10YR4/2灰黄褐色粗砂、西、10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				2基のビット	
SP	290	ビット	E7	記録せず				浅い、遺構ではない可能性も高い	
SP	291	ビット	E7	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SD	292	溝	E7	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SK	293	土坑	D8	10YR3/3暗褐色粗砂	中世土師器、平瓦		43		
SP	294	ビット	E8	10YR4/2灰黄褐色粗砂、炭少し混					
SP	295	ビット	D8・E8	10YR4/2灰黄褐色粗砂				浅い、すぐに礫が露出	
SP	296	ビット	E8	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SP	297	ビット	E8	記録せず				浅い	
SP	298	ビット	E8	10YR3/2黒褐色粗砂、炭多	中世土師器小片				

第29表 2区遺構一覧表(2)

遺構 記号	遺構 番号	遺構種別	1／20図区画	埋土等	出土遺物	図版	挿図	説明・留意事項等	備考
SP	299	ビット	E8	10YR4/2灰黄褐色粗砂、炭混	土師器杯、瓦器 椀等				
欠番	300							浅い、記録せず欠番とする	
SK	301	土坑	E8	10YR4/2灰黄褐色粗砂、上面 に炭多	中世土師器、石 鍋やや多		43		
SK	302	土坑	E8	2.5Y4/2暗灰黄色粗砂					
SP	303	ビット	C8・D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂	中世土師器小片			東S303A、西S303B、埋土はいずれも 同じ	
欠番	304							浅い、記録せず欠番とする	
SP	305	ビット	D8	2.5Y5/3黄褐色粗砂					
SP	306	ビット	D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				上面で拳大の角礫2点出土	
SP	307	ビット	D8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	中世土師器小片				
SP	308	ビット	D8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂					
欠番	309							浅い、記録せず欠番とする	
SP	310	ビット	B9	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				石を含むが根石とは確定できず	
SP	311	ビット	B9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				根石あり、建物2柱穴	
SP	312	ビット	B10	記録せず				浅い	
SP	313	ビット	C9	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				根石あり、建物1柱穴	
SP	314	ビット	C10	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂				石を含むが根石とは確定できず	
SP	315	ビット	C8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				礎石、建物2柱	
SP	316	ビット	C9	2.5Y5/2暗灰黄色粗砂	白磁水注把手			白磁水注把手出土	
SP	317	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂	土師器皿完形			建物2柱穴と考えられるが根石なし。	ビット北西の遺構面から出土 した土師器等を「S317・238 間遺構面」遺構面として取り 上げ
SP	318	ビット	C9	10YR5/2灰黄褐色粗砂	中世土師器小片				
SP	319	ビット	C9	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	中世土師器小片			建物1基増外	
SP	320	ビット	C9	掘方2.5Y6/4にぶい黄色粘質 砂、柱痕10YR5/3にぶい黄褐 色砂	中世土師器小片			S270下層で検出	
SP	321	ビット	D9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				S270下層で検出	
SP	322	ビット	D9	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂				S270下層で検出、輪郭不明瞭	
SW	323	石垣	D9	裏込めは土層図参照		20	41		
SP	324	ビット	C9	10YR4/2灰黄褐色粗砂	土師器、滑石製 品等			根石あり、建物1柱穴	
SK	325	土坑	D8・E8	上層10YR4/4褐色粗砂、下層 10YR5/4にぶい黄褐色粗砂			43	楕円形	
SP	326	ビット	C9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				楕円形、浅い。周辺の盛土との区別 が難しい。小石まばらに出土	
SP	327	ビット	D7	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	鉄釘小片				
SP	328	ビット	C8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	329	ビット	C8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	330	ビット	C8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	331	ビット	D7	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SX	332	包含層	D10	2.5Y6/2灰黄褐色粗砂				近世の包含層。段状になる。	
SX	333	包含層	D9・D10・E9					2区下段の包含層	
SP	334	ビット	2面D9	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	335	ビット	2面D9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	336	ビット	2面D9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	337	ビット	2面D9	10YR4/2灰黄褐色粗砂				埋土に10cm大角礫混	
SP	338	ビット	2面D9	10YR4/3にぶい黄褐色粘質砂					
SP	339	ビット	2面D9	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	340	ビット	2面D9	10YR5/3にぶい黄褐色粘質砂					
SP	341	ビット	2面D9	10YR5/3にぶい黄褐色粘質砂					
SK	342	ビット	2面D9	上層10YR5/6黄褐色粘質砂 (炭混)、下層10YR4/3にぶ い黄褐色粘質砂	中世土師器小片 極少量			輪郭はやや不明瞭	
SP	343	ビット	2面D9	10YR5/2灰黄褐色粗砂(炭少 し混)					
SP	344	ビット	2面D9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	345	ビット	2面D9	10YR4/2灰黄褐色粗砂(炭少 し混)				底面中央の小ビットは掘りすぎ	
SP	346	ビット	2面C9	10YR5/2にぶい黄褐色粘質砂				浅い、しっかりした穴ではない	
SP	347	ビット	2面C9	10YR5/3にぶい黄褐色粘質シ ルト					
SP	348	ビット	2面C9	10YR5/2にぶい黄褐色粘質砂					
SP	349	ビット	2面C8・C9	10YR6/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	350	ビット	2面C9	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SP	351	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	352	ビット	2面D8	10YR5/2灰黄褐色粗砂					
SK	353	土坑	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂				土坑状だが浅い。遺物少ない。	
SP	354	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	355	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	356	ビット	2面D8	10YR6/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	357	ビット	2面D8・D9	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SP	358	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	359	ビット	2面D8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	360	ビット	2面D8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂 (炭混)				遺物少ない。	
SP	361	ビット	2面D8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	362	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	363	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	364	ビット	2面D8	10YR6/6明黄褐色粗砂					
SP	365	ビット	2面D8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	366	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	367	ビット	2面D8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	368	ビット	2面D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂	中世土器小片の み				
SP	369	ビット	2面D8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂	黒色土器口縁部 極小片				
SK	370	土坑	2面D8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂 (炭混)				方形の土坑状。浅く、遺物少ない。	
SP	371	ビット	2面D8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	372	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	373	ビット	2面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂 (炭混)					
SP	374	ビット	2面D8	10YR5/6にぶい黄褐色粗砂 (炭混)					
SP	375	ビット	2面D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂(炭 混)					

第 30 表 2 区遺構一覧表（3）

遺構 記号	遺構 番号	遺構種別	1／20図区画	埋土等	出土遺物	図版	挿図	説明・留意事項等	備考
SP	376	ビット	2 面D8	10YR4/3にぶい黄褐色粗砂 (炭混)					
SP	377	ビット	2 面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	378	ビット	2 面D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂 (炭 混)					
SK	379	土坑	2 面D8	炭が一面に充填			43	長方形の土坑状で、床面には石を敷く	
SP	380	ビット	2 面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	381	ビット	2 面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	382	ビット	2 面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	383	ビット	2 面D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂 (炭 混)					
SP	384	ビット	2 面D8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	385	ビット	2 面D7・D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
欠番	386							浅い、記録せず欠番とする。	
SP	387	ビット	2 面D7	記録せず				浅い、埋土等記録せずに掘り上げ	
SP	388	ビット	2 面D7	記録せず				浅い、埋土等記録せずに掘り上げ	
SP	389	ビット	2 面D7	記録せず				浅い、埋土等記録せずに掘り上げ	
SP	390	ビット	2 面D9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	391	ビット	2 面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	392	ビット	2 面D8	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SP	393	ビット	2 面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	394	ビット	2 面D8	記録せず				浅い、埋土等記録せずに掘り上げ	
SP	395	ビット	2 面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂 (炭混)					
SP	396	ビット	2 面D8・E8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂 (炭混)	土師器杯大形破片				
SP	397	ビット	2 面E8	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	398	ビット	2 面E8	10YR4/2灰黄褐色粗砂					
SP	399	ビット	2 面D8	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	400	ビット	2 面	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	401	ビット	2 面	10YR6/2灰黄褐色粗砂					
SP	402	ビット	2 面	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	403	ビット	C9						
欠番	404								
欠番	405								
SP	406	ビット	C9	個別図参照	筒型土師器	19	34	絛筒に似た筒型土師器出土	
SP	407	ビット	B10						
SP	408	ビット	B9・C9						
SP	409	ビット	B9・C9						
SP	410A	ビット	B10						
SX	410B	落ち込み	3 面	10YR5/6黄褐色シルト	遺物無し				
SX	411	落ち込み	3 面	10YR5/6黄褐色シルト	縄文土器小片				
SX	412	落ち込み	3 面	10YR6/4にぶい黄褐色粗砂	遺物無し				
SX	413	包含層	2 面B9・ B10・C9・C10	土層図参照				建物 1・2 基壇の南～西の包含層。	
SK	414	土坑	2 面C10	土層図参照			39		
欠番	415								
欠番	416								
欠番	417								
SU	418	遺物集中部	2 面C9	土層図参照		19	34	1 号建物跡基壇西の遺物集中部	
SS	419	石列	B10					調査区の西側にある基壇の石列か	
欠番	420							S421石列の上部、乱雑に石が堆積していたので除去	
SS	421	石列	B8・B9					建物 2 基壇石列西側。S413西部、S418の上層にあたる	
SS	422	石列	B8・C8	土層図参照				建物 2 基壇石列北側、土層図有り	
SS	423	石列 (地覆石)	B9					建物 2 北西部地覆石	
SK	424	土坑	D10・E10			21	49	2 区南拡張区。大形の石を投棄した土坑	
SP	425	ビット	B9	土層図参照				建物 2 柱穴、礎石・根石あり。	
SP	426	ビット	B9	土層図参照				建物 2 柱穴、礎石・根石あり。	
SP	427	ビット	C9	土層図参照				建物 2 柱穴、礎石・根石あり。S430の南。	
SP	428	ビット	B9	土層図参照				建物 2 柱穴、礎石・根石あり。	
SX	429	包含層	B8・B9	土層図参照				S421石列の堀方	
SP	430	ビット	B9・C9	土層図参照				建物 2 柱穴、礎石・根石あり。	
SX	431	包含層	D11	記録せず					
SP	432	ビット	D10	記録せず					
SP	433	ビット	D10	記録せず					
SP	434	ビット	D10	記録せず					
SP	435	ビット	2 面C10	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂	瓦器碗底部片				
SP	436	ビット	2 面C10	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂					
SP	437	ビット	2 面B9	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂					
SP	438	ビット	2 面B9・C9	10YR5/2灰黄褐色粗砂					

图 版



1. 原遺跡 18 次調査区全景 (南上空から)



2. 原遺跡 18 次調査区全景 (南上空から)



3. 1 区北半全景 (南上空から)



1. 1区北半全景（北上空から）



2. 1区北東部平坦面完掘状況（北上空から）



3. 1区北東部平坦面完掘状況（上空から）



1. 1区北半全景（上空から）



2. 1区南半全景（上空から）



1. 1区南東部平坦面完掘状況（上空から）



2. 1区南西部平坦面完掘状況（上空から）



3. SW14 石垣（東から）



1. SW14 全景 (南西から)



2. SW14 東半部 (南西から)



3. SW14 (東から)



4. SW63 (西から)



1. SW63 (南から)



2. SW14 断面 (南東から)



3. SW122 断面 (南東から)



1. SW122 (東から)



2. SW208 (南西から)



3. SW208 背後の整地層 (西から)



1. SK3 (南から)



2. SK29 (北から)



3. SK47 (南から)



4. SK60 (南から)



1. SK77 (南から)



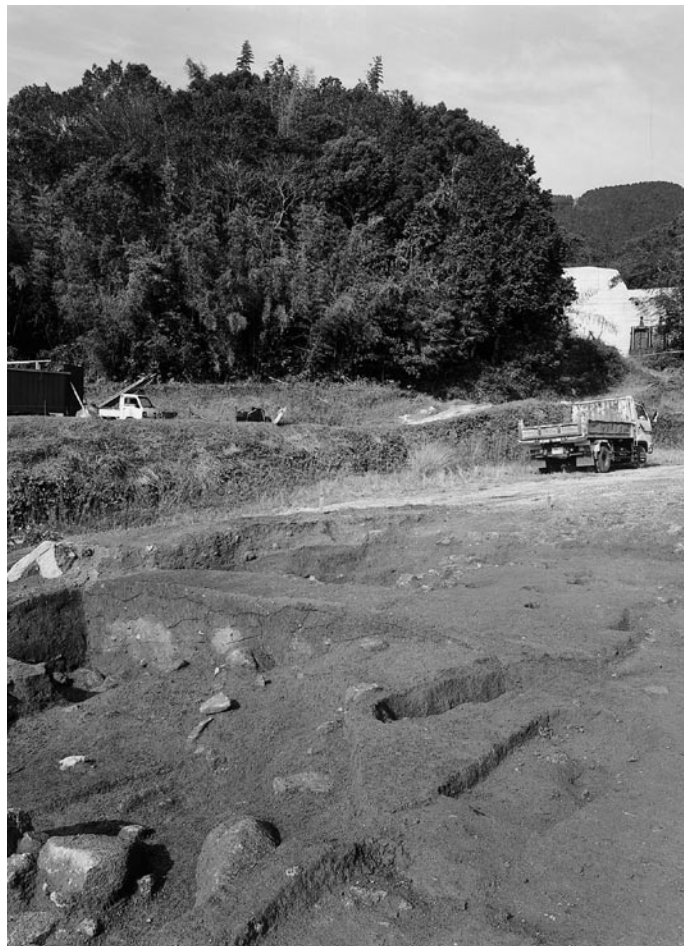
2. SK77 北西部上面遺物出土状況 (北西から)



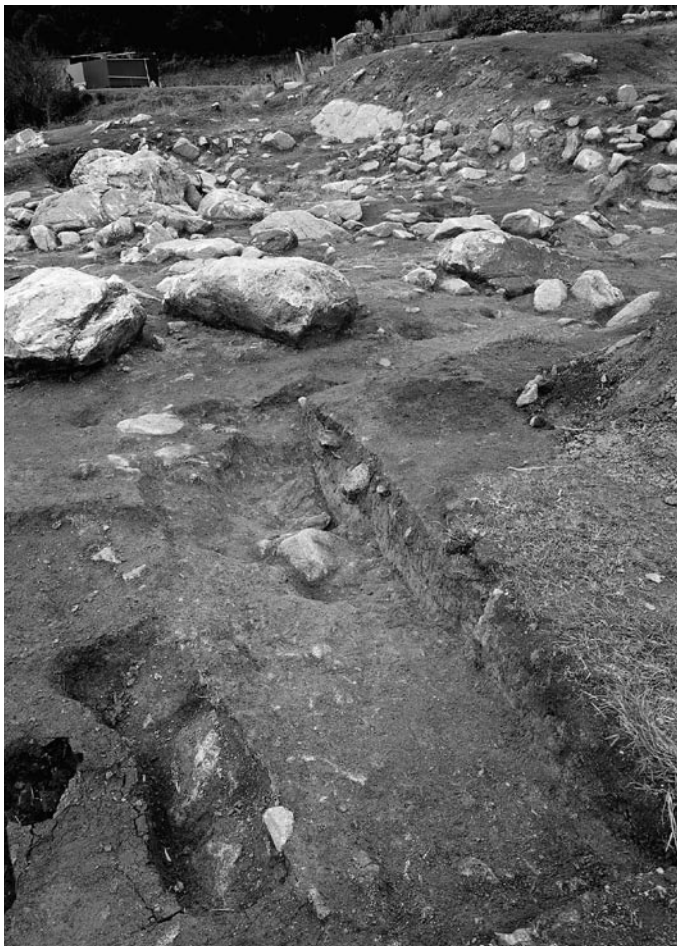
3. SK126 (北から)



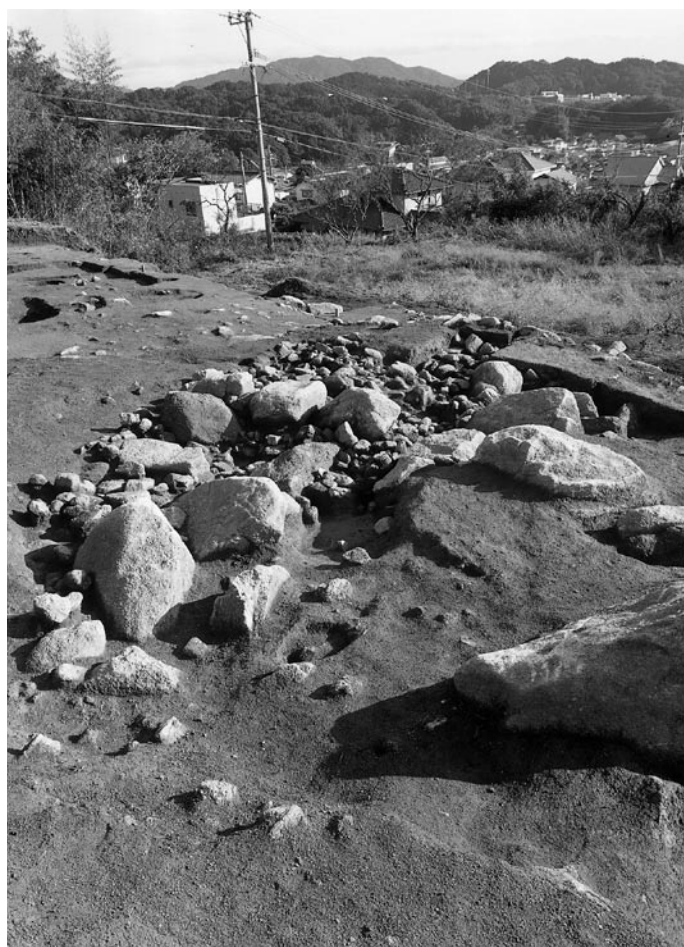
4. SK194 (北東から)



1. SX66 (南東から)



2. SX76 南部 (東から)



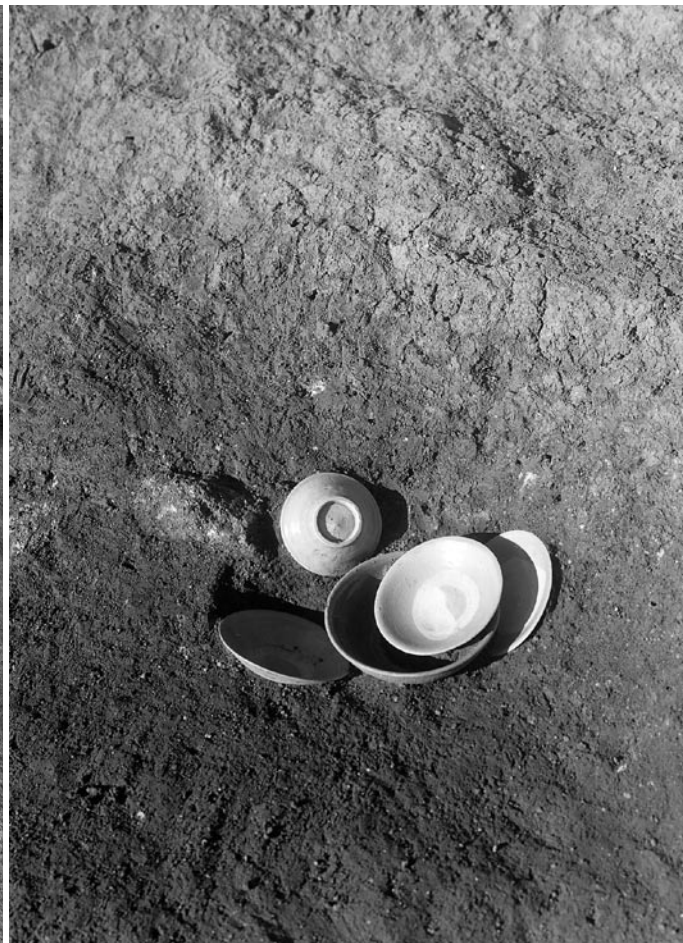
3. SX108 (北西から)



4. SX121 (北西から)



1. ST97 (北から)



2. ST97 北側遺物出土状況 (南から)



3. 2区第1面完掘 (東から)



4. 2区第1面完掘 (北東から)



1. 2区第1面完掘状況（上空から）



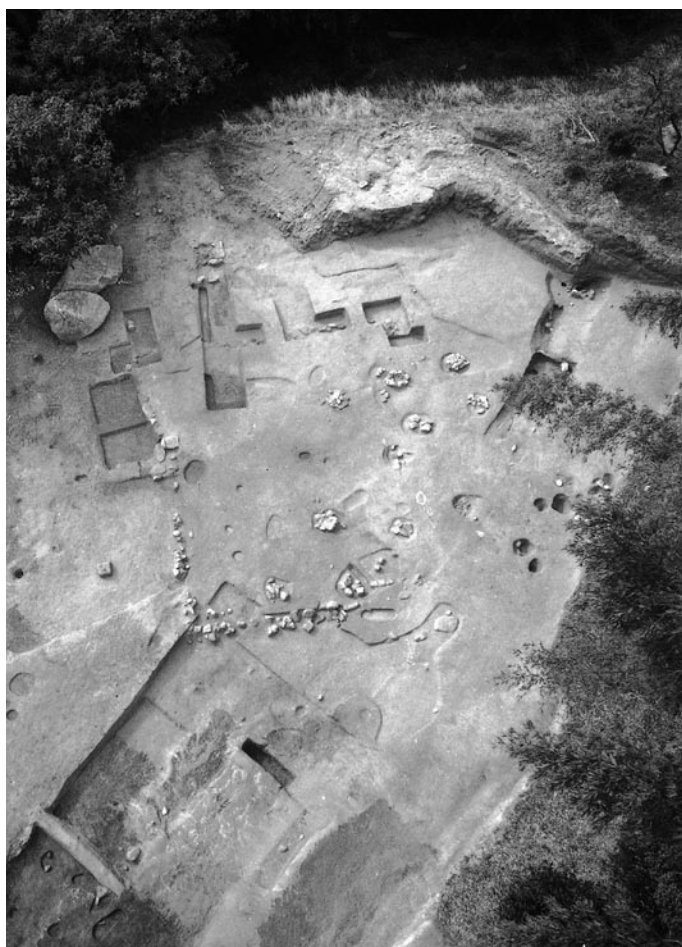
2. 2区第1面完掘（東から）



1. 2区第2面完掘状況（東から）



2. 2区第2面完掘状況（東北から）



3. 1・2号建物跡検出状況（上空から）



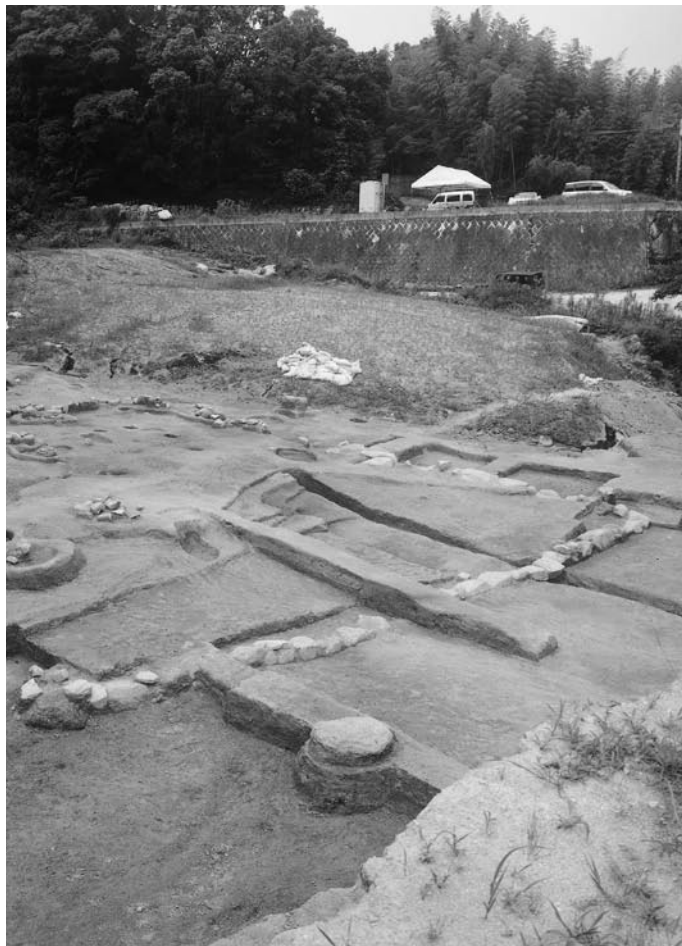
4. 2区南西壁土層



1. 2号建物跡（北から）



2. 2号建物跡（西から）



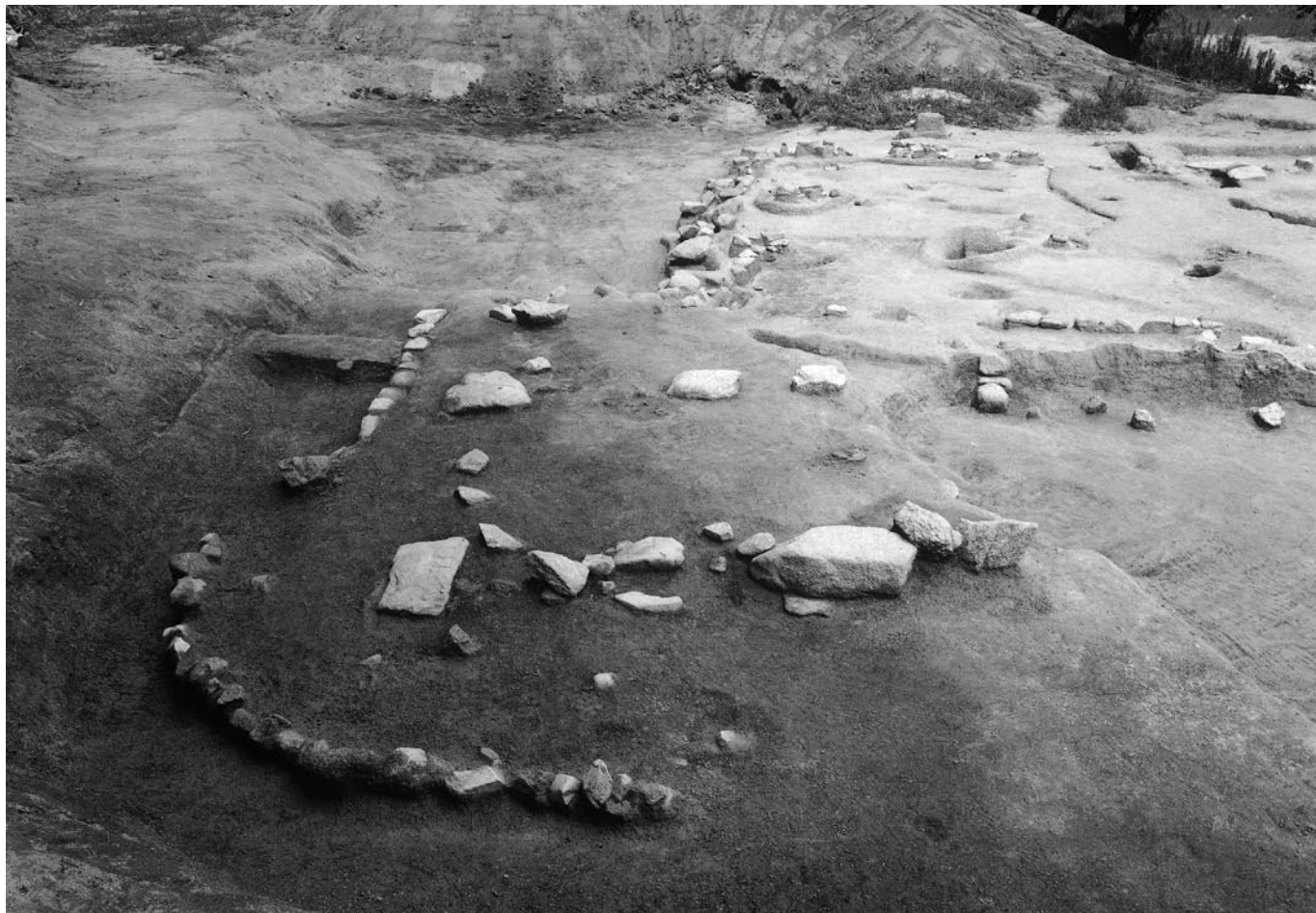
1. 2号建物跡基壇南石列（南西から）



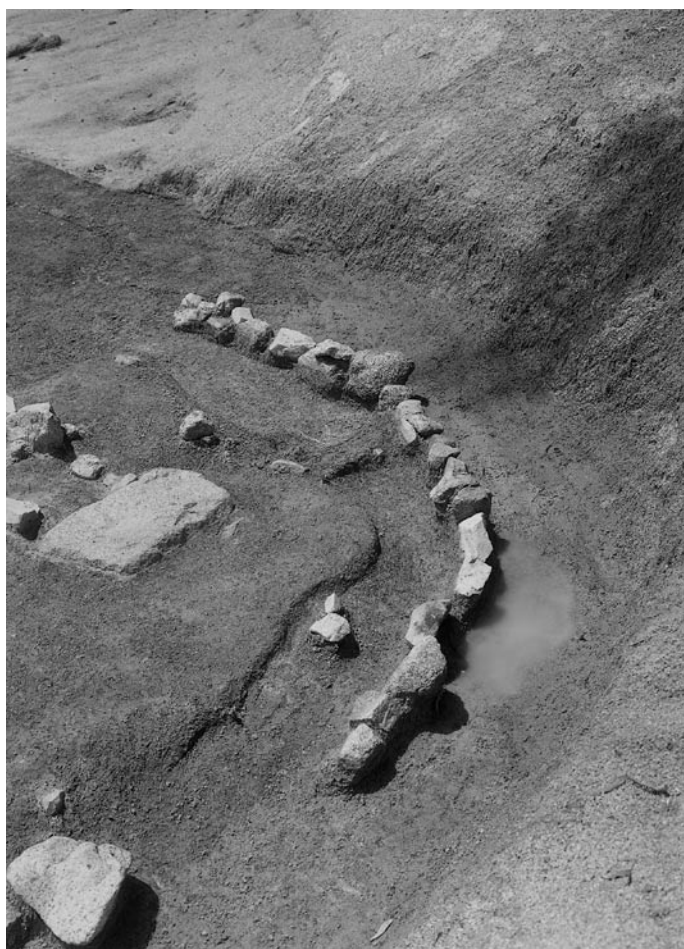
2. 2号建物跡北西隅上層（北から）



3. 2号建物跡北西隅（北東から）



1. 2号建物跡北西隅（西から）



2. 2号建物跡基壇列石北西隅（北東から）



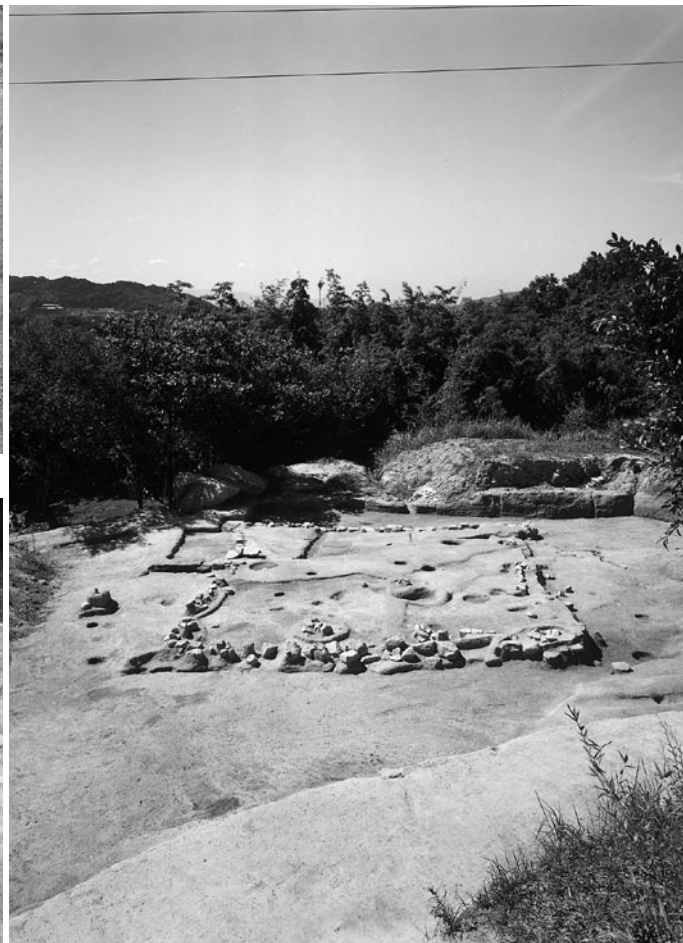
3. 2号建物跡基壇南前面埋土堆積状況（北西から）



1. 1号建物跡基壇北外土層（東から）



2. 1号建物跡基壇西外土層（南から）



3. 1号建物跡（北から）



4. 1号建物跡（北から）



1. 1号建物跡（北東から）



2. 1号建物跡（西から）



1. SS251 西端ピット土層（東から）



2. SS251 西端ピット壺出土状況（東から）



3. SP406 土器出土状況（西から）



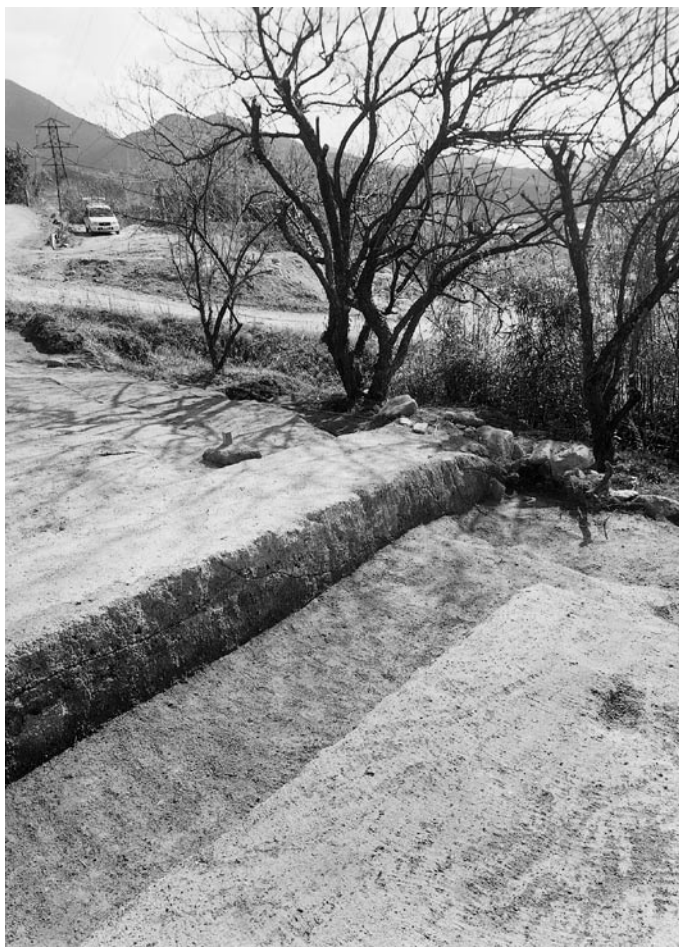
4. SU418 土器出土状況（北から）



1. SW323 (南西から)



2. SX269 土層北半 (南西から)



3. SX269 土層南半 (南西から)



1. 2区板碑（南から）



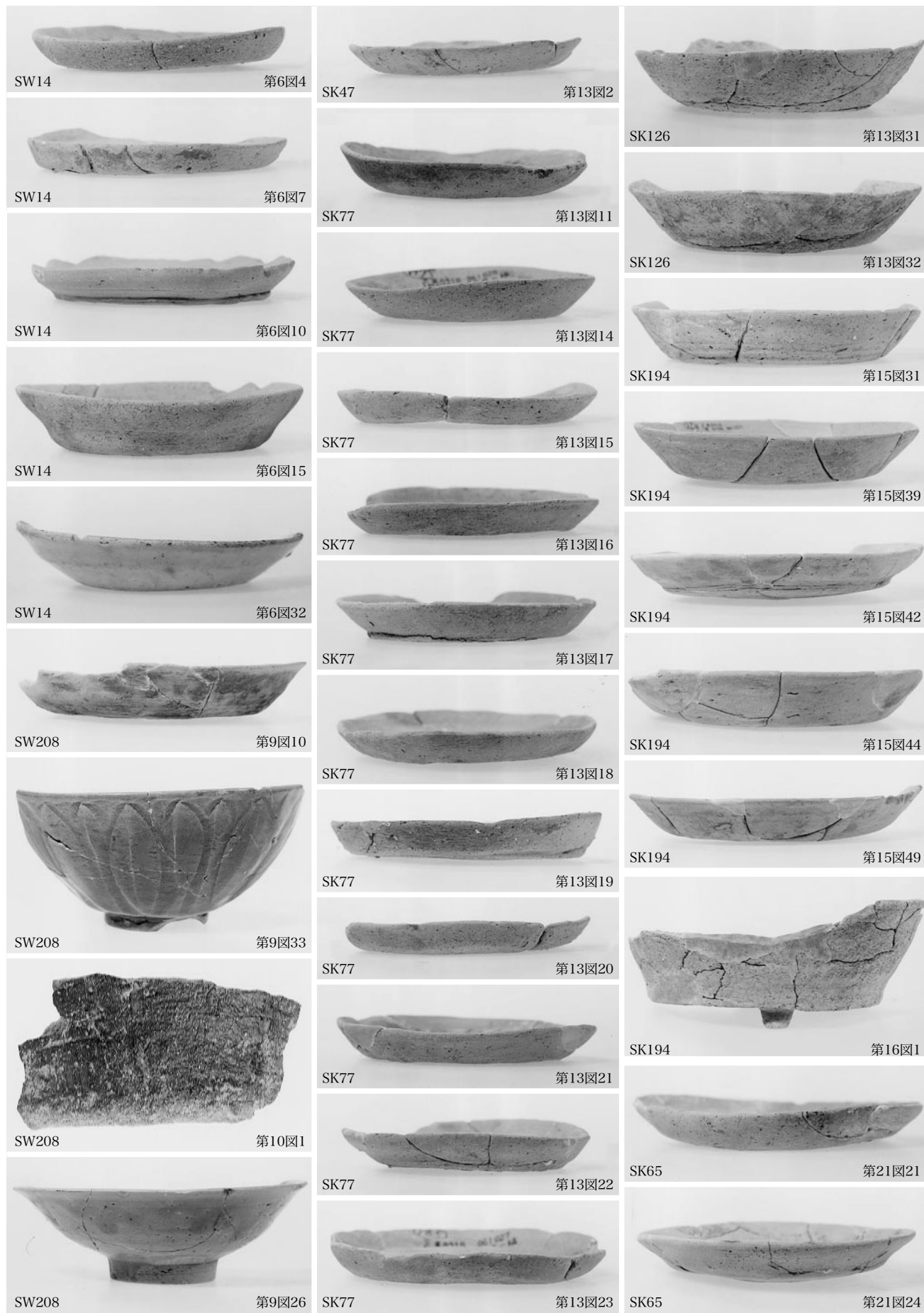
2. 2区板碑（南東から）



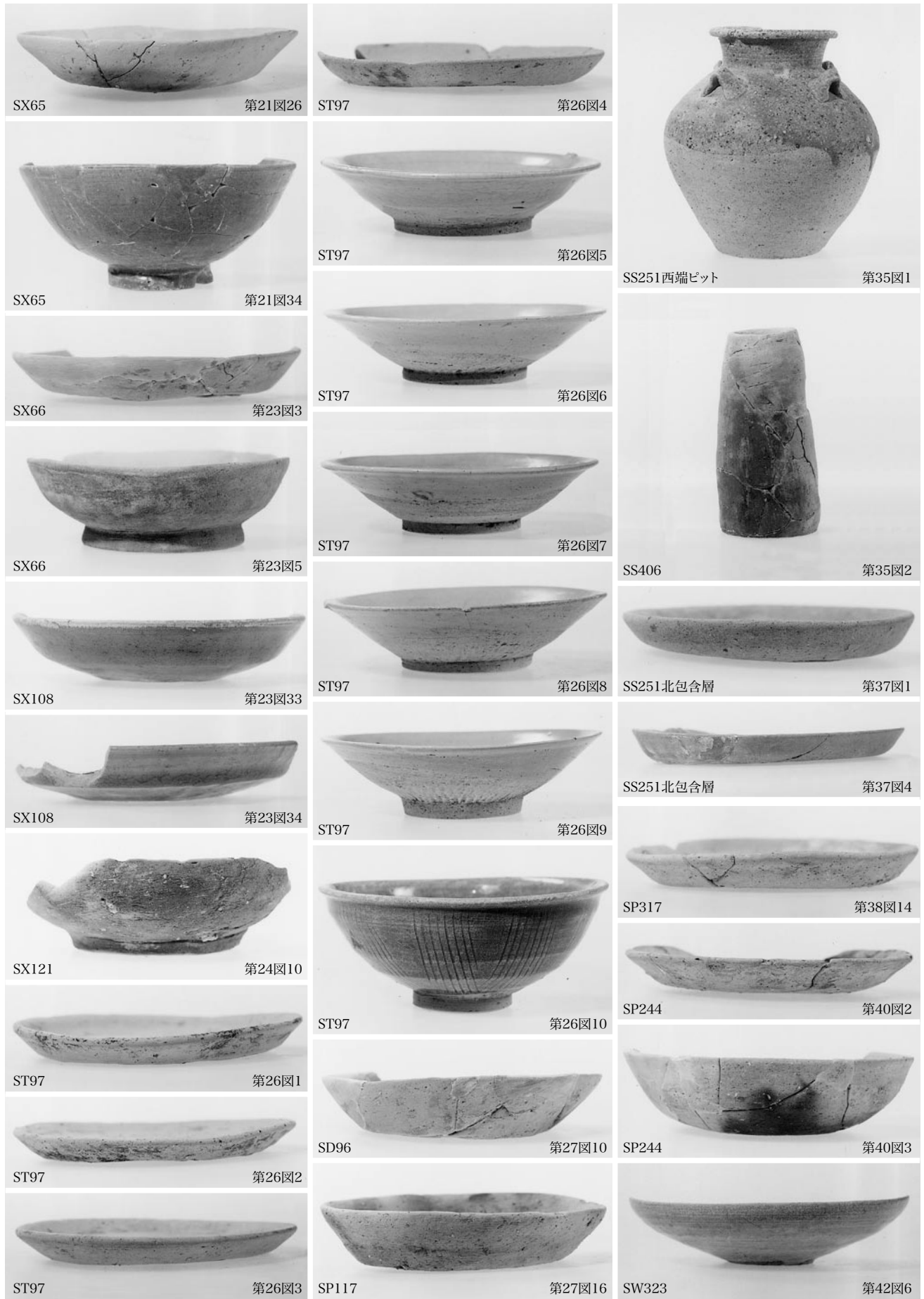
3. 2区板碑掘下げ（南東から）



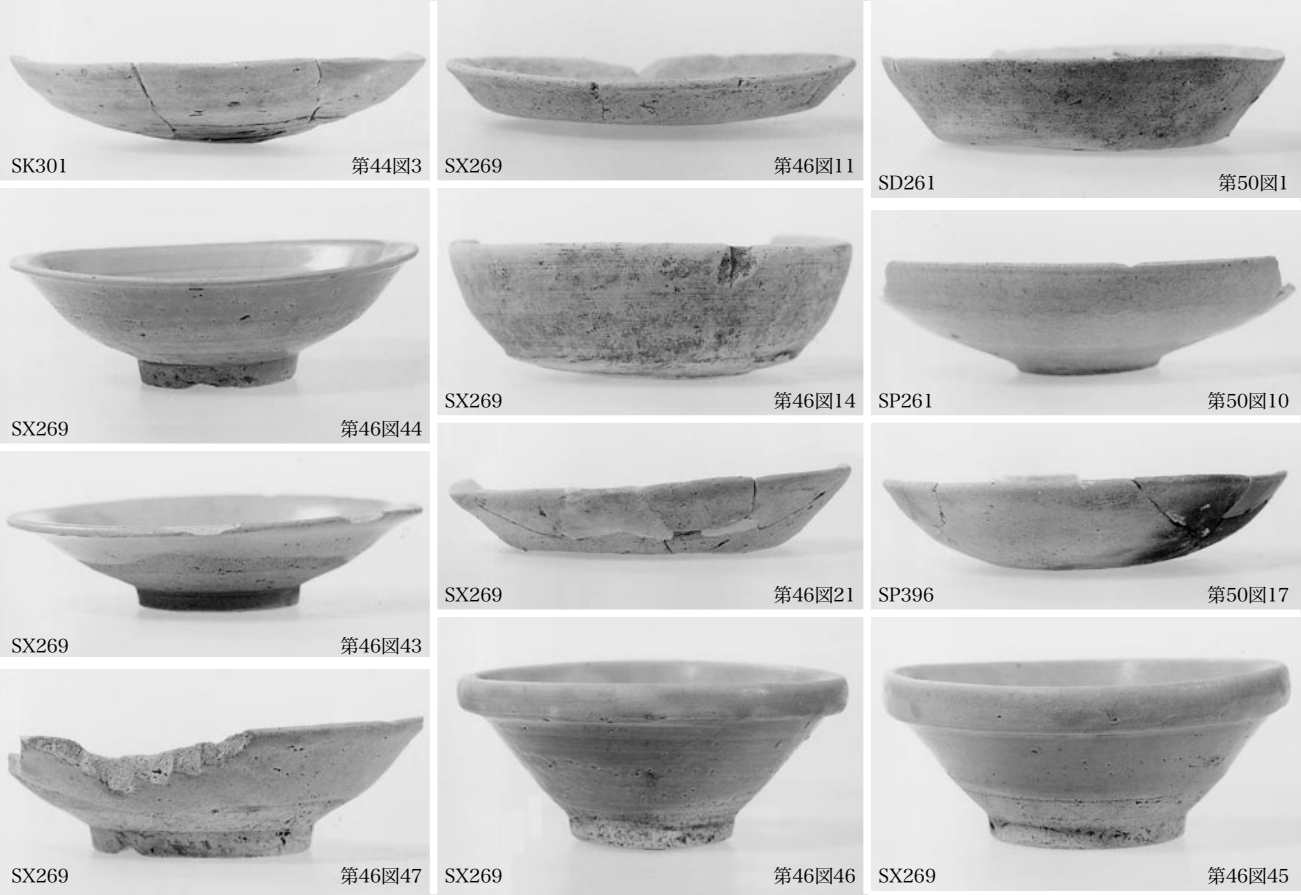
4. SX424（西から）



出土土器・陶磁器（1）



出土土器・陶磁器（2）



1. 出土土器・陶磁器 (3)



2. 鉄器



3. 縄文土器



4. 石器

報告書抄録

ふりがな	はらいせき18じ						
書名	原遺跡18次						
副書名	原川砂防事業関係埋蔵文化財発掘調査報告						
巻次数							
卷次数	福岡県文化財調査報告書						
シリーズ番号	第219集						
編著者名	重藤 輝行						
編集機関	福岡県教育委員会						
所在地	〒812-8575 福岡県福岡市博多区東公園7-7 TEL 092-643-3875						
発行年月日	平成20年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		緯度・経度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
はらいせき 18 じ 原遺跡18次	ふくおかけん だざいふ し おおあぎ 福岡県太宰府市大字 だざいふ さんじょう1ちょうめ 太宰府、三条1丁目	40221		北緯 33°31'02" 東経 130°32'26"	20060803～ 20070323 20070619～ 20070823	1区 約1,300㎡ 2区 約1,000㎡ 計 約2,300㎡	原川筋4号 砂防堰堤 (激甚災害特 別事業)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
原遺跡18次 1区	寺院	平安～鎌倉時代 (12～13世紀)	○石垣 ○土坑 ○溝 ○包含層・整地層 ○墓(木棺墓?) ○ピット多数	○中世土師器 ○瓦器 ○陶磁器(白磁・青磁等) ○滑石製石鍋片 ○鉄器			梵字板碑は「正平廿三年」の紀年銘あり
原遺跡18次 2区	寺院	平安～室町時代 (11～14世紀)	○礎石建物跡2棟とその基壇 ○石垣 ○土坑 ○ピット多数 ○梵字板碑	○中世土師器 ○瓦器 ○陶磁器(白磁・青磁、黄褐釉陶器壺等) ○滑石製石鍋片 ○鉄器			
要約	本調査は、平成15年7月19日、福岡県地方を襲った豪雨災害により土石流が発生した太宰府市原川筋の砂防堰堤建設に先立つ原遺跡18次の調査であり、調査地は太宰府市大字太宰府・三条1丁目に所在する。原遺跡は、中世に栄えた原山無量寺(原八坊跡)の推定地に相当する。 発掘調査は、原川の東岸を1区、西岸を2区とした。1区では、寺院の敷地造成に伴い、盛土・切土で平坦面をつくり、法面に石垣をつくことが判明した。平坦面は大きく4個所に分かれ、それぞれ、土坑・溝・ピット等の遺構が検出されている。明確な建物跡はなかったが、12～13世紀を中心とするものと判断される。 2区は原山無量寺推定地であるとともに、特別史跡大野城跡史跡指定地内に位置する。2区では、3×3間、4×4間と推定される2期の礎石立建物跡とその基壇が検出され、原山無量寺を構成する小規模な堂宇と推定される。出土した土師器、黄褐釉陶器壺から、その創建期は11世紀後半にまで遡る可能性が高い。他に、12世紀を中心とする包含層、ピット、土坑等がある。 また、2区の調査では、かねてより存在が知られていた「正平廿三年」(1368)銘梵字板碑の発掘調査、取り上げをおこなった。						

福岡県行政資料

分類記号 J H	所属コード 2 1 3 3 0 5 1
登録年度 1 9	登録番号 1 1

原 遺 跡 18 次

福岡県文化財調査報告書第 219 集

平成 20 年 3 月 31 日

発行 福岡県教育委員会

福岡県福岡市博多区東公園 7 番 7 号

印刷 文化印刷株式会社

福岡県北九州市小倉北区井堀 3 丁目 18-16